

OKITEN 2018

沖展

70<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY  
EXHIBITION

|            |                |
|------------|----------------|
| 絵 画        | Fine Art       |
| 版 画        | Print          |
| 彫 刻        | Sculpture      |
| グラフィックデザイン | Graphic Design |
| 書 芸        | Calligraphy    |
| 写 真        | Photograph     |
| 工 芸〔陶 芸〕   | Pottery        |
| 工 芸〔漆 芸〕   | Lacquer Ware   |
| 工 芸〔染 色〕   | Dyeing         |
| 工 芸〔織 物〕   | Weaving        |
| 工 芸〔ガラス〕   | Glass Ware     |
| 工 芸〔木工芸〕   | Woodwork       |

会期/2018年3月21日(水・祝)～4月8日(日) 会場/浦添市民体育館

OKITEN 2018  
**沖展**

**70<sup>th</sup>**  
ANNIVERSARY  
EXHIBITION

## 第70回「沖展」

2018年の今年、沖展は70回の節目を迎えることができました。これもひとえに“春を彩る美の祭典”を楽しみにご来場いただいたみなさまと、会場を提供していただく浦添市や浦添市教育委員会、同展にご支援くださる協賛各社、そして沖展会員・準会員、応募される美術・工芸家の多くのみなさまのおかげです。本当にありがとうございます。

沖縄タイムス社は今年7月に創刊70年を迎えます。社の歴史とともに歩むように、創刊1周年を記念して沖展を立ち上げた先人たちは、70年も続く沖展をどうご覧になるでしょうか。沖縄の美術・工芸分野の振興を通して、沖縄戦で荒廃した社会を文化の力で支え、復興させようという草創期の志に対し、この文化運動が一定、県民の誇りと自信につながり、沖縄の発展に役立ってきたのではないかと自負しております。

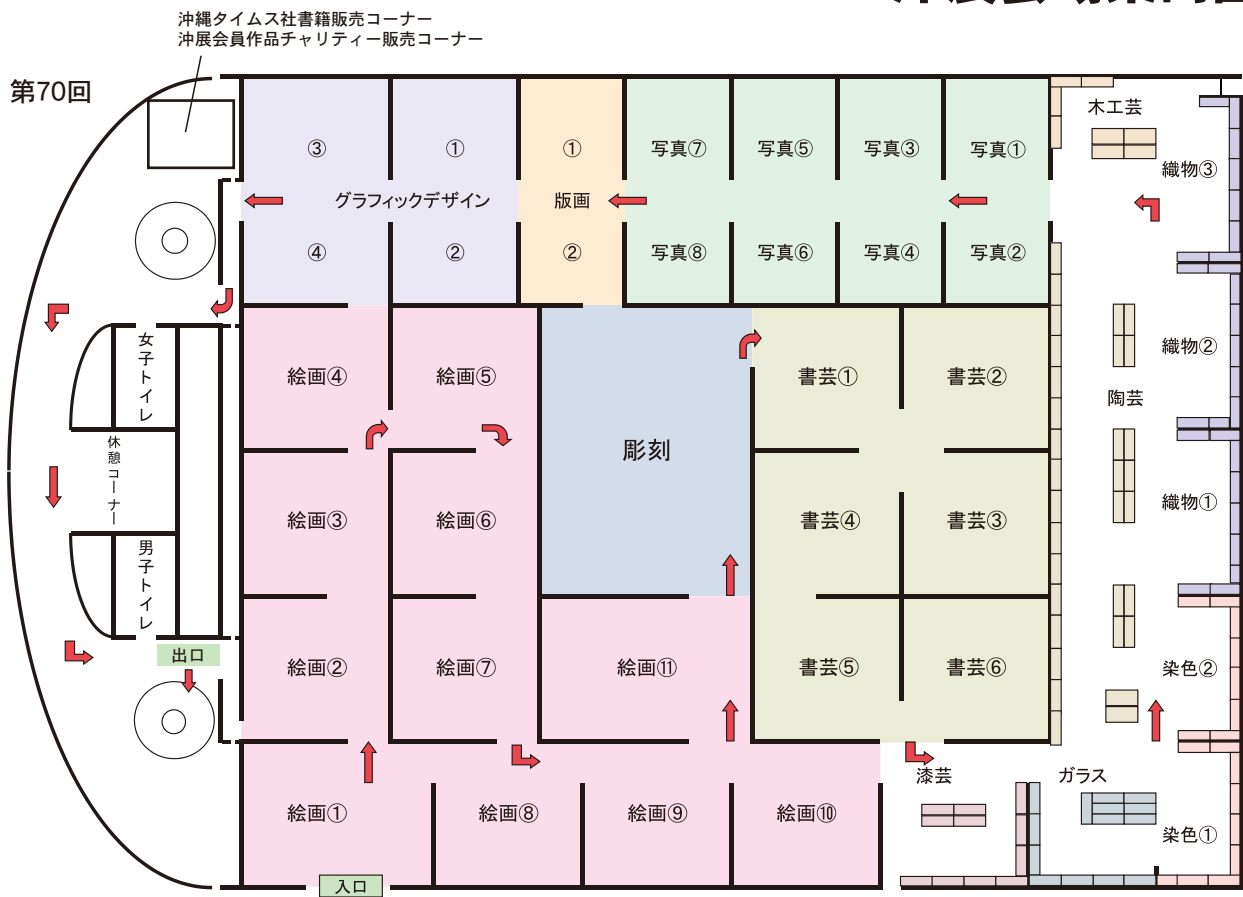
一方で、半世紀を超え、30年後の100回展を見すえたとき、新しい時代に向かって何をなすべきかという問いも投げかけられているようで、身の引き締まる思いです。

第70回展には、一般応募作975点の中から入賞・入選した566点と、沖展会員・準会員の作品を合わせた合計826点が会場に展示されました。記念展に当たっては、より多くの方にご観覧いただこうと会期を3日延ばし19日間の開催としました。次代を担う子どもたちを意識して、創作や表現のおもしろさを体験してもらおうと沖展アートフェスティバルも企画しました。本展では69回展に引き続き、来場者がお気に入りの作品を選ぶ「沖展みんなの1点賞」を実施します。個々の作品に込められた作者の思いやエネルギーを感じ取っていただければ幸いです。

最後に、今後も作り手の意欲をかき立て、同時に来場者をはじめ多くのみなさまに愛される沖展として発展できるよう努めてまいります。引き続き、関係各位のご支援、ご協力を衷心よりお願いいたします。

**沖縄タイムス社**

沖展会場案内図



体育館 1 階ロビー  
「全琉小、中、高校図画・作文・書道コンクール浦添秀作展」

第70回「沖展」審査結果

| 部 門        |     | 一 般 応 募     |     |     |        |        |           |     | 準 会 員       |           |      |     | 会 員 |             |      | 総 合 計 |             |
|------------|-----|-------------|-----|-----|--------|--------|-----------|-----|-------------|-----------|------|-----|-----|-------------|------|-------|-------------|
|            |     | 応募点数(人数)    | 冲展賞 | 奨励賞 | 浦 添市長賞 | うるま市長賞 | e-no株式会社賞 | 入 選 | 計           | 応募点数(人数)  | 準会員賞 | 他展数 | 計   | 会員点数(人数)    | 特別展示 | 計     | (総展示数)(総人数) |
| 絵 画        |     | 155点 (155人) | 1   | 3   | 1      | 1      | 1         | 80  | 87点 (87人)   | 21点 (21人) | 2    | 19  | 21点 | 30点 (30人)   | 1    | 31点   | 139点 (139人) |
| 版 画        |     | 10点 (9人)    | 0   | 1   | 1      | 1      | 1         | 4   | 8点 (8人)     | 6点 (4人)   | 1    | 5   | 6点  | 10点 (10人)   | 0    | 10点   | 24点 (22人)   |
| 彫 刻        |     | 23点 (22人)   | 1   | 1   | 1      | 1      | 1         | 11  | 16点 (16人)   | 5点 (5人)   | 0    | 5   | 5点  | 16点 (15人)   | 1    | 17点   | 38点 (37人)   |
| グラフィックデザイン |     | 48点 (37人)   | 1   | 2   | 1      | 1      | 1         | 35  | 41点 (34人)   | 7点 (5人)   | 1    | 6   | 7点  | 15点 (11人)   | 0    | 15点   | 63点 (50人)   |
| 書 芸        |     | 267点 (267人) | 1   | 4   | 1      | 1      | 1         | 181 | 189点 (189人) | 30点 (30人) | 3    | 27  | 30点 | 37点 (37人)   | 0    | 37点   | 256点 (256人) |
| 写 真        |     | 300点 (165人) | 1   | 3   | 1      | 1      | 1         | 80  | 87点 (70人)   | 6点 (6人)   | 1    | 5   | 6点  | 12点 (12人)   | 1    | 13点   | 106点 (89人)  |
| 工 芸        | 陶 芸 | 68点 (52人)   | 1   | 2   | 1      | 1      | 1         | 39  | 45点 (42人)   | 3点 (3人)   | 0    | 3   | 3点  | 12点 (12人)   | 1    | 13点   | 61点 (58人)   |
|            | 漆 芸 | 8点 (8人)     | 0   | 1   | 1      | 1      | 0         | 5   | 8点 (8人)     | 3点 (3人)   | 2    | 1   | 3点  | 9点 (8人)     | 0    | 9点    | 20点 (19人)   |
|            | 染 色 | 22点 (20人)   | 0   | 3   | 1      | 1      | 1         | 12  | 18点 (18人)   | 1点 (1人)   | 1    | 0   | 1点  | 6点 (6人)     | 0    | 6点    | 25点 (25人)   |
|            | 織 物 | 23点 (22人)   | 0   | 3   | 1      | 1      | 0         | 15  | 20点 (20人)   | 4点 (4人)   | 0    | 4   | 4点  | 11点 (11人)   | 0    | 11点   | 35点 (35人)   |
|            | ガラス | 31点 (26人)   | 1   | 3   | 1      | 1      | 0         | 25  | 31点 (26人)   | 3点 (2人)   | 0    | 3   | 3点  | 5点 (4人)     | 0    | 5点    | 39点 (32人)   |
|            | 木工芸 | 20点 (17人)   | 1   | 3   | 1      | 1      | 1         | 9   | 16点 (14人)   | 3点 (3人)   | 2    | 1   | 3点  | 1点 (1人)     | 0    | 1点    | 20点 (18人)   |
| 合 計        |     | 975点 (800人) | 8   | 29  | 12     | 12     | 9         | 496 | 566点 (532人) | 92点 (87人) | 13   | 79  | 92点 | 164点 (157人) | 4    | 168点  | 826点 (780人) |



## 第70回「沖展」の日程

■会 期:2018年3月21日(水・祝)～4月8日(日) 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

■会 場:浦添市民体育館

●開会式 3月21日(水・祝)午前9時30分 浦添市民体育館入口

●表彰式 3月24日(土)午後4時30分 浦添市てだこホール大ホール

●合同祝賀会 3月24日(土)午後6時 浦添市てだこホール市民交流室

## 第42回「沖展」うるま市選抜展

■会 期:2018年4月12日(木)～18日(水) 午前10時～午後6時

■会 場:うるま市生涯学習・文化振興センター(入場無料)

## 「沖展」併催イベント

| 日 程   |     | 作品解説会<br>場所:浦添市民体育館展示会場内                        | 併催事業<br>場所:体育館下の1階ロビー・屋外イベント会場・浦添市てだこホール・浦添市多目的屋内運動場    |
|-------|-----|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 3月21日 | (水) | 【絵 画】11時～<br>【漆 芸】14時～<br>【書 芸(前期)】15時30分～      | ■第70回「沖展」開会式<br>9時30分～ 浦添市民体育館(沖展会場入口)                  |
| 3月22日 | (木) |                                                 |                                                         |
| 3月23日 | (金) |                                                 |                                                         |
| 3月24日 | (土) | 【木工芸】11時～<br>【織 物】14時～                          | ■第70回「沖展」表彰式・合同祝賀会 16時30分～<br>浦添市てだこホール(大ホール・市民交流室)     |
| 3月25日 | (日) |                                                 | ■沖展アートフェスティバル<br>10時00分～ 浦添市多目的屋内運動場                    |
| 3月26日 | (月) |                                                 |                                                         |
| 3月27日 | (火) |                                                 |                                                         |
| 3月28日 | (水) |                                                 |                                                         |
| 3月29日 | (木) |                                                 |                                                         |
| 3月30日 | (金) |                                                 | ■沖展陶器市(～4月1日)<br>10～17時 体育館屋外広場                         |
| 3月31日 | (土) | 【ガラス】11時～<br>【陶 芸】14時～<br>【写 真】16時～             | ■陶芸教室(ろくろ体験・面シーサーづくり)<br>15～17時 体育館屋外広場                 |
| 4月1日  | (日) | 【グラフィックデザイン】11時～<br>【染 色】14時～<br>【書芸・後期】15時30分～ | ■写真添削会<br>10～12時 体育館1階会議室<br>■プリント教室<br>13～18時 体育館1階会議室 |
| 4月2日  | (月) |                                                 |                                                         |
| 4月3日  | (火) |                                                 |                                                         |
| 4月4日  | (水) |                                                 |                                                         |
| 4月5日  | (木) |                                                 |                                                         |
| 4月6日  | (金) |                                                 |                                                         |
| 4月7日  | (土) | 【版 画】11時～<br>【彫 刻】14時～                          |                                                         |
| 4月8日  | (日) |                                                 |                                                         |

『沖縄タイムス出版物販売』  
『沖展会員作品チャリティー販売』  
■ 期間:3/21(水・祝)～4/8(日)  
■ 会場:体育館2階  
  
『全琉図画・作文・書道コンクール  
浦添秀作展』  
■ 期間:3/21(水・祝)～4/8(日)  
■ 会場:体育館下の1階ロビー  
  
『沖縄みんなの1点賞』  
■ 投票期間:3/21(水・祝)～4/4(水)

(注)上記日程は都合により変更の場合があります。「屋外イベント」は荒天時には中止する場合があります。

---

## C O N T E N T S

|              |                |     |
|--------------|----------------|-----|
| 絵画部門         | Fine Art       | 4   |
| 版画部門         | Print          | 24  |
| 彫刻部門         | Sculpture      | 32  |
| グラフィックデザイン   | Graphic Design | 40  |
| 書芸部門         | Calligraphy    | 50  |
| 写真部門         | Photograph     | 79  |
| 工芸部門 [ 陶 芸 ] | Pottery        | 91  |
| 工芸部門 [ 漆 芸 ] | Lacquer Ware   | 101 |
| 工芸部門 [ 染 色 ] | Dyeing         | 107 |
| 工芸部門 [ 織 物 ] | Weaving        | 114 |
| 工芸部門 [ ガラス ] | Glass Ware     | 121 |
| 工芸部門 [ 木工芸 ] | Woodwork       | 128 |
| 物故会員・略歴      |                | 136 |
| 沖展のあゆみ       |                | 138 |
| 会員・準会員名簿     |                | 159 |
| 沖展会則         |                | 164 |
| 広告           |                |     |

# 絵画部門

## 総評一城間 喜宏（会員）

創設70周年を迎えた沖展は県内最大総合美術公募展で数多くの造形美術家を育て輩出してきた。私も沖展17回展で会員になり、育ってきた美術家の一人として自負している。

創立当時を振り返ってみると、沖展は展示会場探しであった。1949年の第1回展は自社の崇元寺で発足以来、那覇高校同窓会館、那覇琉米文化会館を経て、第5回展、那覇高校（4回）、壺屋小学校（14回）、那覇商業高校（7回）、首里高校（2回）、神原中学校（7回）、など学校を中心に変遷して「ジブシー展」と皮肉られた。

浦添市民体育館（40回展より）に落ち着いて、31年間固定化して70年の節目を迎えた。

これからの課題はマンネリ化している内容をどのように改革し充実していくかであろう。

運営委員で会員もその一端を担うことが必至である。特に審査に関しては責任は重い。あくまで、例えばのことだが、審査の厳しさのために、出品者がアンチ沖展になり、減少の要因になった場合のこと。具象画には厳しく感じられたのは今回だけではない。保留制度があるので、ある程度は緩和されるが…。確かに具象画は約束ごとが多く画面構成、パースや色彩のルール、デッサンの確かさなど、その欠点に分かりやすい。落選者を募って会員が指導する機会と仕組みをつくったらどうだろうか。

今年の受賞者は9人中6人が抽象画だった。

一般応募点数は155点、入選は80点。準会員賞は北山千雅子と並里幸太。沖展賞は與那覇勉。奨励賞は上原はま子（準会員推挙）比嘉博、サンリー・ヨンソー。浦添市長賞は与那覇俊。うるま市長賞は嵩原武子。e-no 株式会社賞（旧「沖縄教育出版賞」）は仲宗根萌。

講評は各担当審査員が別ページでしているので省くことにする。

### 会員作品

ひととき——赤 嶺 正 則  
Emotional / scene ①——池 原 優 子  
祝福される三世代の家族 (2)——稲 嶺 成 祚  
「時空を超えて」——ウ エ チ ヒ 口  
鼓舞——浦 添 健  
「火の鳥」——大 城 讓  
風景の中で——大 浜 英 治  
混沌・嘘・色・18——喜 久 村 徳 男  
サンフランシスコの白い衣装——喜 友 名 朝 紀  
断崖の島——金 城 進  
愚者 (II)——金 城 幸 也  
鳥のように——具 志 恒 勇  
浸食——具 志 堅 誓 謹  
潮流のラビリンス——佐 久 本 伸 光  
相——佐 久 本 米 子

### 碧の立体・平面

コラボレーション——城 間 喜 宏  
追憶「仕事おえて」——新 垣 正 一  
リフレイン——砂 川 喜 代  
Wind scape——知 念 秀 幸  
ある日のできごと——鎮 西 公 子  
痕跡（嘉数護獅子）——当 山 進  
自画像——中 島 イソ子  
「生 - しょう - 」——治 谷 文 夫  
景 (18)——比 嘉 武 史  
「怒」——比 嘉 良 二  
キジムナーの森——宮 里 昌 信  
利尻山を望む——安 元 賢 治  
視泉——山 内 盛 博  
「作品？」——与 久 田 健 一  
点と位置と——與 那 嶺 芳 恵

### 準会員賞

深淵——北 山 千雅子  
焦土 ～緑がみる風景～——並 里 幸 太

### 準会員作品

置き去りの風景 (II)——赤 嶺 広 和  
港街——新 崎 多恵子  
親子——伊 川 はるよし  
女たちのキビしぼり——伊 波 則 雄  
苦難を越え…  
人、草花も輝きを放つ——岸 本 ノブヨ  
想——金 城 恵美子  
Tomorrow——城 間 かよ子  
奥武山公園にて (1980年)——新 城 弘市郎  
動く青——鈴 木 金 助

虎落り島——砂 川 恵 光  
 タチャラー ムチャラー——知 念 盛 一  
 動きだす生命体——仲 程 悦 子  
 あがためくがた——仲 松 清 隆  
 線——橋 本 弘 徳  
 広野——平 川 宗 信  
 ヘリ放射性物質——松 田 盛 吉  
 めざめ——山 川 さやか  
 「こく」——山 城 政 子  
 雨後の水溜り——山 田 武

#### 沖展賞

地相Ⅱ——與 那 覇 勉

#### 奨励賞

街の風景——上 原 はま子  
 夏至南風——サンリー・ヨンツォー  
 樹Ⅸ——比 嘉 博

#### 浦添市長賞

五百羅漢と新世界  
 チブルガンバル——与 那 覇 俊

#### うるま市長賞

ファンタジー——嵩 原 武 子

#### e-no株式会社賞

Happy の色いろイロー——仲 宗 根 萌

#### 一般入選作品

日没——赤 嶺 慎 次  
 屋下がり——赤 嶺 美代子  
 遡上（リュウキュウ  
 アユに想いを馳せ）——東 光 二  
 再——新 垣 萌 々  
 漁のあと——阿 利 清 子  
 ココロオドル  
 ～重なりあう生命～——アリカワ コウヘイ！  
 言霊の泉——伊 芸 匠 志  
 松韻——石 川 豊 子  
 KIOKU——石 原 美智子  
 地の響——伊 是 名 教 子

雨あがりの街角——伊 是 名 吉 明  
 ふたりづれ——稲 富 民 子  
 深爪のおんな——稲 嶺 亮  
 海園——今 村 雄 太  
 平和への道のり——伊 禮 青 勝  
 楽園とともに——上 江 洲 仁 美  
 宿道岩ヌチブルシーサー達——上 江 洲 安 邦  
 顕現 manifestation ～ミクロに、  
 そしてマクロに～——上 田 達 大  
 礁Ⅱ——上 原 成 美  
 天河原 杜のおもひくティンガーラ・  
 ムイヌ ウムイン——上 原 則 雄  
 津梁国の復活（白澤）——榮 野 川 盛 治  
 老いの宴——大 城 信 利  
 暮色——大 城 春 信  
 木麻黄のある風景——我那覇 絹 子  
 幸福に導く——我 部 よしみ  
 漁港閑日——亀 浜 勇 吉  
 生——狩 俣 亜 子  
 森のプレリュード——喜 屋 武 信 子  
 INFINITY Red——金 城 治 子  
 季節のハーモニー——金 城 美智子  
 晩秋の蓮——国 吉 文 子  
 メクリメク——桑 江 悦 子  
 大海へ——小 谷 明 美  
 「魂・いぶき」——小 橋 川 邦 子  
 花芭蕉と古民家——小 林 美 子  
 消えた森鎮魂——座 覇 政 秀  
 ムシロ瀬——重 田 照 吉  
 晴天の造形——島 袋 清 美  
 待ち合わせ——下 地 りえこ  
 内なる声——城 間 幸 子  
 花風——城 間 文 雄  
 威風堂堂——新 里 久  
 躍動するヤンバルの大自然——砂 川 秀 勝  
 海螢——平 良 江 美 子  
 眠れぬ夜——玉 木 義 勝  
 さくらさく——玉 寄 貞 子  
 でいご生と死——知 念 清 哲  
 せせらぎ——知 花 末 子  
 道 ひらける——知 花 竜 也  
 母のリセット——津 波 古 政 廣

LACANS——鶴 見 伸  
 蒼の静寂——當 山 武 弘  
 彩夏——渡 久 地 美智子  
 時——豊 里 三智恵  
 つながり——仲 座 包 子  
 烈Ⅲ——仲 宗 根 市 子  
 沼——仲 宗 根 勇 吉  
 朝の散歩道——名 嘉 原 盛 吉  
 ゴールマ・古き遊び——仲 本 潤 一郎  
 ローズルーム——名 渡 山 千枝子  
 初夏の奥入瀬——根 路 銘 恵 二  
 沖縄の基地問題解説法——羽 地 義 人  
 暖流——比 嘉 孝  
 ロンド——辺 土 名 リユ子  
 きり絵 戦後豊かな宮城島——本 間 優 子  
 時を同じくして——真 栄 田 茂 子  
 廻り生くⅣ——又 吉 園 子  
 語らいの時——松 島 朝 重  
 和（なごむ）——港 川 浩 秀  
 対決する目Ⅱ——宮 城 郁 代  
 里のあじさい——宮 城 貴 子  
 アンコール・トム——宮 城 昌 子  
 なす畑——宮 城 良 眞  
 ルビーのむこうがわ——宮 里 香  
 私のメルヘンから…  
 PART78——宮 里 ユキ子  
 ルーアンの夕暮れ——宮 良 修  
 予兆——與 座 悌 子  
 配偶行動——與 那 嶺 しのぶ  
 story of my childhood——与 那 嶺 誠  
 バックパッカーの帰還——饒 平 名 知 健

#### 特別展示

追憶——久 場 と よ





鼓舞 (163×132) 浦添 健 (会員)



自画像 (172.1×140.3) 中島 イソ子 (会員)



断崖の島 (145×200) 金城 進 (会員)



愚者(II) (164×164) 金城 幸也 (会員)



ひとき (178×147) 赤嶺 正則 (会員)



祝福される三世代の家族(2) (146×178)  
稲嶺 成祐 (会員)

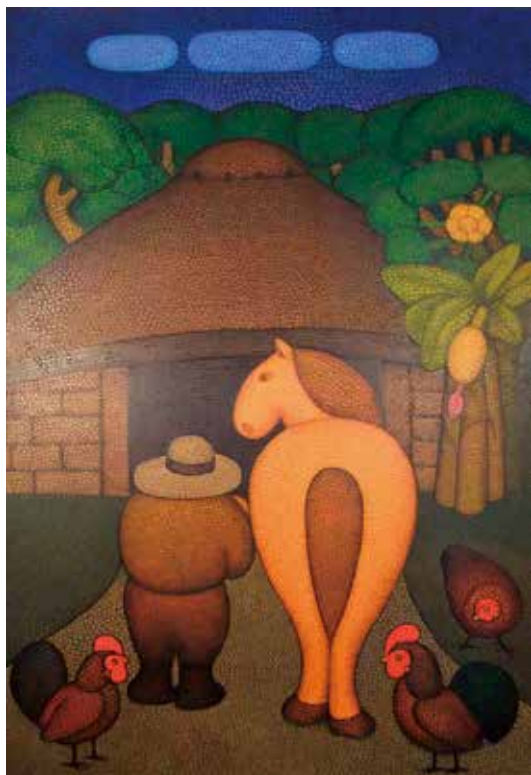


Wind scape (194×194) 知念 秀幸 (会員)



「作品？」 (145.5×112.1) 与久田 健一 (会員)





追憶「仕事おえて」(207×143)  
新垣 正一 (会員)



「怒」(150×120) 比嘉 良二 (会員)



痕跡(嘉数護獅子)(135×199) 当山 進 (会員)



「火の鳥」(142×115) 大城 譲 (会員)



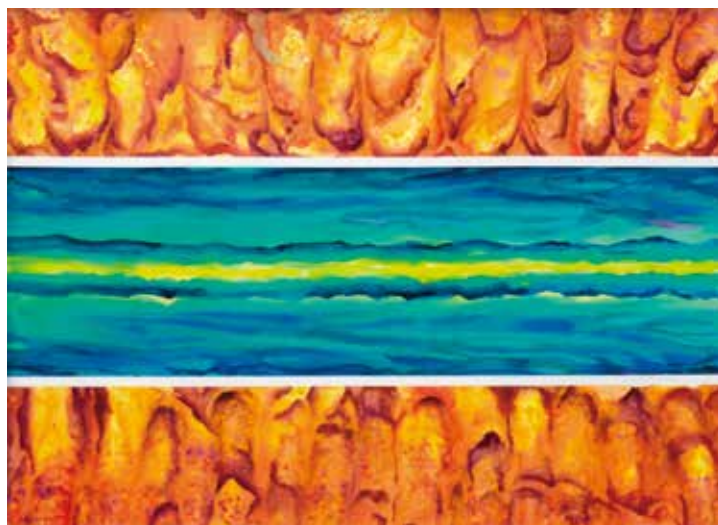
鳥のように (130×162) 具志 恒勇 (会員)



碧の立体・平面コラボレーション (180×120)  
城間 喜宏 (会員)



潮流のラビリンス (1162×130) 佐久本 伸光 (会員)



浸食 (100×133) 具志堅 誓謹 (会員)





混沌・嘘・色・18 (97×157) 喜久村 徳男 (会員)



相 (164×132) 佐久本 米子 (会員)



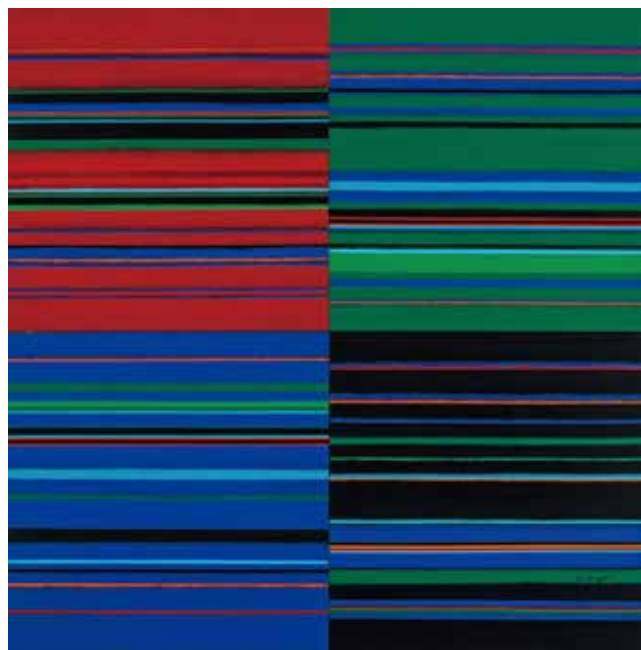
キジムナーの森 (167×167) 宮里 昌信 (会員)



点と位置と (196×165) 與那嶺 芳恵 (会員)



「生 - しょう -」 (194×130)  
治谷 文夫 (会員)



リフレイン (183×183) 砂川 喜代 (会員)



風景の中で (92×152) 大浜 英治 (会員)



ある日のできごと (200×200) 鎮西 公子 (会員)





視泉 (200×180) 山内 盛博 (会員)



景(18) (133×164.5) 比嘉 武史 (会員)



「時空を超えて」 (130×162) ウエチ ヒロ (会員)



Emotional/scene ① (116.7×116.7)  
池原 優子 (会員)

## 準会員賞

焦土 ～緑がみる風景～ (200×200) 並里 幸太 (準会員)



赤く染まった大地に浮遊するメタリックな物体が印象的な作品です。画面中央に形どられたその物体は、単なる“物体”ではないでしょう。光源の当たり具合の微妙なズレ感や、左面と右面の時間軸の僅かな違いなど、分断され弾けながらも、辛うじて原形を留めようとする様は、歯車のかけ違いのようで至る所に見え隠れする。その効果は視覚表現の一つの手段となり、何かしらの焦燥感や悲壮感、様々なジレンマを漂わせる。社会的メッセージを内包しながらも、ポップな印象を受け、グラフィティ、ストリートアートとも通ずるような世界観を作り上げました。

また、組パネルの特性を積極的に活用した成功例とも言えます。軽やかな作風の裏に、今の世相と自己のアイデンティティを模索する姿勢が垣間見え、深い感性を元に、実験的要素を含んだ意欲作となりました。様々な発表の場で多彩な表現を見せる並里さん。たくさんの可能性を秘めており、今後の作品にも大いに期待しています。

評—池原 優子 (会員)



準会員賞

深淵 (200×136) 北山 千雅子 (準会員)



絵画の本質を純粹還元すると、平面としての色と形に行き着くといった近代絵画のフォーマリズムにそってこの作品を位置付けてみたくなる。空間、色、線、形は明確に認められるが、具体的に何が描かれているか特定しがたい。一般的には抽象絵画として分類されるだろう。しかしその中でも画面の構成と均一性を調和させた、本展でも特異な作品となっている。

画面はメカニカルな色と形と言いたくなるような、プラスチックを思わせる仕上がりになっている。朱の部分に対比するように黒、緑、青、白が右下部に塊のように配置されている。各色と塊の境界付近は明確に塊を区切るようなモデリングにはなっていない。むしろ各色の部分の統一されたモザイク状の幾何的な小片形が塊間の境界を融合する働きを担っているように見える。着彩時のハケ跡が薄く残っているところに物としてのプラスチックを描くのではなく絵画の本質を追求する姿勢を感じる。

評—山内 盛博 (会員)



タチャラー ムチャラー (191×191)  
知念 盛一 (準会員)



置き去りの風景 (II) (166×198.5) 赤嶺 広和 (準会員)



女たちのキビしぼり (160×182) 伊波 則雄 (準会員)



親子 (194×130)  
伊川 はるよし (準会員)





奥武山公園にて (1980 年) (128×161)  
新城 弘市郎 (準会員)



虎落り島 (185×187) 砂川 恵光 (準会員)



苦難を越え… 人、草花も輝きを放つ (90×180)  
岸本 ノブヨ (準会員)



雨後の水溜り (172×140) 山田 武 (準会員)





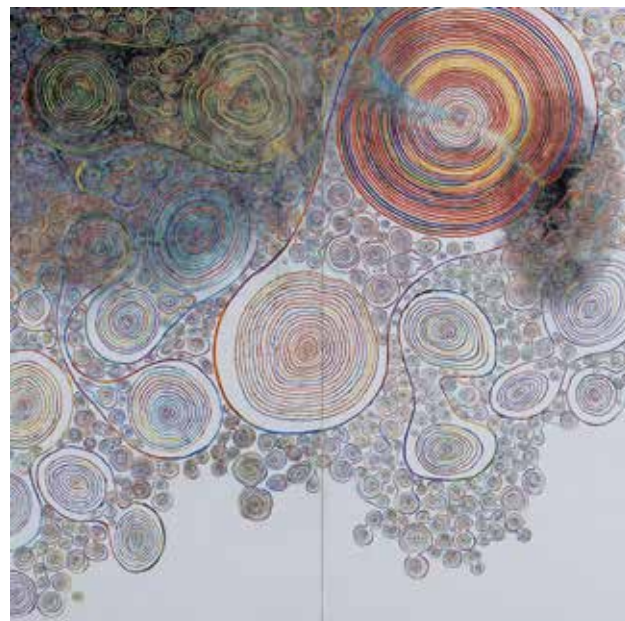
港街 (136×200) 新崎 多恵子 (準会員)



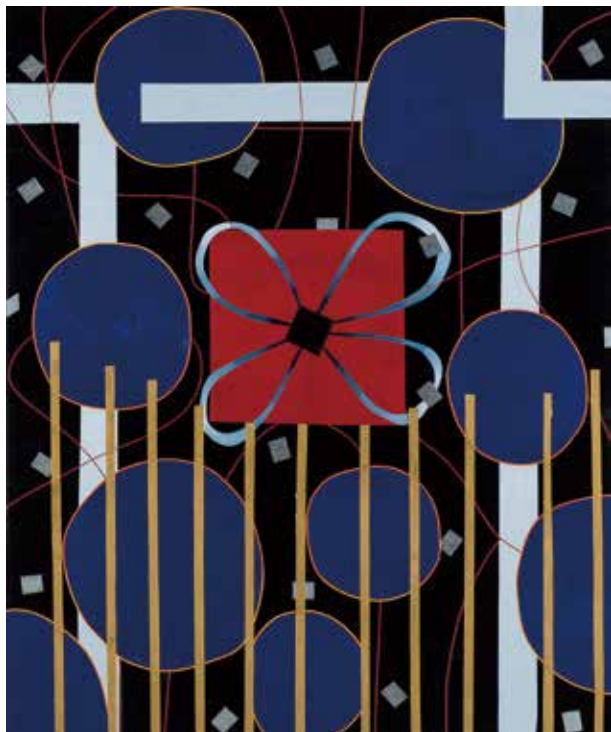
線 (145×112) 橋本 弘徳 (準会員)



Tomorrow (133×164) 城間 かよ子 (準会員)



動きだす生命体 (183×186) 仲程 悦子 (準会員)



「こく」(195×163) 山城 政子 (準会員)



めざめ (204×110)  
山川 さやか (準会員)



想 (188×189) 金城 恵美子 (準会員)



へり放射性物質 (205×173.5)  
松田 盛吉 (準会員)





あがたぬくがた (165×197) 仲松 清隆 (準会員)



広野 (187×187) 平川 宗信 (準会員)

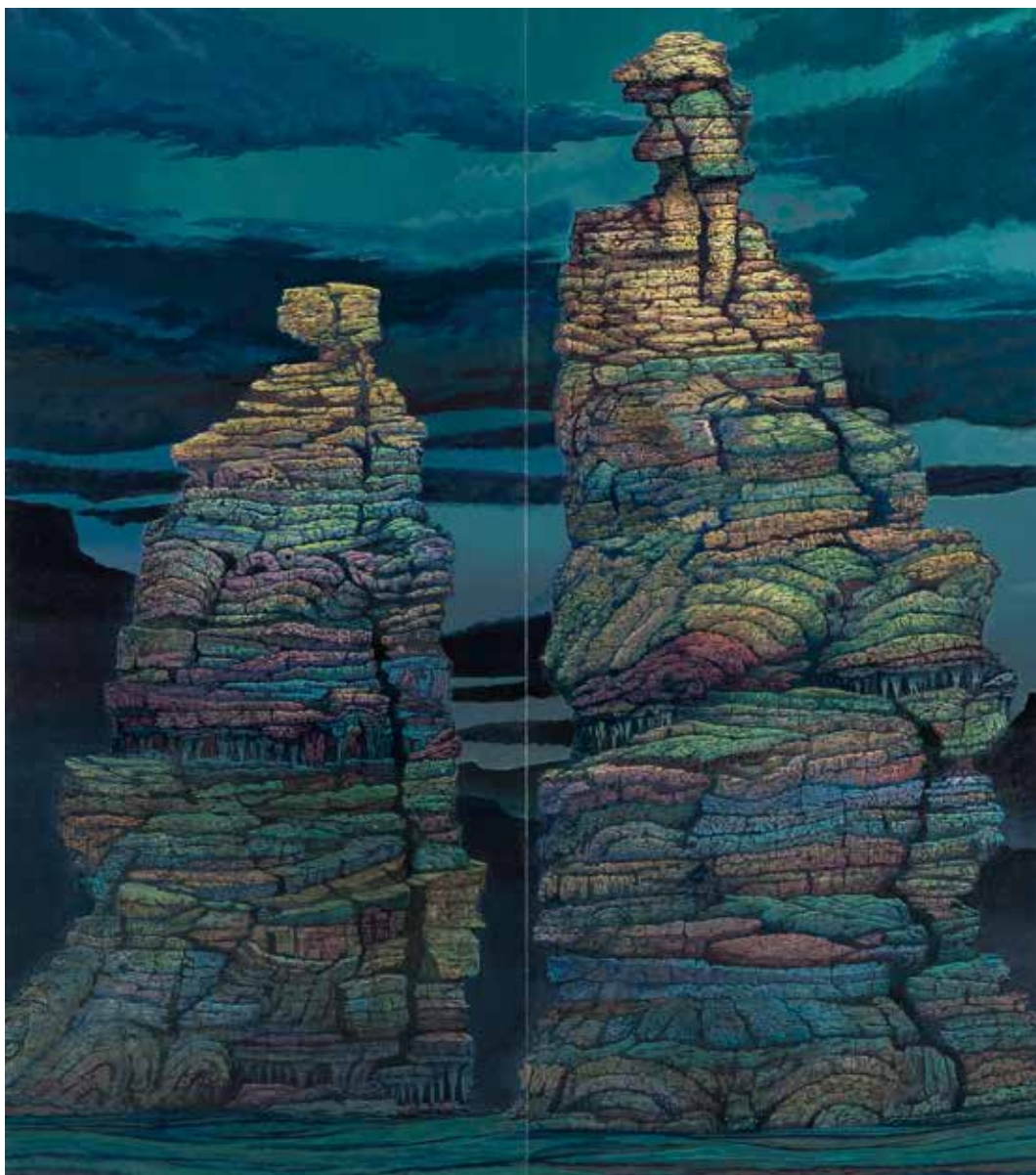


動く青 (170×170) 鈴木 金助 (準会員)



沖展賞

地相Ⅱ（195×175）與那覇 勉



審査が始まった初期段階から強い印象を受けた作品で、賞候補作品に推薦したが、それほどの競合作品もなくすなりと決まった感じがする。

スフィンクスを思わせる地層の重なりが繊細な技法とあいまって豊かな幻想性を醸し出している。これまでも色々な幻想的な作品を見てきたが「ダリ」や「マグリット」(世界的なシュールレアリスムの画家)のような幻想世界とは異なった独自性がある。あえて言うならば日本的な情緒を持った静かで不思議な雰囲気を持っていると思う。

作品を丁寧に見ていくと、岩のように積み重ねられていく地層の断片が絶妙な色彩のハーモニーとなって上へ上へと上昇していき巨大なモニュメントへと変容していく。モノクロームの風景の中に強い存在感を持って鎮座しているのである。何といても細かい緻密な作業がこの作品を支えている。シュール的な作品が少なくなってきた昨今、この分野の絵画表現をさらに追究していただきたい。

評—具志 恒勇（会員）



## 奨励賞

樹 IX (190×142)

比嘉 博

色彩には有彩色と無彩色があり、自然界にある植物や風景の中に見える色のほとんどが有彩色と言える。白と黒そして中間にある灰色は無彩色に相当する。受賞作は、モノクロームトーン（無彩色）で描かれた、白の余白が印象的な水彩画の大作である。

画面全体の構図、構成力、明暗的確さは余白に見える（間）の取り方にある。形態のもつフォルムがバランス良く描かれている。必要以下に色彩を押さえ、必要以上に描か無かったことは見えている物を通し、その奥にある抽象性を表現している。精神性の強い作者のコンセプトワークを示している。

鮮やかな色彩が感情を語るものなら、白黒灰色は沈黙を象徴する。近代絵画の巨匠、ピカソは「色彩には救いがある」と語らせた西洋の色彩観に対し、東洋の無彩色は自我の沈黙であるといえる。

静なる無彩色の世界、モノクローム特有の透明感と微妙な陰影の美しさが画面全体に表現された「樹」がそこにある。

評—知念 秀幸（会員）

サンリー・ヨンツォー氏の作品には色彩の鮮やかさで魅了される。

タイトルの「夏至南風」の通り、沖縄の梅雨明けの頃の空気を感じさせ、少し湿り気のある、それでいて待ちかねていた爽（さわ）やかな風が吹いているようだ。

抽象的な構成の中に見える海や空。光と影の色あいに見え隠れする根っこや葉脈のようなもの。青系統の色に暖かみのある色が重なり合って画面が活きいきとしている。原色に近い色使いでいて、よくみると柔らかな中間色もさまざまである。又、上部の水平線の青が印象的であるが、その水平線に触発されたかのような横の線のくり返し、それが画面全体に強いインパクトを与えている。四辺の不規則でカラフルなフチ（線と色面）もところどころ凹んだり出っ張ったりして面白いと思う。多彩な色をイメージ通りに調和させることができる感性は生来のものにちがいない。

今後ともますます発揮されるであろう。

評—砂川 喜代（会員）

## 奨励賞

夏至南風 (140×200)

サンリー・ヨンツォー







## 奨励賞

街の風景 (200×166)  
上原 はま子

赤、黄、紫等の強い色調が、アナログなブロックに乗せられ、画面全体を構築し、限りのない展開を始める。それは縦に横に微妙なうねりを見せ、色彩の原初的な可能性を初めて知ったかのように、強烈な生命感を持って凛として平面に存在する。作者の感性和、紙や布、アクリル絵の具の素材がリズムカルに呼応しながら一体化し、平面が育っていくさまが想像できる。

平面のその奥には、人の営みの愚かさや美しさ、儚さや強さと言うものを包括して閉じ込め、タイトルの「街の風景」になり、それがいつしか熟成し、豊潤な果汁が溢れ出す様相を呈する。

アカデミックな諸情報から解離しても、「表現することに虜われている」者は多くいて、心を燃やし続ける本能が発するエネルギーは計り知れないものがあると思う。

作者の作品はこれまでも明快な色彩と独特な構成で入選、入賞を重ねてきた。これからもその強さと熱さで表現し続けて下さい。

評—與那嶺 芳恵（会員）

## 浦添市長賞

五百羅漢と新世界 チブルガンバル (208×204)  
与那覇 俊

内面の感情や思考を湧き上がるキーワードやイメージでネットワークのように繋ぎ広げて油性ペンで表現している。発想法の一つでマインドマップと呼ばれる方法で描くことでビジュアルに思考を再現する。従来の美術表現では捉えられない繊細で激しく、生きるとは何かを考えさせられる。相当頭脳を使ったのだらうかタイトルにあるチブルガンバルもユニークな沖縄的でとても面白い。現代の若者には迷いや悩みが日常的に降りかかり、作者の心の中での願望や苦痛が饒舌に溢れ出す。閉塞的な時代の感覚を独自の閃きと祈りにも似た世界観で2m級の大画面での表現である。葛藤し描くエネルギーが溢れ魅力的な作品である。近年、活躍が目覚ましく県内外で入賞するなど今後の展開が楽しみである。

評—佐久本 伸光（会員）







## うるま市長賞

ファンタジー (183×184)

高原 武子

魂の叫び、生の空間、生きとし、生きるものの歓喜の声が聞えてくるようだ。昔、フランスの画家ジャン・デュビュッフェが提唱した『アール・ブリュット』、無垢な魂の尊厳がここにある。ザワザワと森の木々がざわめきあい、天空ではカミナリがゴロゴロとなり響き、人も動物も、車や建物でさえ、すべてが混沌としたカオスの中で、今魂の故郷へ、命の源へ、戻ってきたのだ。色彩が強烈で表現が自由で大胆、存在感のある作品です。

評一金城 幸也（会員）

## e-no 株式会社賞

Happy の色いろイロ (125×186)

仲宗根 萌

e-no 株式会社賞は、これからの沖展を担う学生に与えられる賞だ。萌さんの作品は、学校生活の中の何気ない出来事である友達との触れ合いや、無邪気に遊び戯れる様子を若者らしい感性で生き活きと表現している。

それぞれの学生の豊かな表情は、まるで額縁からはみ出さんばかりだ。くっつくのない笑顔が微笑ましい。

ややもすれば単調になりがちな画面は、さまざまなマスキングテープを駆使し、色紙他で工夫し、カラージュした。それらは、きわめて、根気のいる作業だ。特にマスキングテープ独自の文様の1つ1つが全体の中でタッチとなり、画面に変化とハーモニーを演出している。タイトルの「happy 色いろイロ」とあるように、画面全体は、さわやかで新鮮な風が吹いていて心地よい。これから若いエネルギーを発揮し、失敗を恐れず、自信を持って創作に励んでほしい。今後の活躍に期待します。

評一鎮西 公子（会員）



# 版画部門

## 総評一仲元 清輝（会員）

沖展もいよいよ70周年を迎えました。出発当時の1949年、第1回展のとき、絵画のみ64点を展示したことを想えば今日の沖展の姿は隔世の感を受けます。

版画部門が絵画から独立したのが、第39回展からであり、あれから31年が経過したことは、感慨無量なものがあります。準会員賞に輝いた仲本和子さん、奨励賞、東亜紀さん、浦添市長賞、石垣亜実さん、うるま市長賞、座喜味盛亮さん、e-no 株式会社賞、伊佐二葉さん、受賞おめでとうございます。

各受賞者の作品内容については、審査員によるそれぞれの作品評がありますので参考にさせていただきたいと思います。版画は承知のとおり、絵をかく、版を作る、刷るの過程をたどる表現であります。版を作ることは、イメージを形成する一連の活動の中で、独創性が求められます。近年の会員、準会員、受賞者の作品に触れ、私なりに感じたことを述べます。

私は長期にわたり版画教育、特に沖縄工業高校のデザイン科で指導した体験を基に考えると、版を作る技術にとらわれ、本来版画を作る楽しさや遊びが見えないのではないかと思います。特に審査に携わる者は「美感遊創」の境地が大切だと思います。「版画を作ることは誰でもできるんだよ」と言えば老若男女版画を楽しむことができ、応募点数も増加すると思われます。

私は工業高校の版画科で平板「オフセット」を指導しました。アルミニウム版のリトグラフに入る前に Monoprint、Decalcomanie、Marbring の原理を指導しました。凸版による版画は木の他にリノリウムを、今日では石、石膏、セメント、金属、合成樹脂などがあります。近年凹凸平孔の版形成は独立してのみ用いられるとは限らずさまざまな組合せの併用が考えられます。

世界的に有名な作家ヘイター、フォンタナ、ボリス、フィオリエの作品は併用版です。私はここ数年、孔年による版画を作っています。カッターで型紙を作り、色の刷り込み方を工夫すると絵を描くよりも発色が美しく、重色の効果を発揮できます。「美感遊創」の境地で作品を創造する喜びを味わって下さい。

### 会員作品

|                 |         |
|-----------------|---------|
| COLOR- 意思の補完 II | 赤 嶺 雅   |
| 夢遊              | 新 崎 竜 哉 |
| 時の景 - 白い坂道      | 大久保 彰   |
| 心景              | 神 山 泰 治 |
| 不安な律動           | 座間味 良 吉 |
| Passion         | 知 念 秀 幸 |
| 遊魚              | 友 利 直   |
| form            | 仲 元 清 輝 |
| 景象 '17-C-4      | 比 嘉 良 徳 |
| 2018-3          | 前 田 栄   |

### 準会員賞

|    |         |
|----|---------|
| 記憶 | 仲 本 和 子 |
|----|---------|

### 準会員作品

|          |         |
|----------|---------|
| ヒージャー II | 池 城 安 武 |
| 風景       | 新屋敷 孝 雄 |
| ホルム A    | 保志門 繁   |
| 南風       | 保志門 繁   |
| 春        | 保志門 繁   |

### 奨励賞

|    |       |
|----|-------|
| 甦生 | 東 亜 紀 |
|----|-------|

### 浦添市長賞

|    |         |
|----|---------|
| 黄昏 | 石 垣 亜 実 |
|----|---------|

### うるま市長賞

|                  |         |
|------------------|---------|
| Qing-dahmi(チンダミ) | 座喜味 盛 亮 |
|------------------|---------|

### e-no 株式会社賞

|      |         |
|------|---------|
| クロトン | 伊 佐 二 葉 |
|------|---------|

### 一般入選作品

|           |         |
|-----------|---------|
| いのちの海     | 小 出 由 美 |
| 風のリズム     | 仲 村 春 孝 |
| 白詰草       | 丹 羽 あ や |
| ラルゴ Largo | 平 川 良 栄 |





不安な律動 (27.2×36.1) 座間味 良吉 (会員)



Passion (69×52) 知念 秀幸 (会員)



form (93×61) 仲元 清輝 (会員)

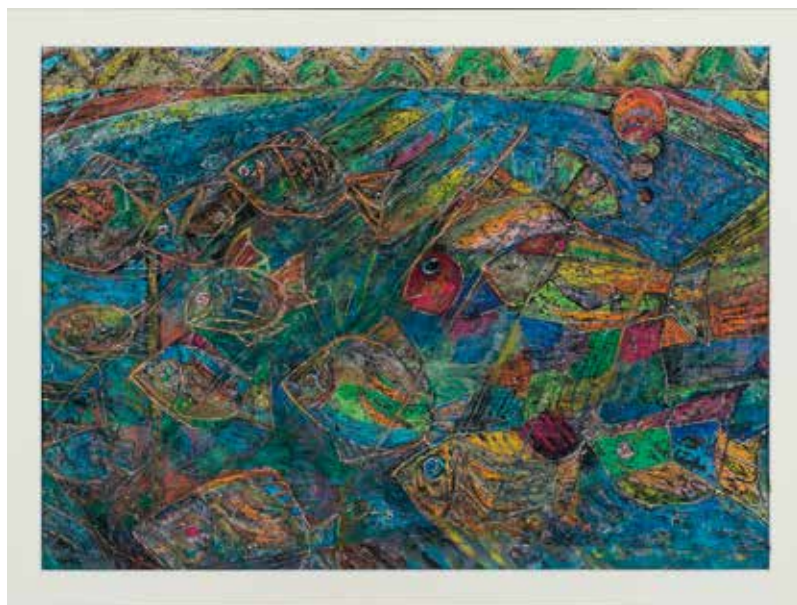




景象'17-C-4 (100×70) 比嘉 良徳 (会員)



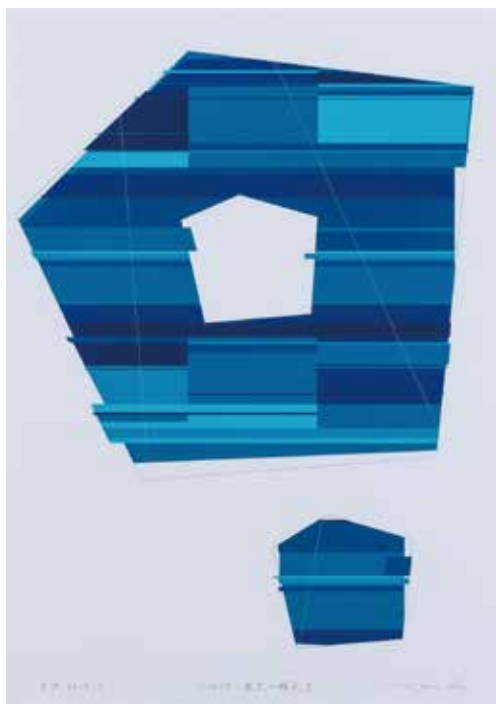
心景 (53×78) 神山 泰治 (会員)



遊魚 (56×40) 友利 直 (会員)



時の景 - 白い坂道 (70×50)  
大久保 彰 (会員)



COLOR- 意思の補完 II (79×60)  
赤嶺 雅 (会員)

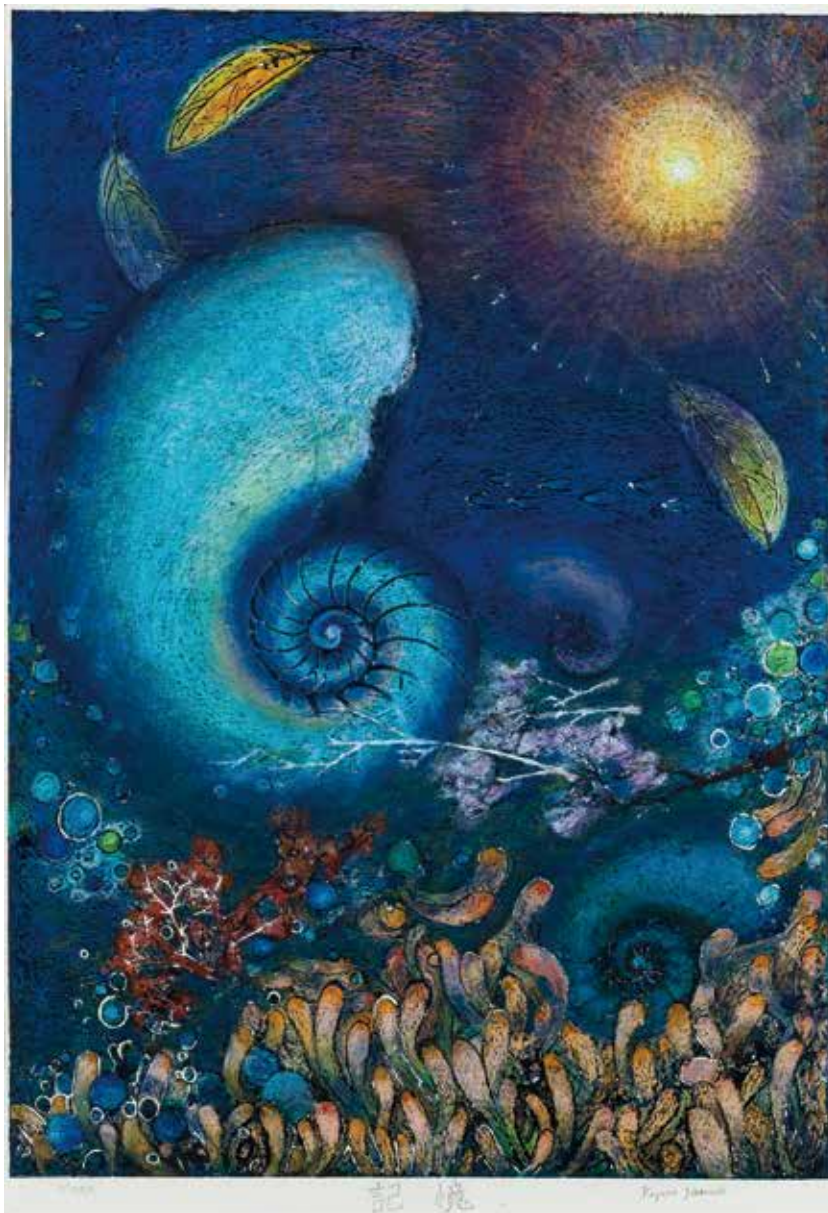


夢遊 (90×61) 新崎 竜哉 (会員)



準会員賞

記憶 (101×72) 仲本 和子 (準会員)



仲本和子氏は、昨年に引き続きの受賞。長年石膏版画の制作に取り組み、その版種を熟知している作家である。石膏版画は、描画材（クレヨン・パステル）と油性のインクの配分がどう活かされているかが重要なポイントとなり、今回の作品はそのバランスのとれた力作である。

「記憶」というテーマから古代の海底をイメージしたもので、アンモナイト・サンゴ・太陽の画面でのレイアウトが巧みで、石膏版画の持ち味である刻線の白と黒の配分と、サンゴのテクスチャーの表現が実に見事に表出されている。特に中央部の枝のサンゴの不規則な白い刻線と、旋回する球状のサンゴの群れに、螺旋状のアンモナイトの存在が一層強調され、ダイナミックな空間構成に魅了される。浮遊する生き物と、林立するサンゴにも動きを持たせた密度の高い作品である。

今回の受賞で会員に推挙され、今後ますますのご活躍を期待したい。

評—神山 泰治 (会員)





春 (30×41) 保志門 繁 (準会員)



風景 (90×64) 新屋敷 孝雄 (準会員)



ヒージャー II (136×93) 池城 安武 (準会員)

## 奨励賞

甦生（41.5×89）東 亜紀



「甦生」は、5点一組のエッチング技法による小作品である。構図は楕円形で横に広がり、前景から後方に奥行きを作っている。そこには群生する花々が独自の視点で捉えられ、力強くも静寂な不思議な世界が広がっている。ニードルによって刻まれた細い線は、慎重な腐食の繰り返しで、深い黒と明るい微細な白色で調子を作り出し、美しいコントラストになっている。

顧みれば、68回展のメゾチント技法による作品、69回展のメゾチント技法による色彩版、そして今回70回展のエッチング技法によるモノトーンの美しい表現、そのどちらの作品からも東さんの緻密な技が光り、観る者を捉える。

今回の「甦生」から次回の作品に期待はますます膨らむ。奨励賞おめでとう！

評—比嘉 良徳（会員）

## 浦添市長賞

黄昏（63×82.7）石垣 亜実

この作品は、生活の一風景を切り抜き色面にて構成された孔版で、シルクスクリーンプリントで仕上げた作品である。作品タイトルにあるように「黄昏」は、作者にインスピレーションを与えた風景であり、夕暮れの雨上がりを版表現へと落とし込んでいる。色彩は、背景にグラデーションを活用し、夕暮れと雨上がりを効果的に表現している。また、街中を無彩色にすることで色面が浮き出してくる。

評価できるのは、大きな色面での印刷は経験と技術が必要である。若い作家でこれだけの作品を手掛けるのは難しく、作品への熱意が感じ取れる。ただ、街中で色の重なりで紙の白色が出ており、インクの隠蔽力を利用して改善する方法もある。さらに、版画としての自己表現としての視点や在り方が作風に反映されると更に魅力ある作品となり得る。今後の若い表現力や技術力に期待したい。

評—赤嶺 雅（会員）







## うるま市長賞

Qing-dahmi (チンダミ) (60×60)

座喜味 盛亮

座喜味氏は、過去に沖展賞、奨励賞の他、数々の受賞歴のある方である。確かな力量に支えられたインパクトの強い作品は魅力的である。

今年度の作品は、チンダミと名付けた木版画である。チンダミとは三味線の弦を爪弾いて調律する事を意味する方言である。そのモチーフを念頭において鑑賞する。

目に飛び込んできたのは、モノクロの画面である。黒色を主体とする色面の上下に長方形が配置され、そこに螺旋状に丸まった線や、鋭角にトゲトゲしく連なる線が絡まりながら無数に伸びている。音という見えぬ物の具現化である。これまでの氏の作品は、実に明快で見る者の心にストレートに迫ってきた。今回もその点では同じだが、画面構成が雑然とした雰囲気になってしまった。それが悔やまれる。ただ、緻密な描線の彫りやCGかと思える刷りには驚嘆した。木版画の可能性を追求し続ける姿勢に共感する。

評一座間味 良吉 (会員)

## e-no 株式会社賞

クロトン (84×59.5) 伊佐 二葉

初出品での e-no 株式会社賞受賞おめでとうございます。  
シルクスクリーンで印刷する技法をみごとに生かし、沖縄ではなじみ深い植物「クロトン」の色を意識した構成に力強さがあり、見るものに心地良さと、安らぎを与えてくれる作品に出来上がっています。

作画は、多色な色を使い分けているなかでも、少しトーンをおさえた色合いで、伊佐さんの作品は、女性のもつ優しさと、素朴さを伝えています。

中でも、オレンジ、緑、赤、その他の色と相まった重厚さと、色彩画面の広がりから南の国沖縄の空海を感じさせる作品となっています。

これからも若さあふれる作品で、沖展の版画界にいぶきをあたえる作品を期待しています。

評一前田 栄 (会員)



# 彫刻部門

## 総評一河原 圭佑（会員）

沖展は1949年沖縄タイムス社創刊1周年記念事業として開催され、今年で70回を迎えた。第70回沖展彫刻部門では、一般・学生の22人23作品と準会員5人5作品の応募があり、一般・学生の応募においては前回よりも応募者数が減少し、準会員では若干の増加が見られた。審査では16人16作品が入選し、沖展賞、奨励賞、浦添市長賞、うるま市長賞、e-no 株式会社賞（旧「沖縄教育出版賞」）が選出されたが、準会員賞の該当者は無しの結果となった。

審査について、昨今では表現素材の多様化が進むにつれ、塑像（石膏、FRP）、木、石、金属、テラコッタの他にコンクリート、漆喰、紙、発砲スチロール、皮（合皮）、ガラス等の素材を用いた作品を審査会場で見かける機会が多くなった。そのため、彫刻の本質を見落とした作品が混在し、手工芸的な作品に対して厳格な審査を行い、熱い議論が交わされた。また、インスタレーションや組作品等における空間芸術の在り方を意図した作品が見られたが、年々作品の規模が小さくなっていることから、彫刻における空間や量感の乏しさが指摘された。素材の多様化と表現の幅に伴い、作品コンセプトや彫刻的視点を捉えた作品が今後の課題として挙げられる。

戦後激動の中、先人たちによって培われた沖縄の美術文化振興が、次世代の若手や中堅の人々によって継承・発展する中で、世代を超えた多くの方々が「沖展」に興味関心を持って応募されることを切に願ってやまない。

### 会員作品

|                      |   |   |   |   |
|----------------------|---|---|---|---|
| 2018-作品1             | 上 | 原 | 隆 | 昭 |
| 唐手「鶴」                | 上 | 原 | 博 | 紀 |
| 帽子の女                 | 上 | 原 | よ | し |
| Floral communication | 河 | 原 | 圭 | 佑 |
| 散歩道                  | 喜 | 名 | 盛 | 勝 |
| 女の首                  | 喜 | 名 | 盛 | 勝 |
| 頭像 70                | 具 | 志 | 堅 | 宏 |
| 黒津さん                 | 玉 | 榮 | 広 | 芳 |
| Nameless             | 玉 | 那 | 覇 | 英 |
| 境界-2018              | 知 | 念 | 良 | 智 |
| むしばまれる島              | 津 | 波 | 古 | 稔 |
| ねじれ                  | 富 | 元 | 明 | 雄 |
| 「記憶の中」               | 友 | 知 | 雪 | 江 |
| Fence                | 仲 | 里 | 安 | 広 |
| 望郷                   | 西 | 村 | 貞 | 雄 |
| せせらぎ                 | 與 | 儀 | 清 | 孝 |

### 準会員

|           |   |   |   |   |
|-----------|---|---|---|---|
| 神殿の寓話シリーズ | 新 | 垣 | 盛 | 秀 |
| あけぼの      | 崎 | 枝 | 静 | 子 |
| 追憶        | 高 | 嶺 | 善 | 昇 |
| 次の、子供たちへ  | 玉 | 城 | 正 | 昌 |
| 点滅する意識    | 津 | 波 | 夏 | 希 |

### 沖展賞

|             |   |   |   |
|-------------|---|---|---|
| 共存する二つのフレーム | 翁 | 長 | 瞳 |
|-------------|---|---|---|

### 奨励賞

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 残紅 | 趙 | 英 | 鍵 |
|----|---|---|---|

### 浦添市長賞

|   |     |   |   |
|---|-----|---|---|
| 命 | 小橋川 | 剛 | 右 |
|---|-----|---|---|

### うるま市長賞

|      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| 継続は力 | 平 | 敷 | 傑 |
|------|---|---|---|

### e-no株式会社賞

|         |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|
| 幸福とその裏側 | 丹 | 羽 | 正 | 淳 |
|---------|---|---|---|---|

### 一般入選作品

|                 |     |   |   |   |
|-----------------|-----|---|---|---|
| 負の歴史をプラスへ       |     |   |   |   |
| ノツチのある風景        | 安   | 里 | 充 | 広 |
| 消えた珊瑚礁          | 伊   | 志 | 嶺 | 達 |
| BLACK CUBE シリーズ |     |   |   |   |
| -ある思考の集合-       | 神   | 村 | 吉 | 次 |
| 珊瑚花             | 國   | 吉 |   | 満 |
| 辺野古・ジュゴン        |     |   |   |   |
| 「穂場をかえせ。」       | 小橋川 | 共 | 三 |   |
| 現代人             | 鈴   | 木 | 金 | 助 |
| 螺旋花             | 高   | 橋 | 哲 | 平 |
| 生きる             | 徳   | 平 | 國 | 広 |
| ひとつのちから         | 豊   | 里 | 友 | 一 |
| 龍（家族）           | 松   | 田 |   | 聡 |
| 輪廻              | 安   | 田 | 淳 | 夫 |

### 特別展示

|       |   |   |   |   |
|-------|---|---|---|---|
| 嘆いている | 大 | 城 | 清 | 久 |
|-------|---|---|---|---|





望郷 (H176×W64×D52)  
西村 貞雄 (会員)



黒津さん (H47×W25×D30)  
玉栄 広芳 (会員)



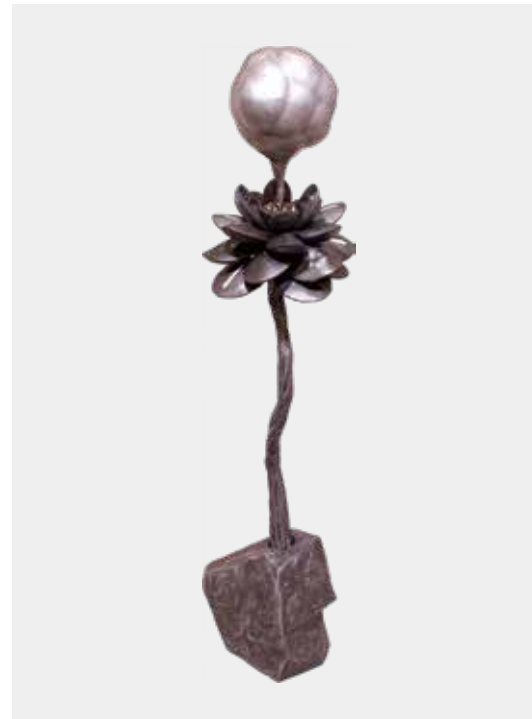
唐手「鶴」 (H147×W55×D60)  
上原 博紀 (会員)



帽子の女 (H45×W50×D25)  
上原 よし (会員)



2018 - 作品 1 (H180×W70×D40)  
上原 隆昭 (会員)



Floral communication (H185×W60×D75)  
河原 圭佑 (会員)



むしばまれる島 (H80×W50×D50)  
津波古 稔 (会員)



せせらぎ (H200×W80×D60)  
與儀 清孝 (会員)





次の、子供たちへ (H180×W80×D100)  
玉城 正昌 (準会員)



点滅する意識 (H45×W71×D185) 津波 夏希 (準会員)



追憶 (H86×W50×D40)  
高嶺 善昇 (準会員)



神殿の寓話シリーズ (H40×W30×D20)  
新垣 盛秀 (準会員)



あけぼの (H140×W138×D138) 崎枝 静子 (準会員)

## 沖展賞

共存する二つのフレーム (H160×W150×D45) 翁長 瞳



作品の構造は三角形の組み合わせによって形造られている。同じ形の二つの立体を重ね合わせることで大きな構造物（モニュメント）としてイメージされる作品である。一般的に建造物というのは安全第一主義で安定性を注視する。しかし作品は垂直でなく何度かの傾斜を持って構築されている。作品として基本的な動勢を考えたことの物の見方にあると思う。そのことも考慮にいれて考案され、傾斜をもって動的表現をした。他に注視することはくり抜かれたような多角形の窓空間からバックの風景が見える。キャンパス的効果があり角度を変えると次々景気がかわる。こんな建造物が実現することを願いながら鑑賞したい。

評—富元 明雄（会員）





## 奨励賞

残紅 (H174×W45×D30)

趙 英鍵

テラコッタという素焼きの女性像は、日本の着物姿を模ったという。大らかさと繊細さを併せ持つフォルムは、中国の兵馬俑や、日本の埴輪を意識したものだろうか。粘土を輪積みした直作りと、石膏型を併用して造形したと思われる。そのフォルムは、正面からの左右対称性が顕著で、側面から見ると長く曲線的で上体は反り、正面性や側面性が強く意識されている。表面にある柄のような模様は、焼成時にひび割れた箇所を象嵌（ぞうがん）してできた跡である。

《残紅》とは、テラコッタの色見から得られる印象や、日本的な美の残映（消えゆくもののなごり）という意味だろうか。その趣のある全体観や穏やかな顔の表情は、法隆寺の百済観音を思わせる。

趙英鍵は、昨年、沖展賞を受賞。全国規模の公募展でも受賞した実績は、彼の確かな力量を示す。更なる研鑽に期待したい。

評—玉那覇 英人（会員）

## 浦添市長賞

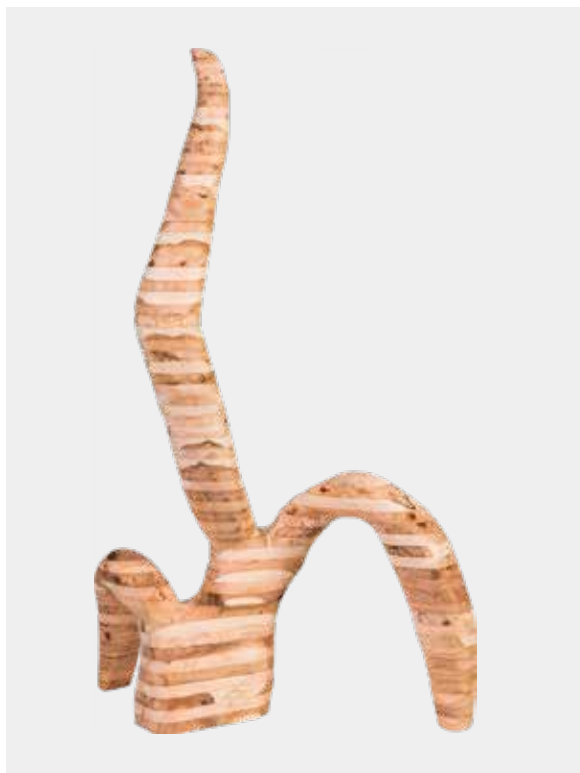
命 (H190×W130×D60)

小橋川 剛右

いまにも動き出すのではと思うような作品である。杉の木の木目の美しさ、いく層にも重ねられて動きがある。今回の技法は、過去の作品とは違い木目の表面に浮造り（うずくり）工法を取りいれているので表情が立体的に見える。作品名「命」は第60回展の初出品の作品名「生まれる」と関連させるような気がして今後の作品が楽しみだ。

新たな活躍が期待できる作家である。

評—與儀 清孝（会員）





## うるま市長賞

継続は力 (H165×W69×D40)

平敷 傑

がっちりした体格の若い男性の塑像で、胸を張り、両腕を垂らした左右対称の自然体の立像である。対象を単純化することで、どっしりとした重量感と力強さを感じさせる作品になっている。人体彫刻の基本である骨格や筋肉などの複雑な絡み合いをきちっと把握し、造形的にバランスよく丁寧に仕上げた作品からは、確かな力量がうかがえる。ただ、構図が昨年と同様なポーズであり、あと一工夫ほしいところである。今回で4回目の入賞である。テーマ「継続は力」の精神で、これからも彫刻芸術を深く追求し、魅力ある作品を期待する。

評—上原 博紀（会員）

## e-no 株式会社賞

幸福とその裏側 (H10×W200×D200)(部分)

丹羽 正淳

この作品はコンセプトを重視している。素材（木材・石材など）から来る塊りとして捉えた作品ではなく、数多くの三つ葉の集合体として空間に展開されている。素材は銅製で茎と葉を溶接して緻密な形を丁寧に造った三つ葉である。

作品の題名「幸福とその裏側」から推察すると、群生する三つ葉の中から四つ葉を探すのには心を弾ませるものがある。そのことから発想・構想を練って造形化しているとみる。

三つ葉は、切り取られ横たわっており数多くちりばめられている。その形はトンボのようにも見えたりするのは長い茎が色々な方向に向けられている情景からのものであろう。三つ葉が切り取られた集合体の中心に四つ葉が一つだけ立っている。切り取られた三つ葉と垂直に四つ葉を広げた対照的な位置付けが題名からも裏付けられ、作者の造形的思考力は、今後につながるものがある。作品から受ける空間の広がりとりズム感は、観る側を楽しませる秀作である。

評—西村 貞雄（会員）



# グラフィックデザイン部門

## 総評一岸本 一夫（会員）

沖展は70年（70回）を迎える。

えー！70年になるのか。早い。早すぎる。

しかし、よく考えてみると、グラフィックデザイン部門が創設されたのが、沖展第15回展の1963年で、今回で55年になることを思うと、なる程となる。

皆さんご承知の通り、名称も商業美術部門からスタートして、デザインの専門分野も時代とともに細分化され、現在のグラフィックデザイン部門となりました。

グラフィックデザイン部門の創設にあたっては大先輩の先生方の「先見の明」と情熱と努力と、それを支えてくださった沖縄タイムス社、そのスタッフの皆さんのお力、会場を提供していただいた、各学校のご協力がなければ創設はできなかったと思います。

そして、沖展をご覧になっていらっしゃる多くの皆様に沖展を支えていただき、今日まで発展することができました。

70周年を記念にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございます。

その間、時代の要求もあり、広告業界も少しずつ広がり、なんとか沖縄でグラフィックデザインの仕事ができる時代になったと思います。

デザインの現場や、沖展に出品して創作活動をしている若者たち、71回に向ってデザイン部門を盛り上げ、世界に誇れる沖展にしようではありませんか！



## 会員作品

ART IS WAVE OKITEN 70th.— ウチマ ヤスヒコ  
猫イラストレーション展— 亀 川 康 栄  
CORAL REEF OKINAWA— 岸 本 一 夫  
Fin Tech 金融革命— キムラ ロメオ  
イラストレーション①— 金 城 正 司  
イラストレーション②— 金 城 正 司  
沖縄と韓国 3— 幸 地 のぞみ  
Persona-1— 玉 城 徳 正  
Persona-2— 玉 城 徳 正  
Original Work— 知 念 秀 幸  
SCHOOL ART— 知 念 仁 志  
KAMAKIRI— 知 念 仁 志  
Let it Be— 本 庄 正 巳  
LIVE (NO.1)— 宮 城 保 武  
LIVE (NO.2)— 宮 城 保 武

## 準会員賞

地下鉄路線図— 島 尻 一 成

## 準会員作品

創造力解放区- 1— 川 平 勝 也  
創造力解放区- 2— 川 平 勝 也  
夢のなかの劇場— 中 井 結  
Passion ~情熱~— 仲 里 都貴江  
THE TRACE OF MEMORIES  
記憶の痕跡— 仲 里 都貴江  
おきなわ花暦— 山 里 永 作

## 沖展賞

IMAGINATION 01— 中 曾 根 靖

## 奨励賞

希望— 長 谷 川 まさし  
風のしま、おきなわ— 和 田 瑞 希

## 浦添市長賞

FOX FACE— 仲 座 萌 香

## うるま市長賞

episode 1.2— 山 里 美紀子

## e-no株式会社賞

レンズ越しの未来— 比 嘉 健 吾

## 一般入選作品

おばあの、うとういむち  
(おもてなし)— 石 川 裕 子  
とどまらず、どこまでも— 内 間 愛  
よこしまで腹黒い正直者のシマー仔馬のウーマと  
空手の達人蝶々おじい— 内 間 由美子  
NIRAI— 大 城 早 希  
KANAI— 大 城 早 希

## おきなわ技能五輪

アビリンピック 2018— 奥 間 洋 子  
祭— 加 藤 毅  
しーさーズ 2018— が な は はるお

## 夢を乗せて I

(木綿布に紅型染め仕上)— 神 野 俊 一  
道じゅね— 喜 納 香 里  
郷愁

(船からみる、佐良浜風景)— 宜 保 定 和

## ティダガガマ

(太陽の洞穴)— 朽 木 幸 子

## 今帰仁村 オープンガーデン〜見方によって

ここは彩りを変える〜— 小 浦 佳奈子

## 「新・江戸上り〜 RYUKYU

ROMA'NTICA」(1)— 城 間 アルベルト

## 「新・江戸上り〜 RYUKYU

ROMA'NTICA」(2)— 城 間 アルベルト

みんなで考えよう!— 添 石 幸 安

壊れた星— 棚 原 麻里奈

小さな月— 坪 井 季 絵

オクラフロント— 富 島 仁 美

IMAGINATION 02— 中 曾 根 靖

太陽の本フェア— 野 々 山 聖 那

キジムナーの森— 野 原 正 浩

DOBM— 花 木 豪

## 石垣市 70 周年ご当地

ナンバープレート— 林 和佳奈

## 石垣市国際観光

PR ロゴマーク— 林 和佳奈

## 美ら島沖縄表紙

イラスト・刺繍— へ ん な 優

## Ensemble4

広報物連作《ポスター》— 真 喜 志 康 一

## Ensemble4

広報物連作《プログラム等》— 真 喜 志 康 一

12 人 12 色— 宮 國 由佳子

"FORBIDDEN ISL"— 宮 里 裕

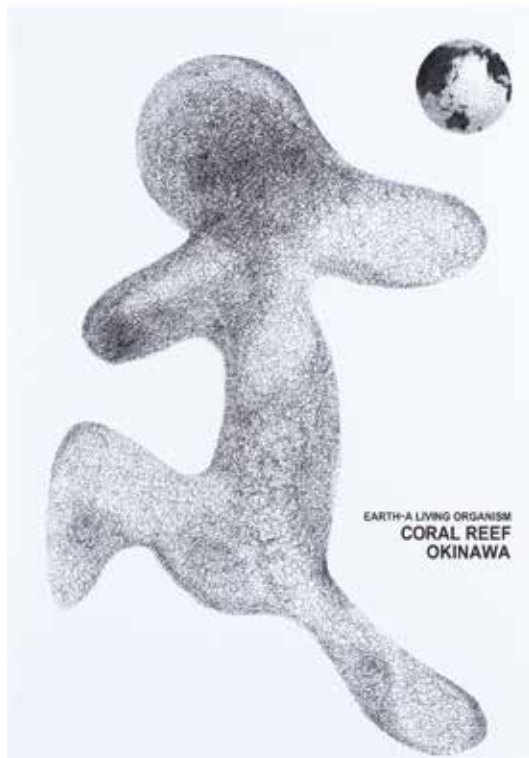
episode 3.4— 山 里 美紀子

春風・たんぽぽ— 山 城 あかね

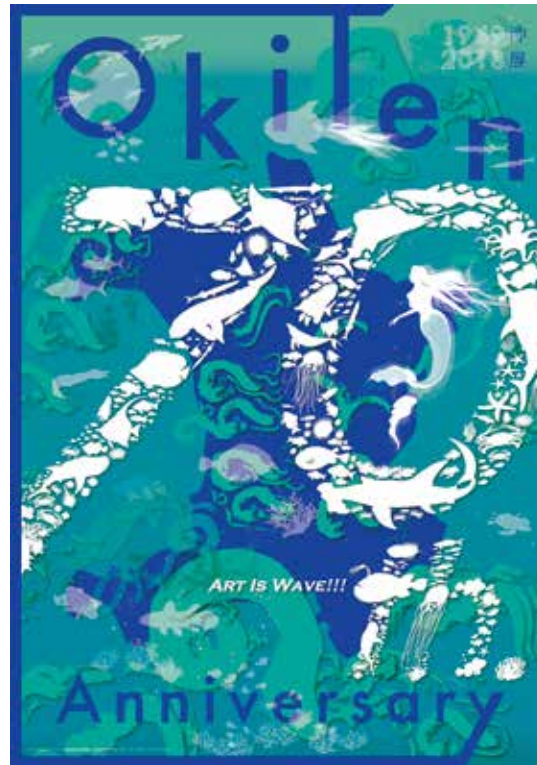
みんなで平和— 与 儀 一

怪しい階段— 饒 平 名 飛 鳥

海の王様— 饒 平 名 飛 鳥



CORAL REEF OKINAWA (B0)  
岸本 一夫 (会員)



ART IS WAVE OKITEN 70th. (B1)  
ウチマ ヤスヒコ (会員)



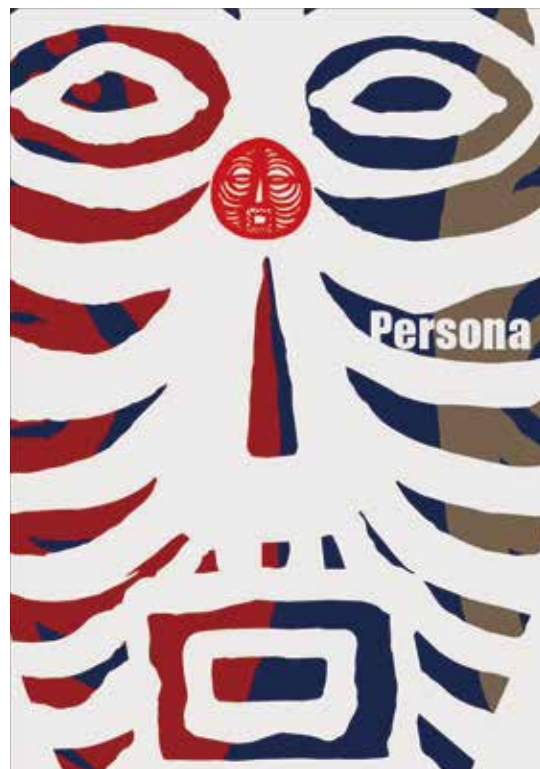
沖縄と韓国 3 (B1)  
幸地 のぞみ (会員)



Let it Be (B1) 本庄 正巳 (会員)



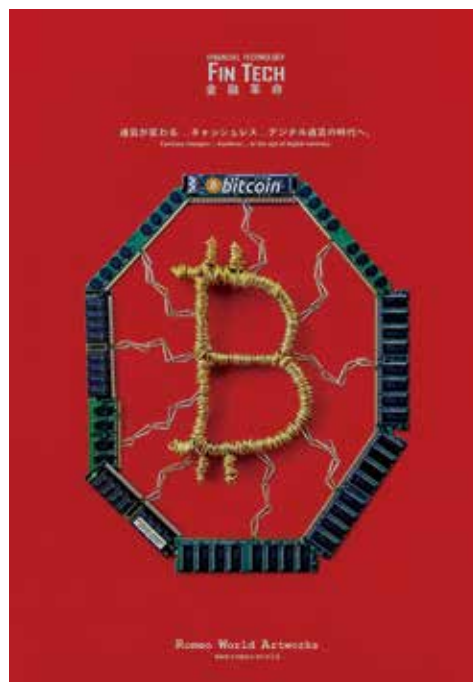
Original Work (B1) 知念 秀幸 (会員)



Persona-1 (B1) 玉城 徳正 (会員)



SCHOOL ART (B1) 知念 仁志 (会員)

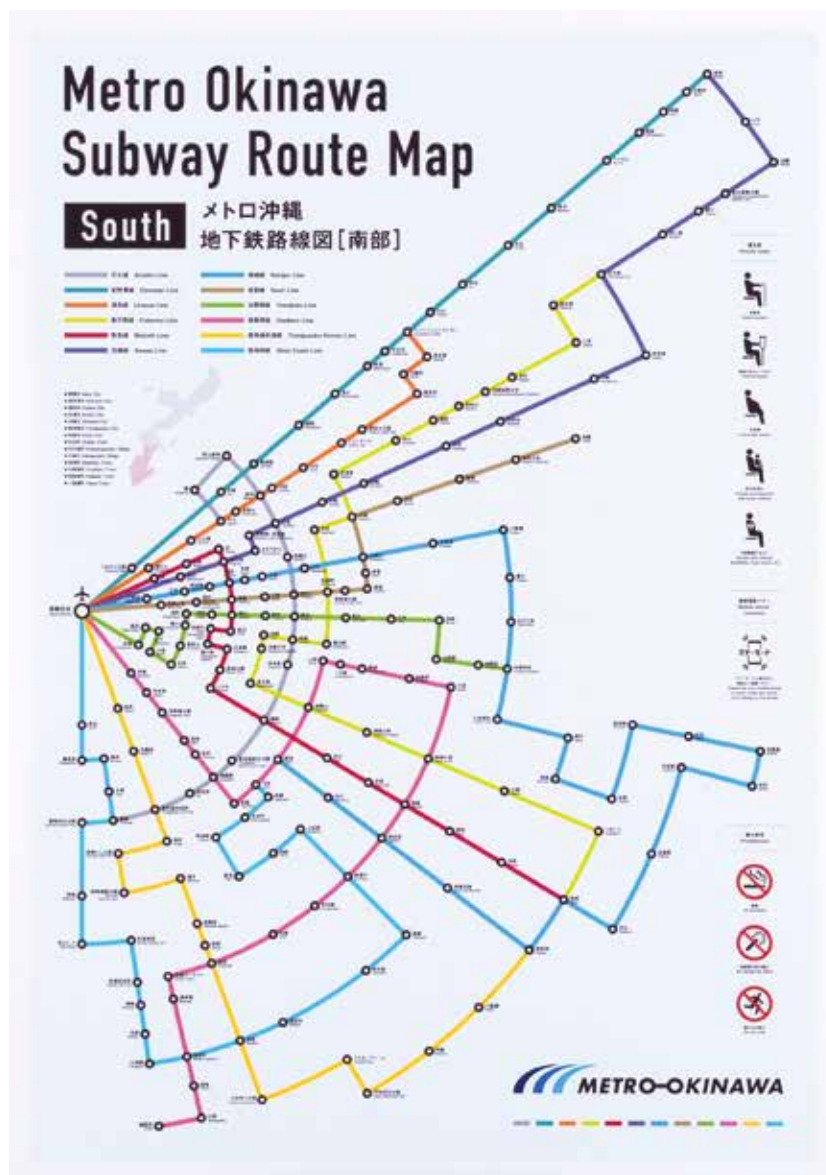


Fin Tech 金融革命 (B1)  
キムラ ロメオ (会員)



## 準会員賞

地下鉄路線図 (B0) 島尻 一成 (準会員)



第70回目の今大会、準会員賞を受賞したのは島尻一成氏の「地下鉄路線図」。同氏は、2013年に浦添市長賞、2015年に冲展賞、2017年に奨励賞を受賞した実力者である。

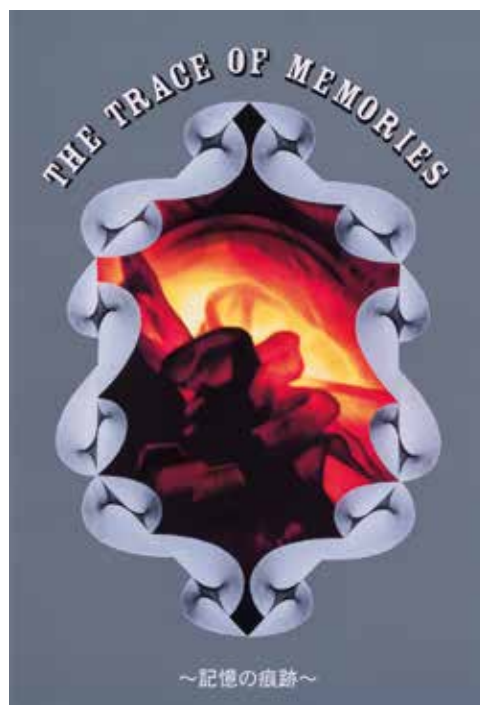
今回の作品は、もし沖縄に地下鉄が走ったらという空想の中の路線図。作品には、架空の鉄道会社「メトロ沖縄」のロゴタイプやシンボルマークを配し、よりリアル感を演出している。また、ややもすると複雑で煩雑になりがちな路線図を、線と面と色で見事に表現している。それぞれの駅の位置や順番は、地図を基に再現され、一つひとつの駅名まで具体的に示されており、その順番、位置関係など、実際に地下鉄が走っているのでは？と思わせるほどリアルで見るものを惹きつける。注意事項を表すピクトグラムや運行エリアの地図などの表現も秀逸である。

少し距離を置いてこの作品を俯瞰すると、縦横斜めに伸びた地下鉄の線路は、沖縄の隅々まで伸びた毛細血管のようにも見える。また、今にも飛び立とうとする鳳の翼にも見えてきた。未来の沖縄と、人々の夢をデザインした希望あふれる空想の路線図。このグラフィック作品から生まれた「メトロ沖縄計画」が、いつの日か実現することをワクワクしながら待ちたい。

評—ウチマヤスヒコ (会員)



夢のなかの劇場 (B0)  
中井 結 (準会員)



THE TRACE OF MEMORIES 記憶の痕跡 (B0)  
仲里 都貴江 (準会員)



創造力解放区 - 2 (129×91)  
川平 勝也 (準会員)



おきなわ花暦 (B1)  
山里 永作 (準会員)

沖展賞

IMAGINATION 01 (B1) 中曽根 靖



受賞作は大胆な発想と、新鮮さが魅力のポスターである。作品は、単色で文字も抑制されシンプルで力強く、心に焼き付きイマジネーションを刺激するデザイン。その意図は、レイアウト（配置）でも感じとれる。

画面構成は、単純明解で美しい。配色はレッドにブラック、モチーフの全体像をあえて削ぎ落とし、生命体の核心をとらえて、被写体の存在をクローズアップしている。それは、作者の本質をつかむ感性と洞察力、卓越したデザイン思考から生まれた結果であろう。

想像力を働かせ、柔軟な視点で画面をとらえると「やんばる」の森の中から、眼光鋭く迫ってくる絶滅危惧（環境省レッドリスト）ノグチゲラの、訴える姿が強烈に伝わってくる。

自然環境破壊の現状をレッドカードの色に託し、沖縄の絶滅危惧生物保護を訴えるメッセージは、記憶に残る表現であり、オリジナリティー溢れ、未来を予感させる斬新な作品である。

今後も、挑戦する姿勢で創作活動に励んでほしい。

評—本庄 正巳（会員）



## 奨励賞

風のしま、おきなわ (B0) 和田 瑞希

絵本作家、和田瑞希さんは、2016年第68回沖展奨励賞、2017年第69回沖展浦添市長賞、今年、第70回記念沖展で3年連続の受賞。奨励賞は2回目の受賞。おめでとうございます。

作者の作品は、一貫して沖縄に古くから伝わる伝承話や古来の沖縄風物詩を絵本の物語に展開し創作されている。今回の作品は、海に囲まれた島の「風の道」をテーマに描き、古来大航海時代～現在へと続く風によって運ばれてきた島の成り立ちや文化の種をイラスト+IT 技術 QR コードを付けて創作表現。

沖縄には「風」にちなんだ言葉や地名などがある。見る人が作品のQRコードにスマートフォンをかざして情報を得る仕掛けを投入し、物語を読ませる力作です。

審査の時には…沖展賞候補として競い合った経緯があります。

作者は「イラスト」として応募していますが作品中の文字情報量から「ポスター」の分類だと思います。「ポスター」として表現する場合、シンプルに伝わるタイトル文字書体、文章の読みやすさや見る者を惹きつける構図の表現力を磨いて創作、精進していくことが今後の課題となるでしょう。

評—キムラ ロメオ (会員)



## 奨励賞

希望 (79×142) 長谷川 まさし



画家クレイが残した言葉に「芸術の役割は、見えるものを表現することではなく、見えないものを見えるようにすることである」とあります。

ワイド画面に表現された爽(さわ)やかな作品は、人の内側にある永遠というイメージ。目には見えない人の心の奥にある魂が放つ、透けるように浮かぶ聖なる光を視覚表現として伝えようとしています。インスピレーションを自分のスタイルに昇華させ、独自の世界観に満ちた表現で見事に演出、構成されたイメージの世界はさまざまなストーリーを見るものに呼び起こさせます。

ダイナミックな画面のフォルムと色彩は、光に向かう構図でセンス良く伸びやかな空間構成となっています。暖色系の色で統一された色彩は、私的永遠性の色として、髪造形的な寒色の色面構成と色彩における対比色として、意図に基づき構成されています。

存在としての人間の姿、造形的な美しさ、生命の温もりや時の流れがダイレクトに表現されています。豊かなイメージと視覚構成の優れたイラストレーションです。

今後もイメージ世界、ストーリー表現の担い手として期待いたします。

評—知念 秀幸 (会員)



## 浦添市長賞

FOX FACE (B0)

仲座 萌香

昨年の学生対象の「沖縄教育出版賞」に続く連続の入賞である。

中央に描かれた、妖精的な少女の顔をキツネの顔が覆いかぶさるような、迫力あるアップに表現されたイラストレーションのポスター作品。個性的でインパクトのある魅力的なポスターに仕上がっている。

中央のキービジュアルを引き立たせるよう、周辺のキツネや植物がメリハリよく描かれており、バランス良くまとまり、幻想的なカラーリングに原寸での切り絵が迫力を増し、独特の黒色で締めた配色が童話の世界観が広がり表現されている。

ただポスターとしてはメッセージ性が弱く、コピーなどを入れることでさらに童話の世界を伝え強調できる。せつかくのイラストレーションがもったいないと感じた。

仲座さんのイラストレーションは、ポテンシャルが高く、可能性を感じる。今後とも創作活動を、楽しくいろんなことにチャレンジをされることを期待する。

評—玉城 徳正（会員）

## うるま市長賞

episode 1.2 (36.4×108)

山里 美紀子

受賞作はB1サイズを縦に2分した変形B2の作品2点のうち1点である。

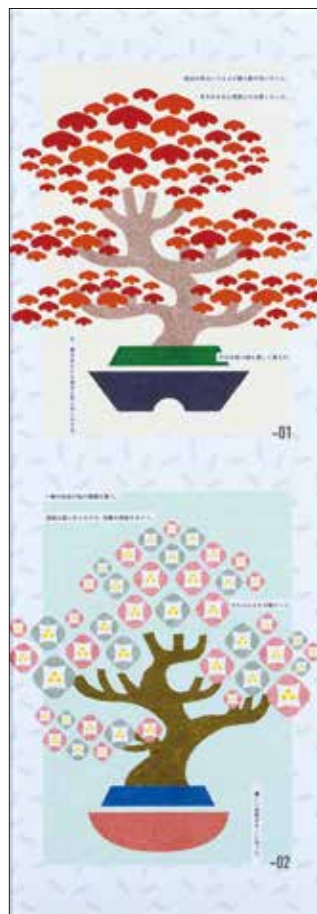
作品は盆栽を図案化し、短いコピーを入れて、それぞれ違った図柄を01.02として上・下に配置されている。シンプルな形と色彩、効果的に挿入されたコピー。盆栽は単純化された枝ぶり、葉や花が大小の紋章のような形で描かれている。

「episode1.2」という作品名や配置されたコピーを読むと、少年とその祖父の日常の一コマが綴られている。敬愛する祖父の手。土と緑と鉄の匂い。手入れされた用具。一鉢の存在。狭隘（きょうあい）な庭にありながら荘厳な気配をまとう。それは小さな大樹。やさしい自然がそこにある。

山里さんの作品は日本の伝統的技、欧米でも人気の高まる盆栽の形をとりながら独自のデザインを模索している。全体に柔らかな色調と散文詩的なコピーが相乗効果を上げて作品の好感度を高めた。

山里さんの「うるま市長賞」の受賞を讀えるとともに、これからの作品に期待したい。

評—金城 正司（会員）





## e-no 株式会社賞

## レンズ越しの未来 (B1) 比嘉 健吾



学生の中で、優秀な作品に送られる、e-no 株式会社賞（旧「沖縄教育出版賞」）を受賞した今回の作品は、写真の展示会を告知するポスターである。

太陽をテーマに考えた作品で、若者が青空と輝く太陽を撮る姿は、まさにタイトルの「レンズ越しの未来」を感じ、人物の周りにうっすらと見える虹は、彩り豊かな明るい未来を感じさせ、制作者の作品づくりに対する素直な表現、人柄を感じる。文字も工夫がされており、未来へ向かう赤い矢印と文字の横線を上手く組み合わせ、面白さと画面に動きを与え、見る人を引きつけるレイアウトになっている。

惜しいのは、空の色を濃くすると、もっと太陽の光をはっきりさせることができ、未来の光を強く表現できたと思う。高校3年生ではあるが、グラフィックデザインの考え方の基礎ができており、将来が楽しみで、今後も作品を制作し続けチャレンジしていただきたい。

今回は、学生の作品が少なかった事は残念であった。大学生、専門学校生、高校生の奮起を期待したい。

評—知念 仁志（会員）



# 書芸部門

## 総評―豊平 峰雲（会員）

寒冷前線が日本をすっぽり覆い、東京ではめずらしく雪の降る日がつづき、沖縄も「あられ」が降るほどの寒さである。毎年1月から2月にかけて沖縄展の審査は寒い日だが今年は特に寒い。

応募点数は267点、昨年より5点の増である。漢字（203点）、調和体（3点）、仮名（46点）、篆刻（15点）でその順序で審査をした。各自入選のレベルだと思う作品に挙手をする方法で始めた。

午後一時頃まで全作品終了し、昼食を取った。その後得点の集計表が配られ入選ラインの審議に入った。昨年は過半数からの入選であったが、今年は審査員の目が大変厳しく入選ラインを下げて入選を決定した。入選点数は189点、入選率は70.8%である。

入賞の審査に入り、得票22点以上の作品85点を総覧し、入賞に値すると思う作品に「賞候補」の発声をもった。その結果16点の作品が候補にあがった。漢字（8点）、調和体（1点）、仮名（4点）、篆刻（3点）である。

投票を重ね、得票の高い5件を奨励賞以上とし、その他浦添市長賞、うるま市長賞、学生の中から e-no 株式会社賞が決定した。

5点を再度投票の結果、上位2点が並んだので2点を決戦投票し、沖縄賞が決定した。

準会員賞は準会員の作品を総覧し、賞に値すると思う作品に声をかけてもらった。11点が候補に上った。持点6で投票した結果、上位5点が選ばれ、再度持点3で投票の結果、上位3点が微差で並ぶ。審査員全員の要望で3点を準会員賞にしたい旨審査委員長に申し上げ快諾され決定した。

入賞者は次の通りとなった。

「準会員賞」に仲里徹・比嘉邦子・幸喜洋人、「沖縄賞」に仲舩由美子、「奨励賞」に田頭節子・玉城笙子・知念一正・上原千枝美、「浦添市長賞」に山里昌輝、「うるま市長賞」に島袋園子、「e-no 株式会社賞」に上元優が決定された。

<前期・後期>

会員作品

|             |               |
|-------------|---------------|
| 信頼 感謝 平和 平安 | 東 江 順 子       |
| 明道若昧        | 安 里 牧 子       |
| 牧水のうた       | 阿 部 田 鶴 子     |
| 陶然          | 新 城 弘 志       |
| 古今和歌集より     | 上 原 幸 子       |
| 島唄          | 運 天 雅 代       |
| 延涼颺         | 大 城 武 雄       |
| 戲馬臺即興(琉球漢詩) | 大 城 稔         |
| 枕上聞大風 他三首   | 大 山 美 代 子     |
| 愚者一得        | 我 喜 屋 明 正 枝 子 |
| 從軍行         | 我 部 幸 枝 子     |
| 月           | 神 山 律 子       |
| 春のころ        | 小 杉 紘 子       |
| よもすがら…      | 砂 川 米 子       |
| 盛福          | 砂 川 榮 子       |
| 答李泚         | 高 良 房 子       |
| 憧憬          | 田 名 洋 子       |
| 倭の心         | 茅 原 善 元       |
| 張潮詩句        | 渡 名 喜 清 則     |
| 守礼門         | 豊 平 信 美 子     |
| 坐花醉月        | 名 嘉 喜 和 子     |
| 劉庭芝詩「代悲白頭翁」 | 長 浜 村 信 男     |
| 黃庚詩         | 仲 村 裕 美       |
| 閩山游草        | 中 村 清 子       |
| かれよし        | 仲 本 朝 信       |
| 啐啄之機        | 仲 本 朝 雄       |
| 秋坐          | 西 蔵 盛 英 子     |
| 拈華微笑        | 比 嘉 千 鶴 子     |
| 心手雙暢        | 比 嘉 良 勝       |
| 莊子語         | 東 恩 納 安 弘     |
| 千秋 延年       | 前 田 賢 二       |
| 希望叶える闘魂を    | 眞 喜 屋 美 佐     |
| 藝道無限        | 宮 里 朝 尊       |
| 桜           | 村 山 典 子       |
| 鳳遊          | 盛 島 高 行       |
| 齊安郡晚秋       | 山 城 篤 男       |
| ひむかしの       | 山 城 美 智 子     |

準会員賞

|        |         |
|--------|---------|
| 明鏡止水   | 幸 喜 洋 人 |
| 早春長安道上 | 仲 里 徹   |
| 近業三種   | 比 嘉 邦 子 |

準会員作品

|           |             |
|-----------|-------------|
| 八言対句      | 天 久 武 和     |
| 旅心        | 石 津 陽 子     |
| 題李別駕壁 他一首 | 伊 野 前 喜 美 子 |
| 袁宏道詩      | 上 門 か お り   |
| 賈至詩       | 上 地 徹       |
| 村夜        | 上 原 貴 子     |
| 杜子美詩 四首   | 上 原 孝 之     |
| 咸陽懷古      | 我 喜 屋 ヤ ス 子 |

|             |             |
|-------------|-------------|
| 奉和春日幸望春宮應制  | 幸 喜 石 子     |
| 寒山詩         | 島 尚 美       |
| 村舎二首其二 他一首  | 島 崎 サ ダ エ   |
| 絶句 他二首      | 城 間 律 子     |
| 結交 他二首      | 新 垣 敏 子     |
| 君に恋ひにてし     | 新 里 明 美     |
| 月夜泊虎山橋      | 新 里 智 子     |
| 四季          | 渡 慶 次 喜 代 美 |
| 漢詩 二首       | 友 利 通 子     |
| 長恨歌         | 豊 平 美 奈 子   |
| 春の来る        | 西 澤 恒 子     |
| 七言律詩 二首     | 福 原 兼 永     |
| 現代語訳「枕草子」より | 松 田 征 子     |
| 蔡大鼎詩        | 松 堂 康 子     |
| 新玉の         | 宮 城 政 夫     |
| やまなみ        | 本 村 晴 美     |
| 李白詩         | 吉 里 恒 貞 子   |
| 百人一首        | 吉 田 優 子     |
| 劉子翬詩 他三首    | 与 那 嶺 典 子   |

沖展賞

|      |           |
|------|-----------|
| 順順則詩 | 仲 舛 由 美 子 |
|------|-----------|

奨励賞

|                 |           |
|-----------------|-----------|
| 賦得秦淮送宋仲珩 他二首    | 上 原 千 枝 美 |
| 明月流素光 鳳鳴朝陽 福以德招 |           |
| 秋聲天地間 敦篤虚静      | 田 頭 節 子   |
| 琉球鳥瞰図           | 玉 城 笙 子   |
| 歐陽修詩            | 知 念 一 正   |

浦添市長賞

|             |         |
|-------------|---------|
| 淮上乞魚門盆松得松而歸 | 山 里 昌 輝 |
|-------------|---------|

うるま市長賞

|        |         |
|--------|---------|
| 秋涼 他二首 | 島 袋 園 子 |
|--------|---------|

e-no株式会社賞

|         |       |
|---------|-------|
| 古今和歌集より |       |
| ～春のうた～  | 上 元 優 |

一般入選作品 <前期>

<漢字>

初入頼過惶恐灘——知 念 栄 子  
 早春江行——知 念 レイ子  
 靈峰寺松風閣——當 間 綾 子  
 清明日賈弘菴棲隱園社集——當 銘 由 武  
 漢詩——當 山 初 江  
 謝維焜詩——德 里 美代子  
 舟人吹笛——渡 口 葉 子  
 十七夜月 他一首——富 盛 朝 秀  
 寒山詩——富 山 美智子  
 迓使客夜歸 他二首——友 寄 恵 子  
 過故人莊 他一首——豊 平 美栄子  
 王維詩——仲 宗 根 司  
 舟中遣懷 他二首——長 堂 加代子  
 漢詩——長 浜 まさ子  
 李太白詩 三首——仲 間 李 子  
 寒山詩——仲 村 冴 子  
 唐詩——仲 本 一 郎  
 楊花詩 他一首——名 渡 山 千恵子  
 惜日 外二首——根 路 銘 昭 子  
 張主簿草堂賦大雨——濱 川 栄 優  
 李白詩——比 嘉 徳 史  
 蔡大鼎詩——比 嘉 勝 子  
 程順則詩——比 嘉 さつき  
 王維詩——東 徳 嶺 輔  
 漢詩 二首——日 高 俊 彦  
 漢詩 二首——日 高 米利子  
 由南昌至吉安舟行雜詩  
 其一、其二——比 屋 根 尚 美  
 漢詩 五首——柊 崎 ケイ子  
 江城——譜 久 里 武 夫  
 林守易以新舫載予  
 同游鼓山 他二首——福 地 恭 子  
 夕陽 他二首——古 堅 直 子  
 村行 他一首——古 堅 玲 子  
 初春送朱比部——平 敷 律 子  
 中夜枕上口號——外 間 早 智  
 寄陸純孫 外二首——星 川 初 見  
 黄山谷次韻文潛詩——真 栄 田 義 之  
 漢詩 五首——真 壁 恵 子  
 寄逸人高漫士 他二首——真 謝 幸 代  
 漢詩——又 吉 澄 枝  
 初寒 他一首——松 川 美智子  
 桑 他一首——松 田 恵 子

漢詩 二首——松 本 弘 子  
 李白詩——嶺 井 律 子  
 南山詩(韓愈)——宮 城 圭 子  
 律詩 二首——宮 城 沙 綾  
 寒山詩——宮 城 孝 子  
 漢詩 二首——宮 城 紀 子  
 奕棋二首呈公漸 他二首——宮 城 政 子  
 寒山詩——宮 城 みち子  
 袁宏道詩——宮 城 律 子  
 漢詩 三首——宮 城 律 子  
 寒山詩——宮 里 えり子  
 漢詩 二首——宮 里 民 子  
 漢詩 二首——宮 平 妃女花  
 春日耕者 他一首——森 さゆり  
 孟冬朔日菊尊小集  
 次韻答賓谷丈 他一首——山 内 成 子  
 雪朝偶成 外二首——山 里 美代子  
 漢詩 二首——山 城 綾 子  
 漢詩 四首——山 城 捷 明  
 寒山詩——屋 良 知絵未  
 觀雨——与 儀 ふじ江  
 友に贈る 外二首——与 儀 政 子  
 春日山行 他二首——与 儀 好 子  
 雜詩 他二首——與 那 城 千恵子  
 杜子美詩——與 那 霸 律 子  
 蔡大鼎——湧 田 市 子

<調和体>

芭蕉布——後 藤 豊 彦

<仮名>

山ざくら——高 木 珪 子  
 良寛の歌 三首——玉 那 覇 節 子  
 小倉百人一首より——當 間 秀 美  
 心あらば——渡 久 地 美佐子  
 百人一首 五首——仲 昌 代  
 萬代——仲 程 一 美  
 見渡せば——仲 村 妙 子  
 曼珠沙華——新 田 千賀子  
 桜のうたを——濱 川 綾 子  
 初日の出——比 嘉 栄 子  
 鳴響む——備 瀬 恵 子  
 山里は春——福 原 美 枝

春のたそがれ——松 田 春 美  
 波の花——宮 城 喜美子  
 山吹の——宮 城 多佳子  
 龍田川——饒 平 名 真由美

<卷子>

那三こすと——諸 見 里 史 子

<篆刻>

近業二顆——嘉 数 陽 子  
 深謀遠慮 野無遺賢  
 天経地義 瞻前顧後——古 謝 治 子  
 廉潔謙退 白鶴舞老松  
 學者如登山 厚德載福——小 林 好 生  
 玄德——吳 屋 純 媛  
 鳳鳴朝陽 輯瑞球陽  
 飛泉漱玉 瑞泉潤民——須 藤 保  
 近作二顆——高 良 正 美



一般入選作品 <後期>

<漢字>

偶成 他一首——赤 嶺 隆 子  
 廢瑟詞 他一首——赤 嶺 美智子  
 上渡即事——安 里 エツ子  
 郊行即事 他一首——安座間 澄 子  
 李太白詩 五首——新 垣 惠津子  
 漢詩 三首——新 垣 絹 枝  
 杜子美詩 二首——新 垣 貴 子  
 歸吳至楓橋——新 城 円 香  
 漢詩 二首——池 原 米 子  
 寒山詩——伊 佐 直 美  
 阻雨不得登蟠龍 他一首——石 川 く に 子  
 唐詩——石 川 美智代  
 七言絶句 二首——稲 嶺 法 子  
 蔡大鼎詩——伊 波 エツ子  
 陶淵明詩——伊 禮 かおる  
 鄭虞臣詩——上 門 静 子  
 送顧啓姬北上 他一首——上江洲 アケミ  
 秋風——上 杉 昌 代  
 漢詩 三首——上江田 敏 博  
 晚泊濟陽 他二首——上 原 啓 子  
 周必大詩 他——上 原 敏 夫  
 韓愈詩——上 原 好 美  
 和王員外晴雪早朝——上 間 有 希  
 蔡大鼎詩——内 間 カズ子  
 送別 他一首——浦 崎 康 哉  
 賦得官舍梅初紫 他一首——近 江 幸 子  
 雜詩 外——大 島 常 功  
 漢詩 二首——大 城 さやか  
 七言律詩 三首——太 田 節 子  
 漢詩 五首——太 田 美枝子  
 白下 他二首——大 田 安 子  
 漢詩 七言律詩 他一首——小 川 和 美  
 蘇東坡詩——奥 濱 喜美子  
 漢詩 四首——神 里 和 子  
 鈕仲玉詩 他二首——神 谷 希  
 韓愈詩——神 山 直 子  
 蔡大鼎詩——香 村 春 乃  
 袁宏道詩——川 上 タケミ  
 蔡大鼎詩——川 上 秀 子  
 程順則詩——川 中 留 美  
 夜眺 他二首——喜久山 安 子  
 漢詩 二種——儀 間 美代子  
 楓橋 他一首——喜屋武 美佐子  
 江上望皖公山用太白韻——金 城 綾 子

漢詩——金 城 功  
 漢詩 二首——久 高 博 典  
 學圃贈鄧生——國 吉 真 吾  
 黃花——久 保 田 麻 里  
 清俸橋 他一首——桑 江 美恵子  
 寒山詩——古 賀 日奈子  
 桐江其四 桐江其五——小橋川 町 子  
 蔡文溥詩——米 須 浅 美  
 曹植詩——佐 次 田 恵 子  
 杜甫詩——島 田 直 子  
 贈彈箏人 他二首——島 津 和 美  
 過高郵有感 他一首——島 袋 敬 子  
 贈魏允枏 他二首——謝 名 堂 奈緒子  
 自信——昇 高 愛  
 漢詩——城 間 敬 子  
 漢詩(獨坐 外一首)——城 間 ハツエ  
 秋懷其一 他一首——城 間 美 香  
 翔舞——砂 川 恭 子  
 和太常韋主簿五郎溫泉  
 寓目王維 他一首——平 良 小夜子  
 漢詩 二首——平 良 悦 子  
 由南昌至吉安舟行雜詩  
 其三 他一首——高 嶺 佳 恵  
 万国津梁之鐘銘文——高 良 一 實  
 雨夜 他二首——田 端 喜 代  
 雨後 他二首——田 福 宏 美  
 琉球漢詩 三首——玉 那 覇 明 美  
 黃庭堅詩——玉 元 庄 弘

<仮名>

千々の春——粟 国 美智子  
 正月——安座間 賀 子  
 くさむらの螢——新 垣 任 紀  
 ゆふされば——大 嶺 加代子  
 朝日かげさしの——岸 本 弘 子  
 金槐和歌集より——喜 納 竹 子  
 月——儀 間 廣 子  
 梅の花——喜 友 名 正 子  
 ふく風を……——小波津 園 子  
 晶子の歌——上 運 天 春 菜  
 山百合の……——佐 敷 博 美  
 春の柳——志 慶 真 幸 代  
 月の光——志 田 美代子  
 霞たつながき……——島 袋 侑 子  
 夢——下 地 郁 子  
 思ひつゝ……——城 間 浩 子

<篆刻>

忠則順天 孝則生福  
 冲静得自然 厚積而薄発——赤 嶺 悦 子  
 游雲驚龍 敦篤虚静 有志者事竟  
 成也 樂在其中——安 里 涼 子  
 同歸殊塗 寛厚愛人——上 原 善 輝  
 虚静恬淡 陵雲之志  
 疾風勁草 鳥語華香——上 間 道 子  
 陽春布德澤 神情朗達  
 別是一乾坤 先事後得——大 城 愛 子



藝道無限  
宮里 朝尊 (会員)  
(230×53)



張潮詩句  
渡名喜 清 (会員)  
(225×53)



戲馬臺即興 (琉球漢詩)  
大城 稔 (会員)  
(225×53)



(82×150)

守礼門 豊平 信則 (会員)



心手雙暢  
比嘉 良勝 (会員)  
(53×33)



(136×70)

憧憬 田名 洋子 (会員)



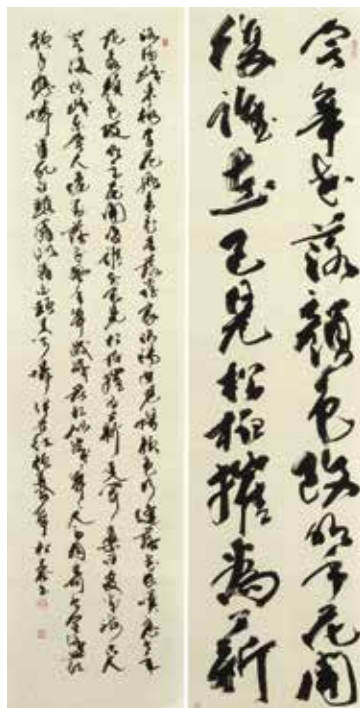
(180×60)

延涼颺 大城 武雄 (会員)





拈華微笑  
比嘉 千鶴子 (會員)  
(228×53)



(135×70)

劉庭芝詩「代悲白頭翁」 長浜 和子 (會員)



莊子語  
東恩納 安弘 (會員)  
(34×30)



(70×170)

答李漸 高良 房子 (會員)



倭の心  
茅原 善元（会員）

(135×69)



(70×148)

坐花酔月 名嘉 喜美（会員）



(48×68)

千秋 延年 前田 賢二（会員）



鳳遊  
盛島 高行（会員）

(180×65)



信頼 感謝 平和 平安  
東江 順子 (会員)  
(40×70)



黄庚詩 仲村 信男 (会員)

(175×53)



明道若昧 安里 牧子 (会員)

(140×80)



(70×135)

閩山游草 中村 裕美 (会員)





啐啄之機 仲本 朝信 (会員)

(135×34)



盛福 砂川 榮 (会員)

(135×70)



月 神山 律子 (会員)

(135×70)



(70×138)

愚者一得 我喜屋 明正 (会員)



(70×135)

島唄 運天 雅代 (会員)



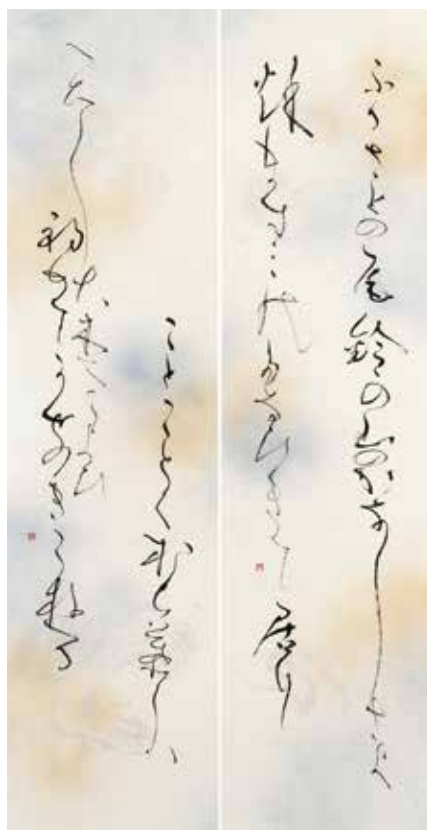
(70×170)

希望叶える闘魂を 眞喜屋 美佐 (会員)



(53×128)

秋坐 西藏盛 英雄 (会員)



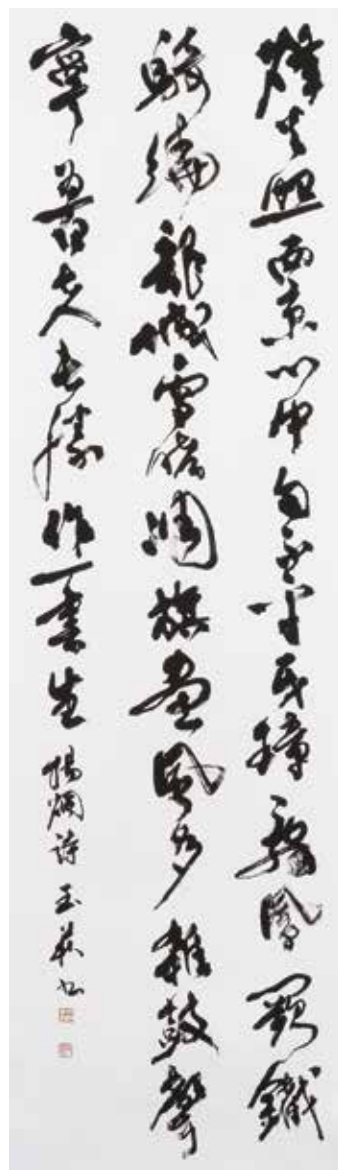
水のうた 阿部 田鶴子（会員）

(135×70)



陶然 新城 弘志（会員）

(115×53)



從軍行 我部 幸枝（会員）  
(205×60)



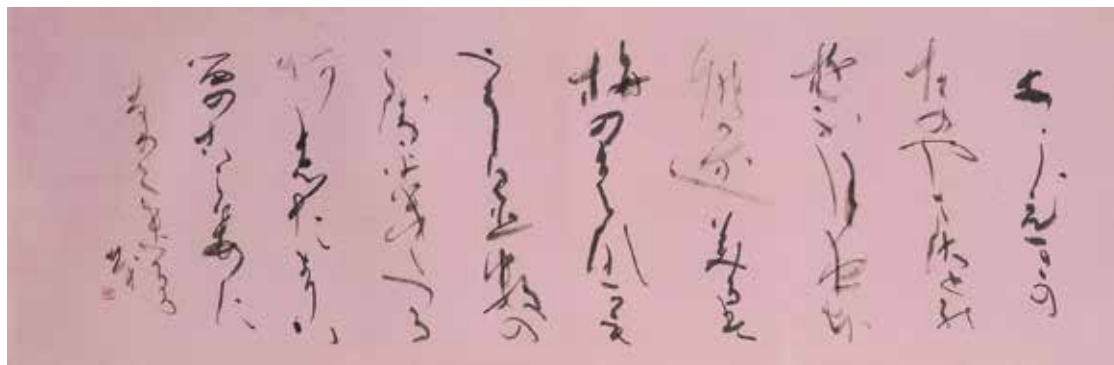
かれよし 仲本 清子（会員）  
(223×52)





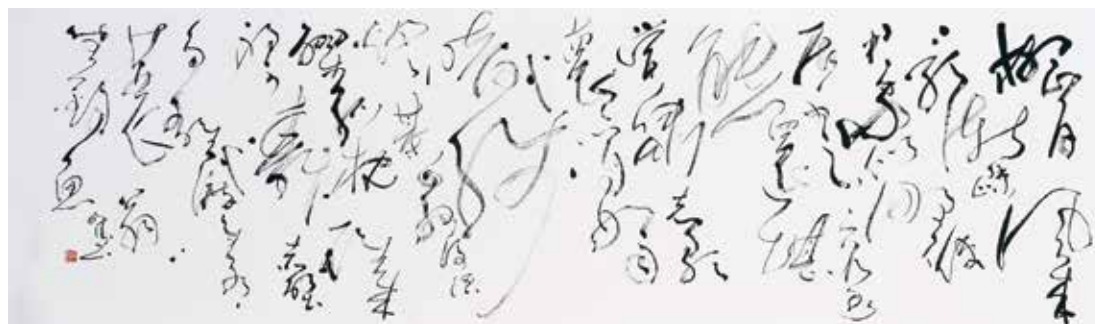
(30×350)

枕上聞大風 他三首 大山 美代子 (会員)



(60×180)

春のころ 小杉 紘子 (会員)



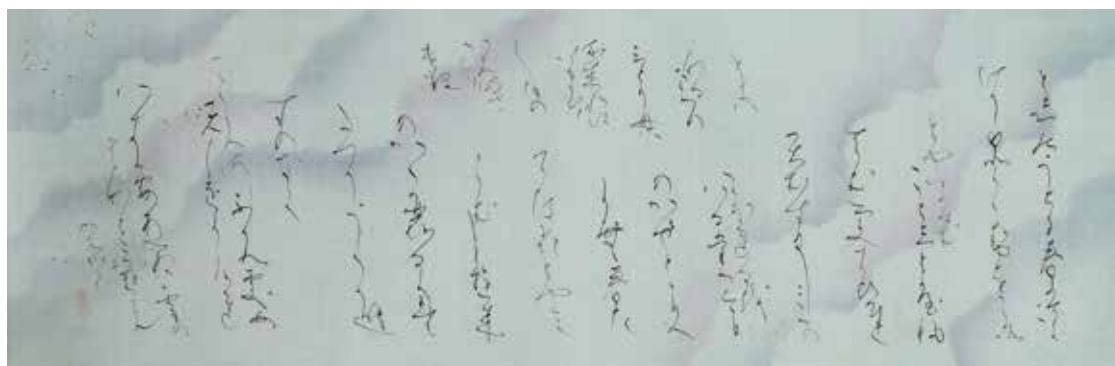
(53×175)

齊安郡晚秋 山城 篤男 (会員)



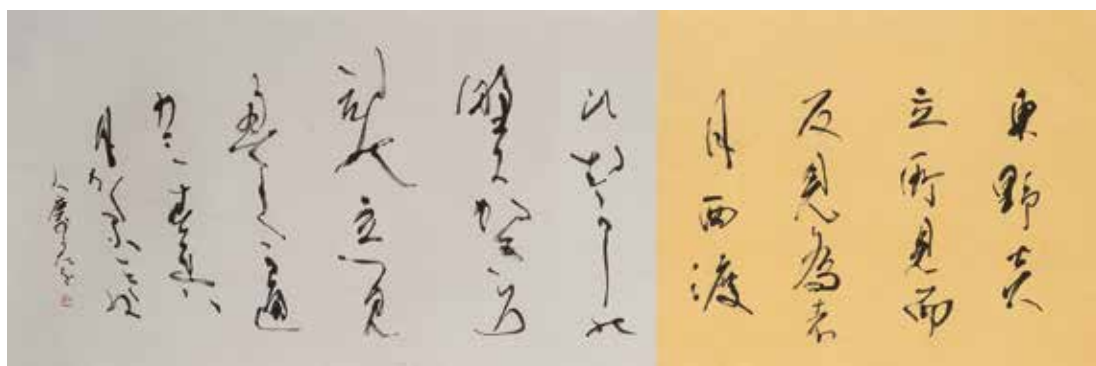
(40×135)

よもすがら… 砂川 米市 (会員)



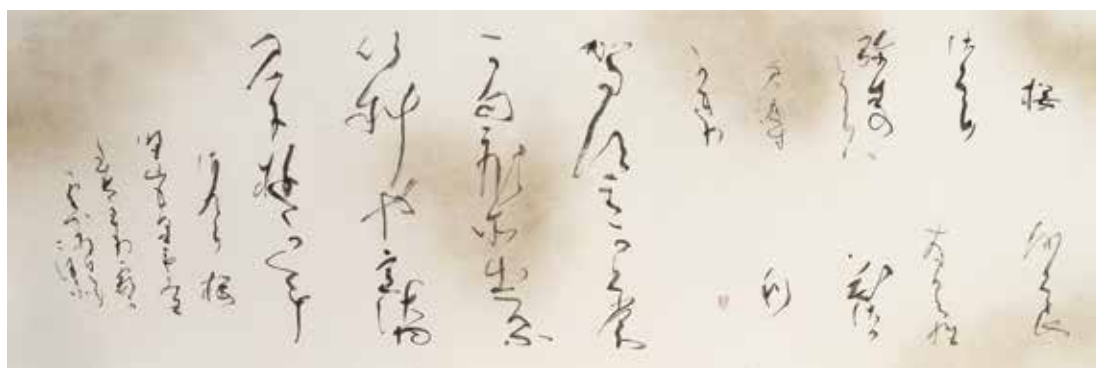
(60×180)

古今和歌集より 上原 幸子 (会員)



(60×170)

ひむかしの 山城 美智子 (会員)



(60×180)

桜 村山 典子 (会員)

## 準会員賞

苦節30年余の悲願成就に讃辞を述べる。とかく書芸術文化の道で、夢目標達成するに並大抵の研鑽努力では成し遂げ難い道程である。それを見事乗り越えた氏の信念と根性に、また書の道を敬愛して止まない心意気に感涙した者の一人である。準会員賞受賞作は漢字の行草体を駆使し、文字群の構成、中でも詩句を選び字面の纏め、墨色、墨量、潤濁の変化も適度に配され40字の漢詩を3行で表現した力量は流石である。遅咲きの山原生まれの氏なれど、ここからの大いなる気概に燃え、この分野の指導的役を存分に発揮し、この道に志望する後輩の育成に大輪の花を期待してやまない。

評—茅原 善元（会員）



早春長安道上  
仲里 徹（準会員）

(227×53)



## 準会員賞



(47.5×67.5)

近業三種 比嘉 邦子（準会員）

氏は、早くから清代篆刻家、とりわけ、浙派に属する陳鴻壽、趙之深等の刻風に着目し、自己の表現に取り入れてきた。また、甲骨、金文等の古典文字及び漢代の古銅印にも範を取り制作してきた。今回の作品は、まさに氏の研鑽の賜である。

多字印における刻線は、熟達した刀法で刻され、端正な中にも響きがあり魅了される。円形朱文印は、周代の金文をモチーフにし、朱白の対比に加え刀の切れが冴えている。印下部における思い切った破触は、印に拮がりをもたせ表現の豊かさを感じる。朱白相間の法を用いた印は、曲直でうまく処理し、荘重にして温雅な印の中に気韻を感じる。印下部に拓された側款は、それぞれ体を異にし、氏の文字造形力の深さがうかがえる。今回使用している印箋は、氏の作品にして効果大。

品格を重んじつつ気魂溢れる作品は、鑑賞者を魅了する。今後も貰っていたきたい。

評—比嘉 良勝（会員）

準会員賞



(79×170)

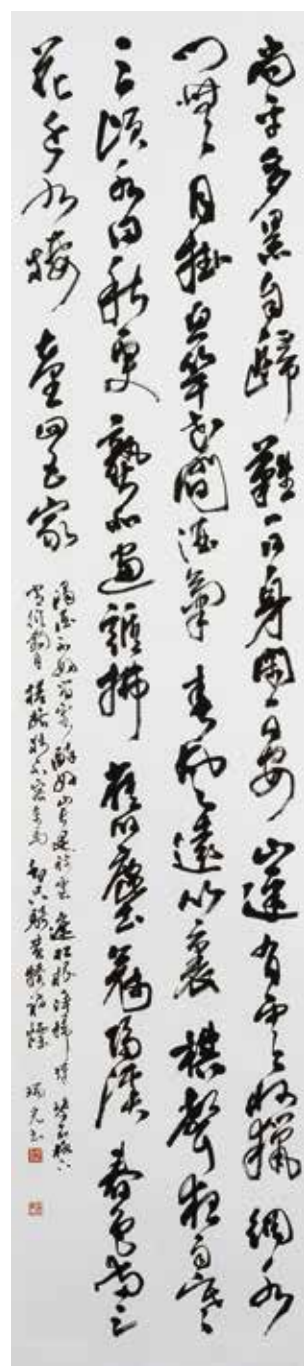
明鏡止水 幸喜 洋人（準会員）

希を銜うことなく、正面から取り組んだ堂々とした作品で快作だと思います。  
黒により抱まれた白（余白）四文字がひと塊となり、白と黒との調和が計られている処に魅力が感じられます。  
後部の「止」の終筆部の渴筆は涼感を生み出しています。又この部分は黒白の対比が生き生きとした動きを見せています。  
全体を流れる透明感ある線が非常に美しいです。気力充実した出来になりました。今後の活躍を楽しみにしています。  
欲を言えば、鏡の字と落款に工夫が望まれます。

評一我喜屋 明正（会員）







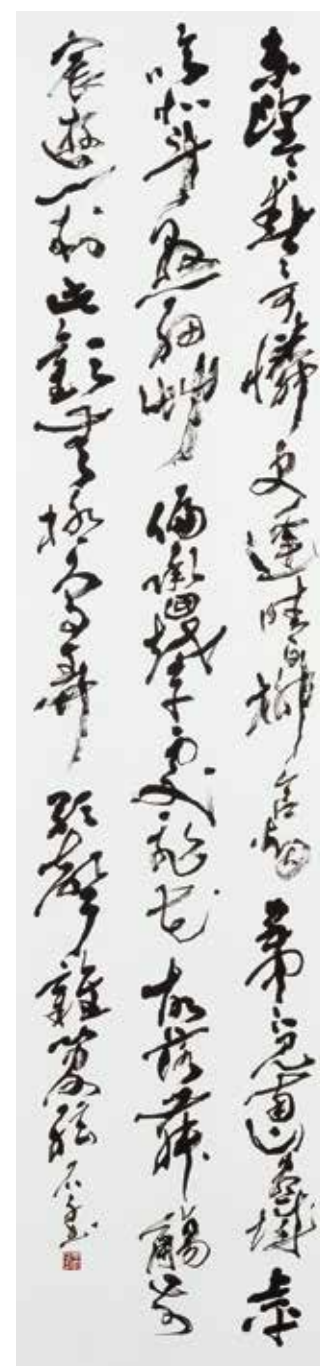
村舍二首其二 他一首  
島崎 サダエ (準會員)  
(228×53)



八言対句  
天久 武和 (準會員)  
(220×55)



漢詩 二首  
友利 通子 (準會員)  
(226×53)



奉和春日幸望春宮應制  
幸喜 石子 (準會員)  
(227×53)



咸陽懷古  
我喜屋 ヤス子 (準會員)  
(227×53)



絕句 他二首  
城間 律子 (準會員)  
(227×53)



李白詩  
吉里 恒貞 (準會員)  
(224×53)

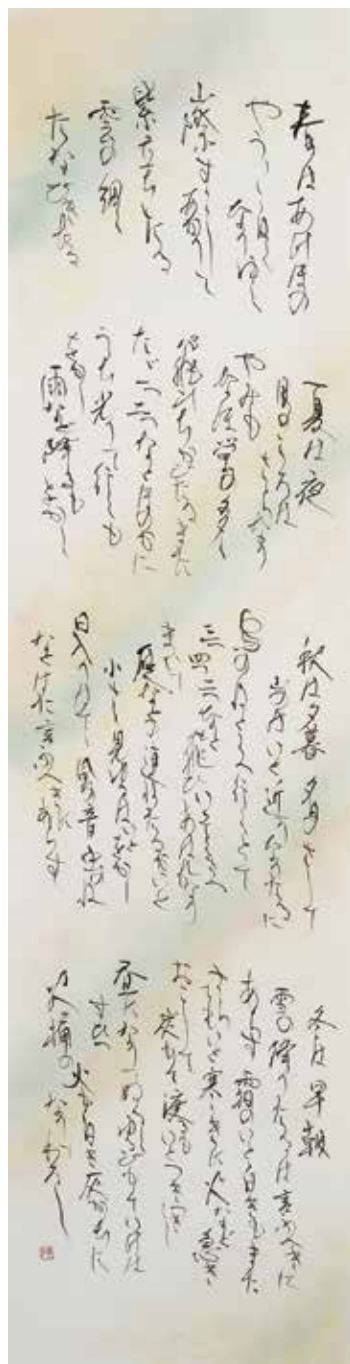


結交 他二首  
新垣 敏子 (準會員)  
(227×53)

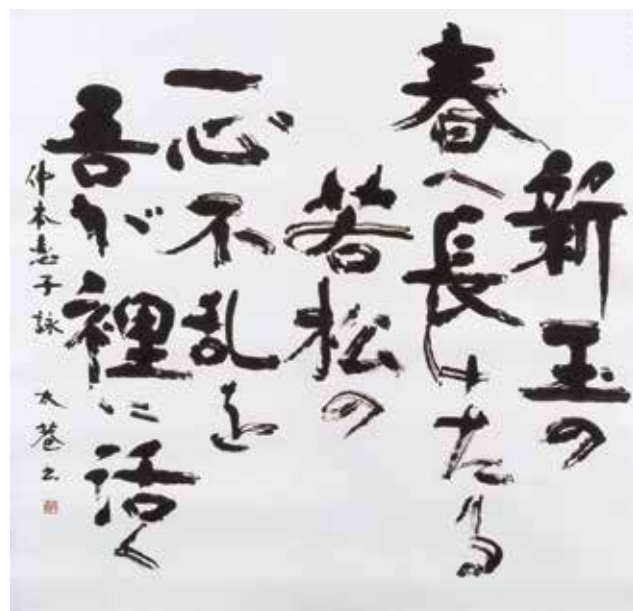




月夜泊虎山橋  
新里 智子 (準会員)  
(226×53)



現代語訳「枕草子」より  
松田 征子 (準会員)  
(227×53)



(125×125) 新玉の 宮城 政夫 (準会員)



(170×70)

賈至詩 上地 徹 (準会員)





(34×374) 部分

長恨歌 豊平 美奈子 (準会員)



(30×360) 部分

劉子翬詩 他三首 与那嶺 典子 (準会員)



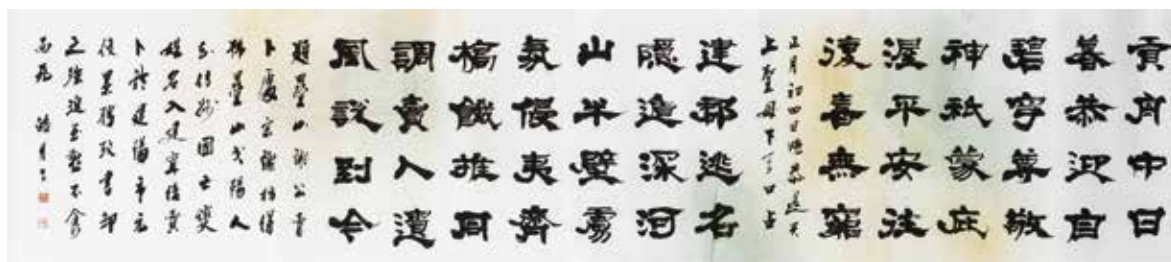
(34×348) 部分

袁宏道詩 上門 かおり (準会員)



(35×340) 部分

寒山詩 島 尚美 (準会員)



(35×316) 部分

蔡大鼎詩 松堂 康子（準会員）



(60×180)

君に恋ひにてし 新里 明美（準会員）



(70×135)

百人一首 吉田 優子（準会員）



(60×180)

旅心 石津 陽子 (準会員)



(26×270) 部分

春の来る 西澤 恒子 (準会員)



(25×332) 部分

やまなみ 本村 晴美 (準会員)



(25×260) 部分

四季 渡慶次 喜代美 (準会員)



沖展賞



(35×345) 部分

程順則詩 仲舛 由美子

ー清すがしい春ー

「東の海上に朝日がのぼり」から始まり、「太平の歌を歌う」で終わる名護親方（程順則）の漢詩を行草体でまとめた卷子の作。海を想わせるようなブルーのぼかしの加工紙に乗せて書いている。色の濃い所は少し墨を重くし、薄い所はシャープに書いたり

し、立体感を出している。

特に盛り上がりの到、河、半、迎、華、等の変化のつけ方は相乗効果を発揮し、一段の躍動感を生み雄大だ。

形と線と空間が秩序を保ちながら絶妙に協調し美しいハーモニーを奏でている。墨色もそれに合わせたように品がある。

すっきりと清すがしい春のような輝きを放った作。

一年かけての作で花開く。さらなる飛躍を。

評ー神山 律子（会員）

奨励賞

180字の多字数の漢詩を大字三行に細字を二行に纏めた作品である。  
作品は律動的で文字群が美しく連なり、墨色も潤渇あり何よりも自然体であり、運筆は洒落た字形は楽しくリズム感に溢れ、羊毛の織りなす線質は恰（あたか）も小川のせせらぎを見ているようである。大字を見せ場に細字を添えに遠近感と立体感が出せた。作者の感情や感動が如実に表現された作品である。

評－豊平 峰雲（会員）

奨励賞



(40×70) 明月流素光 鳳鳴朝陽 福以德招 秋聲天地間 敦篤虚静  
田頭 節子

受賞作は、躍動感溢れる五顆の印を配し、側款ともに緊張感漲る重厚味のある作品である。単調にならないように朱文印・白文印を交互に、9cmの円形印を中央に配置した見応えのある作品は、多くの審査員の支持を得た。  
「明月流素光」（白文）は、「明」字と「月」字が呼応し他字との調和を保つのに功を奏した。すぐれた印面構成とともに立体感のある作となった。「鳳鳴朝陽」（朱文）「福以德招」（白文）は、金文で動きのある造形を活かし、伸びやかに大胆に刻した。特に「福以德招」の「福」字と「招」字はタテ長に印面積を広くとり、甲骨文字と金文を用いて画数の多い「密」と「以」字の画数の少ない「疎」を真ん中に布字し、疎密のバランス、四字の相関関係が絶妙にマッチした。「秋聲天地間」（朱文）「敦篤虚静」（白文）は小篆を用い、ゆったりとした線條で明るく穏やかに表現。「敦篤虚静」は呉昌碩を意識した作。  
今後ますますの精進を期待したい。

評－金城 多美子（会員）



賦得秦淮送宋仲珩 他二首  
上原 千枝美  
(225×52)



歐陽修詩  
知念 一正  
(227×53)

奨励賞

長鋒の羊毛と濃墨を使って表現された粘りある線と潤濁が力強さと奥行きを感じさせています。明るく立体感のある作品です。文字の大小、線の太細、余白の疎密なども調和がとれて上手く処理されています。行間の響きもあり、見ていて心地よさを感じます。

例えば中央の「夜聞歸雁生鄉思」辺りの文字、行間です。用具の選定や構成の意図もそこにあったかと思います。全体的に力みも無く、ゆったりとした印象を感じるの、臨書で得た筆使いと古典に対する探究心に加え、書き込むことで筆と一体化し、紙と対話しながら書かれたからだだと思います。

これから臨書を通して書を理解し、知念さんの目指す書に向かって歩まれてください。よき指導者になれることを心より願っております。

受賞おめでとうございます。

評－山城 篤男（会員）

奨励賞



(70×173) 琉球鳥瞰図 玉城 笙子

読みやすく親しみやすい調和体（近代詩文書）は、自分が書きたい詩歌等を見つけ、それをどのように表現すれば詩情豊かな作品になるかを考えて取り組むことが肝要であろう。

玉城さんが、今回選んだ詩文は、幼い頃母に連れられ度々訪れたことのある三重城の記述があり、その三重城で母が語っていた伊江島や、慶良間、ジャンパ岬も出てくるので親しみを覚え創作意欲が湧いてきたとのこと。

作品は、上部に余白を広く取って大空をイメージさせ、中央に大字、下部左右に詩文を細字で配した構成で鳥瞰図の雰囲気醸し出している。

大字は躍動感があり、細字は行間が美しく、文字の大小、漢字と平仮名の調和、潤濁の配り方も自然で、確かな運筆で纏め上げているので観る人を惹き付ける。

作品は、今は亡き母を偲びつつ、空から見た沖縄の島を想像して筆を運んだらしいので、詩情豊かな作品が生まれたのであろう。

二度目の受賞おめでとう。次回の作品も楽しみだ。ご精進を！

評－宮里 朝尊（会員）



## 浦添市長賞

中国明・清の古典に学び、特に王鐸の書に魅力を感じるという山里さん。弛まぬ努力が実を結び、今回の受賞となった。おめでとう。

受賞作は、強靱な線質、蛇行する川の流れを連想させる流麗な行の流れ、墨の潤渇・字の大小を生かした、字間・行間の響き合いなどを考慮して運筆され、さらに、爽（さわ）やかなイメージで全体を纏め上げた。その力量はさすがである。

氏は、長い間行政及び政治の世界に携わってきたが、その間片時も書道を忘れず30年間続けてきた。23年前に、同志と共に小、中、高、一般を網羅した久米島新春書道展を創設し、毎年町を挙げて取り組み、今年第23回展が開催された。後に続く指導者が育つことを切に願って、奮闘している。

自他共に認める久米島書道界の牽引者は、70歳にして沖展初の受賞となったが、これを契機に大なる飛躍を期待する。

評—西藏盛 秀雄（会員）



淮上乞魚門盆松得松而歸  
山里 昌輝  
(225×53)

## うるま市長賞

昨年の奨励賞に引き続き、うるま市長賞おめでとう。着実に力がついた作品でした。川の流れの様なゆったりして観る人に安らぎを与える雰囲気のある作品である。作品構成の要素は文字の大小、字間、行間、余白等で、それが旨く処理され良作に仕上がっている。多字数作品の大きなポイントが潤渇の妙味で遠近感が出てくる。

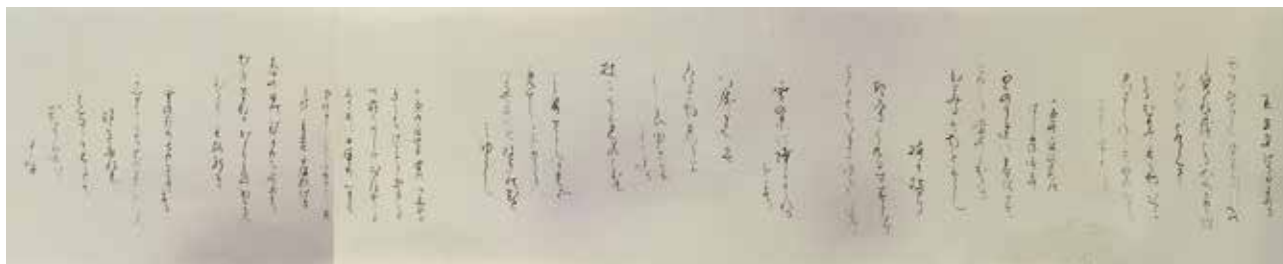
作品構成の要素を旨く取り入れ処理した表現が成功したと思う。背景には長年研究課題にしている王鐸の連綿を駆使した様に見える。ただ墨継ぎの文字数が同数の為、作品が斜めに分断されている様に観えるのは少々残念です。また、紙と墨色の研究が必要でしょう。課題を克服しますますのご精進を期待します。

評—大城 稔（会員）



秋涼 他二首  
島袋 園子  
(227×53)

## e-no株式会社賞



(30×345) 部分

古今和歌集より 春のうた 上元 優

古今和歌集より春の歌17首を卷子本にまとめた作品。詞書きも含めると約20首分の字数を収めたことになろう。まずは、これだけの量を書きこなした精神力と集中力を讃えたい。

もちろん、字数が多ければ良いのではない。動きが単調にならぬ様、並列にしたり、散らし書きにしたりと紙面をゆったりとうねらせ大きく見せる工夫をしている。そして最も大切な一文字一文字の結体には、基礎となる古典臨書学習の跡がうかがえる。それは運筆の角度に表れる。勢いを出そうとすると右肩上がりになりがちの処そうならぬ様意識し、その行の上下左右の関係に呼応した形を作るためあらゆる角度に動いている。

二首目の「そ(所)でひぢて(弓)む(無)す(春)びしみ(三)づの(能)こほ(寶)れるを(越)は(者)るたつけ(希)ふのか(可)ぜやとく(九)らん(牟)」は、線質が強く、文字の疎密感から生まれる緩急のリズムや墨色の変化も自然で美しい。特に渴筆部分ではよくこらえながらも気力を充実させている。「とく(九)らん(牟)」で墨継ぎし次の歌の終わりまで通したことで明るさも生まれた。部分によっては字型に集中するあまり筆勢が弱まる箇所もあるが考えながら運筆している証でもあり、逆にその丁寧さに好感が持てる。

今後もコツコツと臨書を続け、自らの人生と共に書も深く学び味わってもらいたい。

「継続は力なり」。将来に期待します。頑張ってください。

評一 仲本 清子(会員)

# 写真部門

## 総評一翁長 盛武（会員）

一般応募は、165人300点。前年比で15人18点減。87点が入選・入賞し、入選率は29%で0.1%上昇した。10人で審査し、挙手で入選87点を決め、その後絞り込んでいき、最後は点数付けの無記名投票により沖展賞を含む6点の賞を決めた。尚、沖展賞の仲間氏は会員の合議で準会員に推挙された。

一般応募に含まれる学生は3人5点で、前年比で1人減だが、応募点数は5点で増減なし。e-no株式会社賞（旧「沖縄教育出版賞」）に選ばれた比嘉さんは、去年に続き連続受賞であり、作品レベルも高い。

準会員は、14人中6人6点が応募。前年比で3人3点減。東氏が準会員賞を受賞した。

今回印象に残ったのは、準会員、学生を含む8点の入賞作品のうち、7点が組み写真であること。3～4枚で組んでいるが、その中に同じイメージの写真がダブってしまったのが、4作品あったこと。補正のし過ぎで強いノイズが出た作品が、入選から降ろされたことである。

入賞作品について、書いてみたい。

まず、準会員賞の「一意専心」はプリントが群を抜いている。その場の雰囲気伝わり、臨場感がある。感覚的に感動が伝わる。沖展賞の「男が神になる日」は、安田のシメグと思われるが、伝統を親から子へ引継ぐ、或いは引き継いでほしい作者の思いを感じた。

奨励賞の「スーヅグワの雨」は、しっとりとした雨の日の雰囲気が出ている。特に、3枚目の写真が素晴らしい。軒下から落ちる雨にストロボを当て、雨粒を表現したか。

奨励賞の「街角彩色」は、街を歩きながら楽しく写真を撮っているのが感じられ、好感が持てる。3枚目の写真がおもしろい。彼女特有の色彩感覚か。見ていて私も、楽しくなってきた。

### 会員作品

水と暮し——大 城 信 吉  
朝日を待つ滝——翁 長 達 夫  
島のくらし——翁 長 盛 武  
午前3時——崎 山 洋 子  
唢呐の音色——島 元 智  
ゆび三様——末 吉 はじめ  
親田御願(ウェーダウガン)——渡久地 政 修  
午前3時 農連市場——中 山 良 哲  
沖縄のヒンブン——普 天 間 直 弘  
なまはげ太鼓——真 栄 田 義 和  
拝彩ーハイサイー——山 川 元 亮  
空地共演——吉 直 新一郎

### 準会員賞

一意専心——東 邦 定

### 準会員作品

農場風韻彩——池 原 徳 明  
祈りの肖像——仲 宗 根 直  
生き物の顔を撮る——前 田 貞 夫  
阿吽の呼吸——宮 城 和 成  
瞬環——山 内 昌 昭

### 沖展賞

男が神になる日——仲 間 智 常

### 奨励賞

スーヅグワ(路地裏)の雨——親 富 祖 勝 枝  
川面のシンフォニー——喜 名 朝 駿  
街角彩色——玉 城 律 子

### 浦添市長賞

那覇市農連市場——豊 里 友 行

### うるま市長賞

ライバル——与 儀 文 夫

### e-no株式会社賞

アガミン——比 嘉 尚 哉



## 一般入選作品

雨音聞きながら——赤 嶺 喜 孝  
 いらっしゃ〜い——安 里 寿 美  
 観楓の詩——安 里 涼 子  
 未来水族館——安 里 涼 子  
 新緑——天 久 昌 子  
 闘争心——新 垣 允 啓  
 ひとり占め——新 城 直 美  
 寂光——新 田 みゆき  
 夜を彩る  
 東京ディズニーランドー池宮城 繁 夫  
 ミツパチ——伊 禮 昌 平  
 おやじ猫——宇 栄 原 格  
 サーファーと天使のはしごー宇 栄 原 格  
 棒巻ち——お お き ゆうこう  
 ウングミ——大 田 五十士  
 生きる——小 椋 力  
 霧中の閑——我 喜 屋 功  
 交渉——我 喜 屋 功  
 冬至に祈る——亀 島 重 男  
 炎熱色——亀 島 重 男  
 巨大綱登場——喜 名 朝 駿  
 つなぐ——儀 間 生 子  
 おねだり——儀 間 生 子  
 西表島 岩の造形——喜 屋 武 敬 子  
 大空へ——具 志 堅 興 清  
 水臨——國 吉 倖 明  
 別離——國 吉 倖 明  
 泥だらけのレース——國 吉 健 郎  
 祭り前の神人——國 吉 健 郎  
 rain——小 出 由 美  
 夜の街角——小 出 由 美  
 撮る——幸 喜 あかり  
 里の秋——幸 喜 あかり  
 「豪雪」——米 須 末 子

男の化粧——崎 濱 慶 子  
 オーロラを探し求めてー島 袋 直 美  
 水上マーケット——島 袋 陽 子  
 しんしんと——島 袋 亮  
 冬の音——島 袋 亮  
 冬の味覚を楽しむ——城 間 由美子  
 花のまわりで——城 間 由美子  
 ボクの宝物——しんざと えいじ  
 君の名は——砂 川 悦 子  
 巨匠——添 石 艶 子  
 閑寂——副 田 保 子  
 福が来た——高 良 拓  
 台風の置みやげ——谷 利 宏  
 銀輪の風——知 念 和 範  
 ジャケット——坪 内 謙  
 馬上から球美の浜——当 真 嗣 和  
 群舞——渡 具 知 武 美  
 居残り——富 村 盛 信  
 おばあちゃんっ子——豊 里 友 行  
 里で生きる——永 味 節 子  
 少女——永 山 直 樹  
 祭りの男衆——中 山 尚 子  
 トビイカ 夏の風物詩——名 城 克 哉  
 鉄魂——並 里 和 子  
 一喜一憂——西 原 けんじ  
 闘志の面——西 平 守 光  
 夏——福 増 俊 夫  
 影のアート。——福 村 安 政  
 神ねがい——真 栄 田 静 子  
 たから——正 木 虎 夫  
 アカギ崇敬——正 木 虎 夫  
 遊び場——又 吉 全 一  
 「祈り」——宮 城 哲 子  
 私が一番——宮 城 文 正

残郷——宮 城 良 信  
 南風原の大綱づくり——宮 城 米 子  
 秋の終わりに——宮 城 米 子  
 茶目っ気——宮 良 正 子  
 スポットライト——本 部 理 華  
 願意：無病息災——諸 見 里 安 吉  
 悪霊祓い——諸 見 里 安 吉  
 暗雲到来——安 田 正 昭  
 浸食海岸——屋 富 祖 良 敬  
 顔・顔・顔・顔——山 内 千代美  
 宝水発見——山 内 弘 子  
 大物ゲット——山 内 弘 子  
 庭のいちむし——山 田 恵美子

## 特別展示

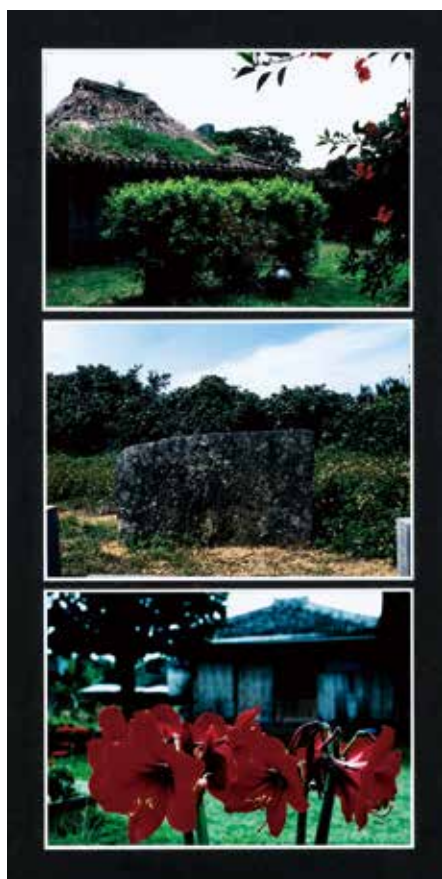
市場へ奥武島1966年—山 田 實



ゆび三様(66×85) 末吉 はじめ(会員)



朝日を待つ滝(96×67)  
翁長 達夫(会員)



沖縄のヒンプン(75×50.5)  
普天間 直弘(会員)



島の暮らし(77×112) 翁長 盛武(会員)



午前 3 時 (60.5×54.5) 崎山 洋子 (会員)



唢呐の音色 (90×130) 島元 智 (会員)



午前 3 時 農連市場 (82×105) 中山 良哲 (会員)



親田御願 (ウェーダウガン) (152.5×84.5)  
渡久地 政修 (会員)





水と暮らし(82×107) 大城 信吉(会員)



空地共演(110×80)  
吉直 新一郎(会員)



なまはげ太鼓(110×82)  
真栄田 義和(会員)

準会員賞

一意専心(85×151) 東 邦定(準会員)



東さんの作品はこれまでの沖展賞、奨励賞等を見るに独特の“焼き”がありその高いノウハウに心打たれるものがあります。今回もしかり、鉄を焼き打ち伸ばし農具をつくるチャンマーの男性、その彼らの何かを射通すような入魂の表情とコメカミの汗、油のしみ込んだ指や爪、それらを通して画面から迸（ほとばし）るようなビジュアル・ウエイト、それが観る側に迫り伝わって来ます。準会員として最もふさわしい作品と言えよう。ところでハンマーを打ち火花を散らせている男性のバックの白つぶれ、一考を要する点かと見ます。今後の活躍に期待して称賛の言葉を贈ります。受賞おめでとうございます。

評—島元 智(会員)



生き物の顔を撮る (73×103) 前田 貞夫 (準会員)

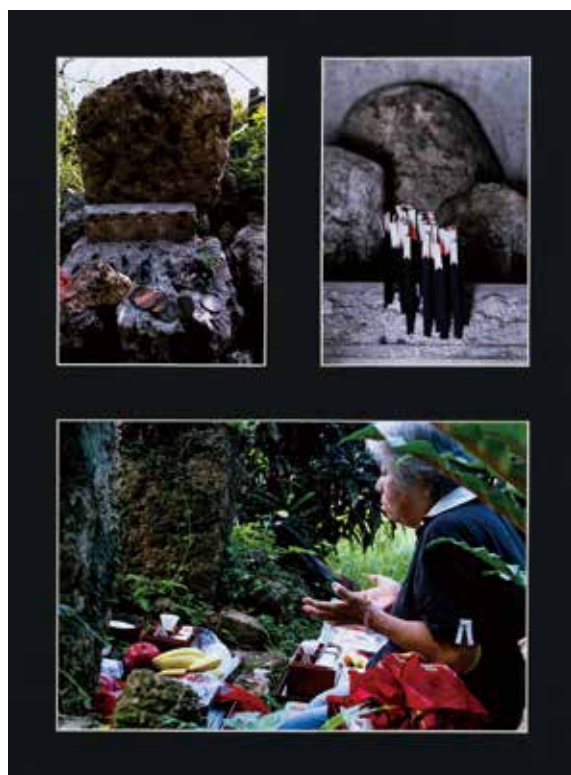


瞬環 (83.5×112.5) 山内 昌昭 (準会員)





阿吽の呼吸(61×74.5) 宮城 和成(準会員)



祈りの肖像(84×63) 仲宗根 直(準会員)



農場風韻彩(115×84) 池原 徳明(準会員)

# 沖展賞

男が神になる日(70×114) 仲間 智常



仲間さんは、安田の大シヌグを初めて取材するためにどのように行われる祭祀行事なのか改めて調べ、男たちが神になる荘厳な表情の瞬間を捉えようと自身も草木やツルを纏い祭りの雰囲気を壊さないように挑んだと言う。

大太鼓を抱えるリーダーは、全身に草木やツルを纏いその風貌は威厳と風格があり、静かに出番を待つ親子にも緊張感が漂っている。アップでとらえた童神は目を一点に据え口を少し開けた様子も緊張感と変化を与え画面を引き締めている。

モノクロでローキー調に表現したことにより、厳粛で神秘的な祭祀がいつそう強調された。何よりも組み写真の統一感のある色調が評価されたものと思います。2016年に奨励賞、今回の受賞で準会員に推挙された。おめでとう！これからのご活躍を期待します。

評一大城 信吉（会員）



## 奨励賞

### 川面のシンフォニー(83×141) 喜名 朝駿

川面の滑らかな質感、水のゆらぎ、おだやかな夜舟を動かしながらシラスウナギを綱ですくう漁らしく透明感があり緑、白、黄と色が強調され全体に広がって美しい世界を築いている。

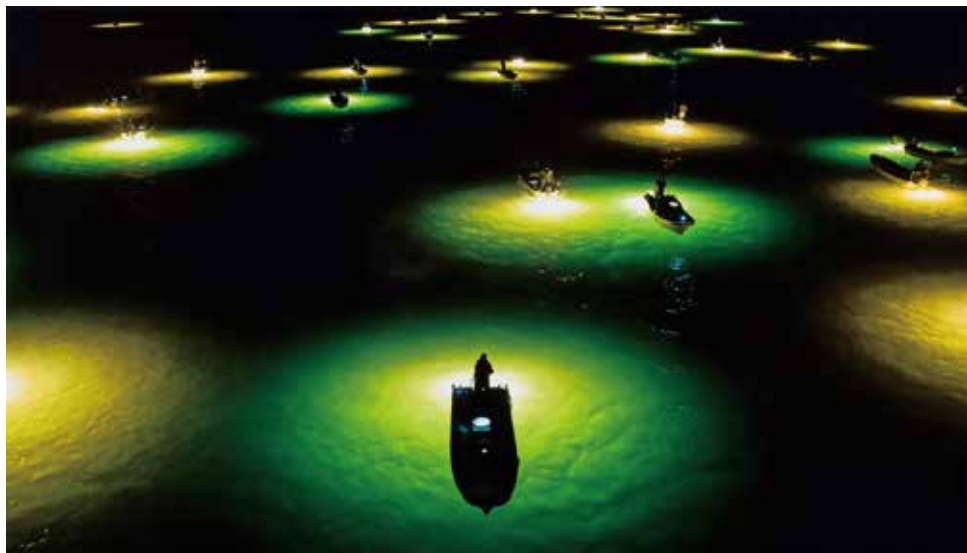
近景は良、遠景はもうすこしのぼした構図にすると変わるかな。

舟が遠くまで続く様子をファインダーを覗き見しながら遠景の被写体をきめても良いと思う。

写真歴は長い方で奨励賞1回、うるま市長賞を2回射止めた。

次は沖展賞を狙って下さい。

評一翁長 達夫（会員）



## 奨励賞

### スージグワー(路地裏)の雨(83×113) 親富祖 勝枝



小雨降るさむぎむとしたスージグワーの情景が印象的です。左の写真は屋台で談笑しながら飲んでいる三人の傍らを大きなリュックを背負った女性の後ろ姿が、屋台と歩道の暖かいオレンジ色の明かりとは対照的に、何となく孤独感を感じさせます。

真ん中の男性の後ろ姿も哀愁をおびていて何か足りないものを探しに行く寂しそうな姿である。画面全体がブルー一色なのも叙情をかきたてる空気感があり配置も良かった。

右の写真は、雨脚の激しさが伝わるようで雨粒がレンズに降りかかり、一層冷たい空気感が伝わってくる。冷たい小雨の中、温もりを求めて、屋台に駆け込む人たちがシルエットのようになったが、屋台の人たちの様子が見えるようにして変化をつけたかった。

作者は感性豊かで雨を逆手に取って、詩情に富んだ作品に仕上げました。その腕前に感服する。今後一層のご活躍を期待します。

評一中山 良哲（会員）



## 奨励賞

街角彩色(112×63)

玉城 律子

かつて写真は引き算、と言う教えがありました。主題以外は出来るだけカットするやり方。しかし、百年に近い研究、心理学から生み出されたゲシュタルトの法則が世の中にはあります。玉城さんの作品は、そのゲシュタルトの重要な要素である、プレグナンツの法則で見ることが出来ます。街角のいろんなものが、画面を占めていますが、どれ一つカットしても、そのカットした分のプレグナンツ効果を消滅させてしまいます。色彩についても同様。個々の一つ一つのものが全体の内容、バランス、統一性等を生み出すというプレグナンツ効果、それが高い作品と観ました。ただ、彩度の上げ方に多少の課題を感じられますので、今後の研鑽に期待します。

受賞おめでとうございます。

評—島元 智(会員)



## 浦添市長賞

那覇市農連市場(79×110) 豊里 友行



豊里さんは2011年から6年間、那覇の農連市場を撮り続けた。農連市場はアンマー達が元気にユンタクしながら商いを楽しむところである。

作者はその雰囲気をしっかり描写した。長閑(のどか)な昭和の市場風景がそのまま残り、昨年まで続いてきた情景である。記録として良い写真であるが、作品としてもバランスよくまとめ上げており、見る人をして、郷愁へと誘い、心癒される秀作といえる。欲を言えば、ここでの主人公は人であり、その人を浮き立たせたかった。左2枚とも、奥のアンマーにピントをあてるべきと思う。商品はボケるが、人物に目がいく。他のアンマーたちが笑顔なので、下左のアンマーにも一声かけて、笑顔を誘うとさらに良かったと思う。ここは時代の変化の中で「農連プラザ」として新装オープンしたが、ぬくもりもある「アンマーたちの心」が今後も受け継いでいかれるようお願いしたい、と作者は言う。

沖展には今回2度目の応募で入賞となった。豊里さんは写真集も数冊出し、個展も数回行っているプロ写真家である。来年以降も期待している。

評—渡久地 政修(会員)

## うるま市長賞

ライバル(76×110)  
与儀 文夫

与儀文夫さんは、今回初めてうるま市長賞の受賞となった。受賞おめでとうございます。

作者は、国頭村の大園林道に行ったとき、林道に車を停めていたところ、偶然にキセキレイがサイドミラーにとまった。車の中から時間をかけてチャンスを待っていると、サイドミラーに写るキセキレイの姿を敵とみたのか、攻撃的になり、くちばしでミラーを突いて羽ばたいた瞬間を撮影したのが、本作品であるとのこと。サイドミラーを背景に撮影した3枚の組写真構成であるが、被写体の動きを的確にとらえたのが成功したと思います。

与儀文夫さんの今後のご活躍を期待します。

評－真栄田 義和（会員）



## e-no 株式会社賞

アガミーン(111×64)  
比嘉 尚哉

比嘉さんは、一昨年知念高校写真部員として参加した写真甲子園で見事準優勝、昨年は高校3年生で冲展入賞、専門学校生となった今年、2度目の入賞を果たしました。この快挙に心からの賛辞を贈ります。

浜比嘉島でのシーミーの情景を撮影した今回の入賞作品は、比嘉さんのこれまでの真摯な写真創作活動の集大成とも言える、うむいのこもった味わい深い組写真となりました。

沖縄の人達のご先祖様に対する温情を心で感じ、そのうむいを3枚組で表現しました。見慣れた写真ですが、若い写真家の感性と将来性を感じさせる見応えのある作品です。

1枚目の作品は明るい空の部分が目立つので、手前側の岬を多く入れ、2枚目3枚目と同じモノクロのトーンで仕上げることで、より完成度の高い組写真になります。今後、比嘉さんが写真に対する感性を更に磨き精進努力することで、沖縄県の若き写真家としてますます活躍されることを期待します。

評－吉直 新一郎（会員）

# 工芸部門(陶芸)

## 総評一島袋 常秀 (会員)

第70回沖展陶芸部門の応募点数は去年より1点多い68点だった。作品の傾向として、シーサーや特大作品が少なくロクロ成形作品が目立った。受賞作品もロクロ成形から5点、その他から1点だった。

沖展賞受賞の山内徳光さんは、去年に次いで2度目の入賞である。大皿をロクロ挽きする技術が身について、形もしっかりしている。スリップウェアの加飾技法も手なれているが、もう少し白地の部分もほしかった。

奨励賞の谷口室生さんと山城尚子さんは、沖縄の伝統の陶土や釉薬を使用し、各々の加飾技法で作品を仕上げる作陶姿勢には感心させられる。

浦添市長賞の宮國健二さんも68回に次いで2度目の入賞で、実力の程がうかがえる。得意としている三島手技法を嘉瓶に配した作品は、伝統の形態に三島手が良く生かされている。

うるま市長賞の小浜由子さんは、初出品の受賞であり、新人としては実に丁寧な仕事ぶりである。磁器土による飾り箱は少しのゆがみもなく蓋もしっかりはまっている。加飾も全体が落ち着いた釉薬で良かった。

e-no 株式会社賞の鈴木まことさんの「パズル」の作品は、伝統の釉薬を使用せず、「透明マット」という独特な釉薬を使用して個性的な作品となっていて、今後期待したい。

最後に今回受賞・入選された皆様、おめでとうございます。これからも作陶に頑張って、来年の沖展にも素晴らしい作品が展示される事を期待いたします。



#### 会員作品

花器——新垣修  
赤絵烏文角鉢——新垣初子  
キビ灰釉線彫  
数多立方体紋大皿——新垣寛  
草花紋窓絵鉢——大宮育雄  
琉球花三島大鉢——親川唐白  
黒毛印花前傾座型獅子——小橋川昇  
満願大対獅子——島袋常栄  
赤絵飛匏色差皿——島袋常秀  
大皿——玉城望  
嘉びん——松田共司  
赤絵壺——山田真萬  
座型玉泡き親子シーサー——湧田弘

#### 準会員作品

焼締古酒甕——伊禮クニヲ  
宇宙のリズム——佐渡山正光  
おしり TO おっぱい——山内米一

#### 冲展賞

環——山内徳光

#### 奨励賞

1尺5寸皿——谷口室生  
オグスヤー指描皿——山城尚子

#### 浦添市長賞

花三島嘉瓶——宮國健二

#### うるま市長賞

EDM BOX 80's——小浜由子

#### e-no株式会社賞

パズル——鈴木まこと

#### 一般入選作品

銀河——秋元ナナ  
座伏黒釉焼シーサー——安里幸男  
灰釉組皿——新垣智  
赤絵花器——新垣智  
スー(潮)又華——新垣安隆  
麒麟——新垣優人  
黒彩叩き菱文壺——石倉一人  
器——伊志嶺達雄  
キビワラ氷裂釉壺——伊良波幸繁  
黒釉六面鉢——大城千秋  
竹筒 灰かぶり——大城雅史  
月桃紋焼き締め壺——小原高弘  
石垣文様円形花器——金城安正  
雲海——幸地良丈

#### キング・オブ・ポップの彷徨

(Billy Jean Once Again)——小森秋雄  
威嚇——佐野壽雄  
線彫三彩八寸組鉢——下地葉子  
花ハベル——新里みお  
キビ白釉花器——照屋敏雄  
灰掛け黒鉛壺——當銘保  
新緑——渡嘉敷勇  
パーキいっばいの平和を……——仲宗根寛昭  
シーサー——仲村渠哲夫  
戯れる——林正人  
海のカジマヤー——比嘉正徳  
龍柱——比嘉武夫  
氷列釉壺——比嘉裕之  
唐草搔落平皿——藤岡恭平  
三彩飛匏皿——藤岡恭平  
龍(威嚇)——前原常男  
葉文大皿——松尾暢生  
飛翔前夜——神谷幸江  
サンゴ形花器Ⅰ——嶺井律子  
窓絵アメ染付安瓶——宮城敦

三輪花——宮城一子

呉須染付 巻唐草紋尺皿——宮城真弓

呉須染付 7寸

巻唐草紋 5枚組皿——宮城真弓

風のうた——安田淳夫

黄金釉扁壺——吉村明

#### 特別展示

耳付赤絵花瓶——新垣勲



座型玉抱き親子シーサー 右(H48×W35×D27)  
左(H47×W27×D22)  
湧田 弘(会員)



キビ灰釉線彫数多立方体紋大皿  
(H8×W58×D58)  
新垣 寛(会員)



赤絵飛鉋色差皿(H11×W49.5×D49.5)  
島袋 常秀(会員)



嘉びん(H42×W20×D20)  
松田 共司(会員)



満願大対獅子(H45×W22×D35) 島袋 常栄(会員)



赤絵壺(H25×W28×D28) 山田 真萬(会員)



花器(H35×W35×D15) 新垣 修(会員)





草花紋窓絵鉢(H15×W47×D47) 大宮 育雄(会員)



琉球花三島大鉢(H12×W45×D45)  
親川 唐白(会員)



赤絵鳥文角鉢(H5×W26×D26) 新垣 初子(会員)



宇宙のリズム (H52×W47×D47)  
佐渡山 正光(準会員)



焼締古酒甕 (H62×W42×D42)  
伊禮 クニヲ(準会員)



おしり TO おっぱい 右(H12×W30×D35) 左(H12×W30×D30)  
山内 米一(準会員)

## 沖展賞

環(H13.5×W63×D63) 山内 徳光



沖展賞受賞おめでとう。昨年に続く入賞である。昨年は奨励賞に甘んじたが、今回は堂々と沖展賞を受賞した。作品は径63cmの大皿である。これだけの大作でありながら比較的薄目に仕上げられており、作者の技量の高さがうかがえる。皿は径が大きくなるにつれてデザインの力量が問われるものである。数センチ大きくなるだけで平面がかなり増えるからである。

本作品は3種類の色化粧土を使っているが、色合いを渋く抑えたために器全体が引き締まり、重厚な雰囲気を出している。器の大きさとデザインが上手くマッチした成功例といえよう。また、スリップウェアの羽根の使い方も、昨年の作品に比べ技術的に研究の跡がうかがえる。大きな進歩である。スリップウェアの装飾は、とすると派手な色合いになりがちであるが、こういう作風で仕上がったものは初めて観た気がする。もしかすると新しいスリップウェアの表現方法が生み出せるかもしれない。大いに期待したいものである。

評—親川 唐白（会員）





## 奨励賞

1 尺 5 寸皿(H18×W45×D45)

谷口 室生

奨励賞を受賞された谷口室生さん作「1尺5寸皿」は、コバルト釉とマンガン釉を白化粧の上に線模様で染付けした大皿です。

白化粧の白、マンガン釉の茶、コバルト釉の青がシンプルなデザインで、すっきりとまとまり、観る側に爽(さわ)やかな印象を与えます。染付模様は、真直ぐ丁寧にぶれることなく、引かれています。口縁部の化粧土を削り落とすことにより、皿の輪郭をはっきりさせ作品全体を引き締める効果が良く出ていると思います。一尺五寸の大皿は、浅めに成形され歪みや、へたりもなくクロロ引きの確かさが感じられます。見て眺め使うという「用と美を兼ねる」飽きのこない作品です。谷口室生さんの今後ますますのご活躍を期待しております。おめでとうございます。

評—玉城 望(会員)

## 奨励賞

オーグスヤー指描皿(H12×W52×D52)

山城 尚子

山城尚子さんの「オーグスヤー指描皿」は、全体としてとても力強い印象を与える作品となっている。それは指描き技法によってもたらされた緊張感と、登り窯によるしっかりした焼成によって産み出されたものだと思う。

オーグスヤー(沖縄の伝統的な緑釉)の発色もすばらしい。

この作品の指描きという技法は、成形した素地に、白化粧を施し、乾燥状態を見定めて釉薬を生掛けして、そこに指で紋様を描くものである。その時、指描きは一挙におこなう必要があり、それが作品に勢いと力強さをもたらしている。

山城さんは一昨年と同じ技法による作品によって、奨励賞を得ている。この技法において安定した技術を有している、ということだと思う。

今後の一層の努力と活躍を期待します。

評—大宮 育雄(会員)





## 浦添市長賞

花三島嘉瓶 (H50×W28×D28)

宮國 健二

浦添市長賞おめでとうございます。受賞作品は、嘉瓶の胴全体に施された花三島である。三島文様が見る人を惹きつける。複雑な手法に見えるが、型押しの反覆だけに仕事の手順は簡易だと言える。しかし、印を押す集中力と印花の大紋小紋のバランスセンス、そして白土を埋め込み掻き落とす、この様な仕事はすぐに身につくものではない。長年の三島手に対する情熱だけがそれを完成させるのだ。

嘉瓶の形も三島印花紋をうけるにふさわしく豊かな形であるが、ひとこと申し上げれば口を押さえ、しっかり押し返すことによってさらに形が引き締まったに違いない。

来年も熟練した技と美に期待します。

評—松田 共司（会員）

## うるま市長賞

EDM BOX 80's (H9.5×W31×D24)

小浜 由子

沖展初出品でうるま市長賞の受賞、おめでとうございます。受賞作「EDM BOX 80's」は磁器土で作られた飾り箱であり、とにかく丁寧に作られていることが感じ取れた。審査会場でも多くの会員の興味を引いた作品であった。箱物の合わせ口は陶器の場合、収縮や変形が大きい傾向がある為、ある程度の「遊び」を取った上、施釉しない場所を多めに作らないと焼成時にくっついてしまったり、変形で開かなくなってしまう。

この作品では「遊び」も最小限、内側も銀彩を施し、更には底面にも施釉してある。何度も焼成を繰り返しながらも、焼成前、焼成後にどの釉薬を施釉していくのか綿密に考え作っていることがうかがえた。模様に関しても作品名の EDM「Electronic Dance Music」を感じさせる機械的な模様の上絵転写を使っており、しっかりと作者の意図が感じ取れた。今後もこの勢いで新しい風を沖展に吹かせてくれることを期待しています。

評—新垣 寛（会員）





## e-no 株式会社賞

パズル (H7×W36.5×D36.5)

鈴木 まこと

70回記念展においての受賞、誠におめでとうございます。

作品は色調トーンの落ち着いた色合い。皿の周囲に花や蝶、動物等が描かれている。絵本の挿絵のような感じで楽しく好感のもてる作品だ。

これからも見る人使う人に楽しさを与えられる作品作りを期待したい。

評—小橋川 昇（会員）



# 工芸部門(漆芸)

## 総評—前田 國男(会員)

今回は応募者数8人であった。70回展も寂しい感があった。審査はまず入選作品を決定し、その後各賞を決めるが冲展賞は該当者なし。奨励賞は親泊英利さんの飾盆「ニライカナイへ(後編)」螺鈿で鳥模様が昨年に続きの受賞だ。浦添市長賞には大城清善さんの栓の木の拭漆の大盆、うるま市長賞には桃原教子さんの「皿」リュウグウノツカイに決まった。審査をして感じたのは木の榛地、乾漆、バガス、陶胎と多様、髹漆(きゅうしつ)、装飾の技法も木地呂色、黒呂色、変り塗、螺鈿、推錦と様々であったが伝統的な沈金や朱塗が見られなかったのは一抹の寂しさがあったし心動かす作品が無かったのは残念であった。それに対し、準会員の作品は見事なもので3人3点で2人が同時の準会員賞受賞となった。技術のレベルの高さは目を見張るものがあり、同時に作家意識の強さが感じられ審査員をうならせた。照喜名朝夫さん宇野里依子さん、ほんとうにおめでとう。照喜名さんは会員推挙となった。

漆は強い接着力と深みのある塗り肌の美しさ、柔らかな光沢を持っており、他の榛材には見られない質感が独特の魅力を生み出している。工芸は各々の地域で独特の発展をしてきた。気候、風土、歴史、文化が異なると自ずと培われたのも違う。古琉球時代から近世まで目まぐるしく変化する中でも脈々と受け継がれてきた。伝統の力はすごいものだ。ふり返って考えてみよう。漆を塗るという独特のプロセス、時間、一つ一つ丁寧に忍耐強く、他工芸で見られない大きな魅力なのだから。

### 会員作品

無題I—————糸 数 政 次

無題II—————糸 数 政 次

七宝繫海松貝螺鈿

平研出蒔絵盆—————大見謝 恒 雄

沈金飛魚二段重箱台付—金 城 唯 喜

朱漆三段喰籠

堆錦玉紋唐草—————後 間 義 雄

乾漆八角盛器—————前 田 國 男

螺鈿盛器—————前 田 孝 允

天宮の春—————前 田 貴 子

東道盆螺鈿蒔絵(楽園)—松 田 勲

### 準会員賞

佇む—————宇 野 里 依 子

螺鈿蒔絵「早春」————照喜名 朝 夫

### 準会員作品

鑿打刀痕彫り

ミジン貝根平塗り鉢——前 田 栄

### 奨励賞

螺鈿模様飾り盆

「ニライカナイへ(後編)」—親 泊 英 利

### 浦添市長賞

栓拭漆丸盆—————大 城 清 善

### うるま市長賞

リュウグウノツカイ——桃 原 教 子

### 一般入選作品

三線 MR 漆木地

溜め塗り呂色仕上げ——運 天 伊 作

乾漆黒漆螺鈿つぼ——津 波 静 子

陶胎漆器水指し————津 波 敏 雄

時の流れ—————與 那 嶺 勝 正

水玉 中・小—————仲 村 直 美



七宝繫海松貝螺鈿平研出蒔絵盆 (H4×W30.3×D30.3)  
大見謝 恒雄 (会員)



東道盆螺鈿蒔絵 (楽園) (H22×W26×D26)  
松田 勲 (会員)



沈金飛魚二段重箱台付 (H24×W31.5×D30)  
金城 唯喜 (会員)



朱漆三段喰籠堆錦玉紋唐草 (H30×W27×D27)  
後間 義雄 (会員)

## 準会員賞

佇む (H20×W20×D20) 宇野 里依子 (準会員)



第70回の記念すべき展示会に準会員賞、おめでとうございます。この作品のタイトルは「佇む」で、おもな材質、素材は、漆、キャノンボール、紙、板、貝で縦横ともに20cmの、まんまるのボールである。しかし、下に小さな箱があり、それはまさに「宝箱」である。さあ、その中に何を入れるのか、指輪か、いや、へその緒かも知れない。そのように使用を想像させる作品は、あまり見たことがなかった。きれいなまんまるにしているのは、八重山に自生する、キャノンボールという果実の名前であるということ、それを原形に漆と紙で造っている。文様は貝で巴紋を、リズムカルに美しく表現している。まんまるにした技術は長い時間をかけて製作したであろうと想像される。そのように時間をかけるのは「心」を強く持つ必要がある。この作品は一点の造形につながるものが、造形家には必要であることを強く「心」にしないと出来ません。それが商品との違いである。

評—前田 孝允 (会員)



準会員賞

螺鈿蒔絵「早春」(H5.6×W8.5×D8.5) 照喜名 朝夫 (準会員)



第70回展、準会員出品作3点のうち2作品が準会員賞となりました。

茶道茶の湯では、平棗は茶席にて薄茶点茶用抹茶入れ容器として使用される道具の一つであります。出品の平棗は、蓋甲身廻りに、赤乾漆粉を蒔き、石目研出仕上になっており、蓋甲に夜光線切貝で早春の空を螺鈿技法で表現、芽吹く梅の花を蓋身廻りに鶉卵殻金箔で、枝を漆絵書きで、光琳風蒔絵仕上で表現されてます。蓋、身内側は、パラジウム丸粉蒔詰め研出で光沢のある溜仕上になっています。石川県輪島で蒔絵修業研鑽した技法及び螺鈿技法工表現の良好な作品だと思います。

次回展より会員となります。ますます良い作品を期待しております。準会員賞おめでとうございます。

評—大見謝 恒雄 (会員)



## 奨励賞

螺鈿模様飾り盆  
「ニライカナイへ（後編）」（H2×W49×D49）  
親泊 英利

前は「ニライカナイから」、今回は「ニライカナイへ（後編）」、連続奨励賞、誠におめでとうございます。今年は猛鳥が天高く上に向かい、羽撃く躍動感があり、意欲的なデザインとして、良い評価になりました。技法は夜光貝を使用した呂色研出しになっています。研出しとは、貝をデザイン模様に取り付け後に、数回塗り重ね、貝を研出し磨き上げ仕上げた技法です。水平線に桜の模様がありますが、花びらを赤色の貝を使用したり、貝の色を工夫研究してほしかった。次回、上位の賞に向かい意欲的な秀作を期待しています。

評一松田 勲（会員）

## 浦添市長賞

栓拭漆丸盆（H5×W49×D49）  
大城 清善

浦添市長賞、受賞おめでとうございます。

拭漆は、木地に生漆を薄く塗り重ね、木肌や杢理（もくり）の美しさを引き立たせる技法。木地に生漆を塗布し、直後に綿や紙でムラなく均一に拭き取り硬化させる。塗布、拭き取りを何度も繰り返すことにより、素地面に非常に薄い漆の塗膜が形成され、杢理を生かした光沢のある仕上がりになる。

作品は、拭漆で仕上げると表情がケヤキと酷似していてよい素材である栓の挽物木地に拭漆を施し、表は拭き量（ばか）し、裏は生漆にカーボンブラックの顔料を混ぜた黒漆を塗布し、より一層、杢理の美しさを引き出し、さらに胴摺り、艶上げを行っていることで、完成度の高い作品となっている。

拭漆は卓越した技術を持っているので今後は、県産材を活用し、自身でデザインを吟味された木地を発注し、琉球独特の加飾技法を一部分施すことで、上の賞を受賞できるよう頑張りたいと思っています。

評一糸数 政次（会員）



うるま市長賞

リュウグウノツカイ (H1.5×W25.5×D25.5)  
桃原 教子



初出品ながら、うるま市長賞受賞となった今回の作品は、地を黒呂色磨き、加飾を沖縄独特の技法、堆錦と螺鈿で仕上げた楽しい作品となっています。

微塵貝と堆錦を組み合わせたリュウグウノツカイがユーモラスで、それを囲む貝たちもそれに負けじと踊っているようです。表現したいことがたくさんあるのが伝わってきます。貝の配置や大きさをもう少し工夫すると更によくなると思います。

技術的には黒呂色磨き、堆錦の着色など、まだまだ未熟な点がありますが、表現や創造面で意欲が感じられ、これからの作品に期待が持てました。

技術を勉強しながらも感性を大事に、これからも創作を続けてほしいと思います。

次回の作品も楽しみにしています。

評—前田 貴子（会員）



# 工芸部門(染色)

## 総評—外間 裕子(会員)

工芸(染色)部門は、節目の第70回記念展であったせいか例年に比べて出品数が約2倍になりました。近年、県内の工芸関係の公募展への出品が減っている傾向の中で今回の出品点数の増加は喜ばしいことです。

出品数が6点だった着物は、全てが入選してその中から3点が入賞しています。帯の出品は11点中9点が入選、2点が入賞しました。

壁面や生活空間で使用するタペストリー等の作品は5点、その中から3点が入選、1点が入賞しています。各受賞作品は会員が細かく評を担当するので、ここでは出品に当たって注意する点や気を付けて取り組む点を挙げてみます。染色はまず色のムラや色ハゲを注意して下さい。型紙を使用する場合は、つなぎ目も分らないように工夫して下さい。

紅型の配色はハッキリとした極彩色を使用して、隈取りについても模様全てに取るのではなくて、主になるポイントに入れて下さい。

そして出品前に必ず募集要項に目を通して下さい。工房名や落款は作品には入れないことやサイズ等の細かい決定事項があり、その為に落選や選外になる場合があります。

各賞に選出された作品はこのような点が優れていました。

最後に前回に続き2回目の準会員賞を受賞した迎里勝さんの紅型着物「継」は、安定した技術の作品でした。次回の沖展からは会員として、運営や後進の指導と一緒に取り組んでいきましょう。

### 会員作品

琉球紅入藍型帯「揺り上げ浜」— 城 間 栄 市  
紅型着物「貝尽くし紋様」— 城 間 栄 順  
紅型着物「山原路」—— 仲 松 格  
紅型帯「薔薇と野葡萄」— 外 間 修  
紅型帯「すみれとたんぽぽ」— 外 間 裕 子  
龍紅型着物  
「めざめの香路」—— 宮 城 守 男

### 準会員賞

紅型着物「継」—— 迎 里 勝

### 奨励賞

紅型帯「やちむん」—— 大 城 はるか  
紅型着物「ほうせん花 月桃  
アセロラの実と花の共演」— 瑞 慶 山 和 子  
紅型着物「アミフィバナ」— 知 念 冬 馬

### 浦添市長賞

紅型着物  
「イノー =さんご畑=」— 宮 城 友 紀

### うるま市長賞

紅型帯「ミンナの輪  
〜ルリハコベと草花〜」— 深 沢 さやか

### e-no株式会社賞

タペストリー「海の楽園」— 赤 嶺 耕 平

### 一般入選作品

紅型着物「野牡丹」—— 新 川 雅 俊  
紅型帯「芥子唐草模様」— 石 川 秀 子  
紅型着物「万華の夜」—— 神 村 真由美  
紅型帯「晩秋の里山」—— 小 坪 義 平  
紅型帯「あじさいの花  
(紫陽花文様裂)」—— 近 藤 裕 子  
紅型帯「蒼天福々」—— 島 尻 稚 菜  
紅型帯「森のいぶき」—— 染 谷 唯  
タペストリー「蝶舞う空間」— 當 山 雄 二  
紅型帯「爽 -向日葵-」— 渡 名 喜 裕 生  
紅型帯「帯地」—— 眞 榮 城 之 枝  
タペストリー「花穂咲く南風の邦  
(伸びろよ伸びろ)」—— 眞 境 名 照 子  
紅型振袖「慶びのうた」— 松 本 純 子



紅型着物「貝尽くし紋様」(178×138)  
城間 栄順 (会員)



紅型帯「薔薇と野葡萄」(503×35.5)  
外間 修 (会員)



琉球紅入藍型帯「揺り上げ浜」(600×36)  
城間 栄市 (会員)



朧紅型着物「めざめの香路」(175×140)  
宮城 守男(会員)



紅型帯「すみれとたんぽぽ」(550×34.5)  
外間 裕子(会員)



準会員賞

紅型着物「継」(175×139) 迎里 勝 (準会員)



水色の地色が印象的な作品で、作者の一貫して表現してきた海の中のイメージでまとめられた着物となっています。この様な創作の表現で工芸作品と考えると、着物や帯といった染織は身にまとった際、どのような感じで着る人を装うのか、又どういった場で着てもらえるかまでを考慮して取り組む必要があると思います。

今回の受賞作「継」は、一見すると地色が真夏の海で水中に潜った時の気持ち良さが表面に現れている様で、サンゴや海草、クラゲや魚のシルエット等が白地型で染められ、加えて斜めに入った波のデザインが流れを生んでいます。「継」というタイトルも、気泡にも受け取められる丸いモノが恐らくサンゴの卵でしょう。海の生命の営みを着物という制限された工芸品の中に表現した爽(さわ)やかな作品となりました。

二年連続の受賞おめでとうございます。これからも素晴らしい作品を期待します。

評—外間 修(会員)





## 奨励賞

紅型着物「アミフィバナ」(180×140)  
知念 冬馬

奨励賞おめでとうございます。とてもインパクトのある作品で、ひととき目を引きました。「アミフィバナ」ということで、爽（さわ）やかな天気雨を見ているような気になりました。全体的に仕事も丁寧で、ティチキビンによる色分けが作品に面白いリズムをつけています。

評—城間 栄市（会員）

## 奨励賞

紅型帯「やちむん」(540×38) 大城 はるか

初出品での奨励賞受賞、おめでとうございます。やちむんの里が思い浮かぶような、沖縄を意識している事がうかがえる作品で、また配色もバランスが良く大変好感が持てます。ただ大きな模様の部分に染めムラがあるので、筆の使い方を考えてもう少し丁寧に塗って下さい。次回作も楽しみにしています。

評—仲松 格（会員）





## 奨励賞

紅型着物

「ほうせん花 月桃 アセロラの実と花の共演」(170×135)

瑞慶山 和子

奨励賞おめでとうございます。

第66回うま市長賞、67回浦添市長賞に続いて、着物での受賞ですが、今回も作者の創作に対する意欲が伝わってくる作品でした。

月桃の葉が躍動感を生みだし、沖縄なじみの植物が楽しげに舞っています。濃いあとざしで全体を埋めてしまうと重くなりがちですが、所々、生地色（白）を染め残すことにより一定のリズムが生じ、重さを軽減しています。

ただ、全体的にあとざしの色ムラとにじみが気になりました。今回のような場合は、糊ぶせをすることも一つの改善策であり、作品の完成度もさらに上がると思います。

次回は、柄合わせにもチャレンジしてみてください。楽しみにしています。

評—宮城 守男（会員）

## 浦添市長賞

紅型着物「イノー =さんご畑=」(160×130)

宮城 友紀

浦添市長賞おめでとうございます。海の中の生物が一面に染められて、とても楽しい作品です。白地花の抜き方がそれぞれに工夫されていて、見れば見るほど新しい発見があり、実際に生き物たちを見ているようにワクワクしてきます。糊伏せのユキカブリなど、紅型ならではの技法を表現として駆使しているところが評価された作品です。

評—城間 栄順（会員）







## うるま市長賞

紅型帯「ミンナの輪〜ルリハコベと草花〜」(520×35)  
深沢 さやか

うるま市長賞受賞、おめでとうございます。身近な草花をよく観察し、うまく図案化され、染め・型彫り・型置き等安定した技術がうかがえます。臍型（おぼろがた）の作品ですが、もう少し地色と生地を選び方を工夫する事で染地型の模様がはっきり出てきて、より良い作品になったと思います。次回作も楽しみにしております。

評－仲松 格（会員）

## e-no株式会社賞

タペストリー「海の楽園」(200×135) 赤嶺 耕平

初出品での受賞、おめでとうございます。染色部門では初の e-no 株式会社賞（旧沖縄教育出版賞）となりました。

紅型らしい華やかな配色を、藍の濃淡で引き締めた力強い作品で、丁寧な仕事に好感が持てます。

ただ全体的に紺地の印象が強く、少し重さを感じるので、紅型の特徴でもある白（生地色）の使い方も学び、さらに表現の幅を広げてください。

厳しく見ると未熟な点はあるものの、確かな技術をもつ方の指導がうかがえ、これからの成長に大変期待が持てました。

次回も学生らしい、フレッシュな作品を楽しみにしています。

評－宮城 守男（会員）



# 工芸部門（織物）

## 総評一条数 江美子（会員）

今年の織物部門では、一般応募23点、昨年より3点増、準会員4点、昨年より2点増、学生の応募はなく厳選な審査の結果、奨励賞3点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点が選出され沖展賞・準会員賞は該当なしとなった。

初出品7点が初入選となり、その内1点、八重山上布「はなづな」は白地に細かい経・緯糸・地括りのくつきりとした藍染緋で創作への情熱、創意工夫が視られ初奨励賞となった。初応募者の今後の成長が楽しみとなりこれからの活躍を期待したい。

準会員8名中4名の出品、昨年より2名増となったが、準会員賞該当なしは寂しい。次世代の織物界を担う者としてもっと頑張って力作を出品してほしい。

3点の作品が選外となり、柄の配置や、工芸作品展としての素材を考慮し、製作意欲を持ってもらいたい。

デザインは創意工夫されているが、経糸の張力のバランスがとれていない作品があり、基本の一つである織りの技術向上に努め、さらなる研鑽が望まれる。

沖縄各地の多種素材、技法の併用が多くみられる中、個性の輝く作品が少なく全体的に低調で残念に思う。

昨年に続き奨励賞受賞の桃原積子さんの「久米島紬」は、手紬の糸に創作への情熱・製作意欲を持ち続け好感の持てる作品となっている。準会員推荐おめでとう。

入選者、入賞者の皆様おめでとう。沖展を自己研鑽の場、発表の場としてより多くの作品が出てくることを期待する。

## 会員作品

上布花織着尺「雨あがり」——新垣幸子  
八重山上布「若夏の風」——糸数江美子  
琉球緋「五ツ四ツブサー」——大城一夫  
礁～首里花織～——祝嶺恭子  
芭蕉布 藍コーザー  
アキファテ柄——平良敏子  
花倉織帯地——多和田淑子  
ふたいる立涌——仲宗根みちこ  
緋に花織——長嶺亨子  
織着尺「春陽」——真栄城興茂  
首里花織タベストリー  
「花織モザイク」——ルバース・ミヤヒコ  
藍地ヤシラミ格子緯緋着物——和宇慶むつみ

## 準会員作品

首里花倉織帯地——伊藤峯子  
鉄色やしらみ花織——島袋領子  
さざ波——新垣隆  
芭蕉布九寸帯地「手水」——鈴木隆太

## 奨励賞

夜雨（ユアミ）——崎原克友  
八重山上布 着尺 はなづな——次呂久幸子  
久米島紬 井緋十字1玉——桃原積子

## 浦添市長賞

花束——天久奈津美

## うるま市長賞

シトシト、キラキラ。——金良美香

## 一般入選作品

浅地両面浮花織  
片身替り着物——安座間美佐子  
知花花織 帯地——池間加代子  
暁闇の花火  
（ぎょうあんののはなび）——今井みゆき  
小禄クンジー布「流星」——上原八重子  
十三祝い——運天裕子  
久米島紬 二重井緋5玉——高坂エミ子  
経浮緋花織——澤村佳世  
手花花織——玉城恵  
茜空 首里花織紹入り——仲宗根綾  
久米島紬 十字緋4玉——仲地洋子  
花倉織帯地  
- 琉球マジックアワー -——中野夢  
八重山上布——中村澄子  
南風原花織  
（孫の成人を祝して）——中村トミ子  
紬着物「フシグワに格子」——能勢玲子  
久米島紬  
ヒチサギー 十字緋4玉——宮平トシ子



芭蕉布 藍コーザー アキファテ柄 (1270×37)  
平良 敏子 (会員)



ふたいろ立涌 (510×37)  
仲宗根 みちこ (会員)



琉球紵「五ツ四ツブサー」(185×170) 大城 一夫 (会員)

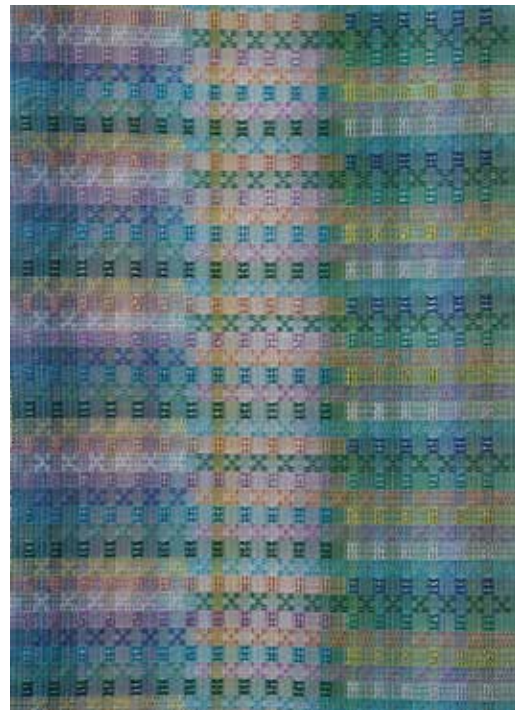




藍地ヤシラミ格子緯絣着物 (175×150) 和宇慶 むつみ (会員)



首里花織タペストリー「花織モザイク」(176×67.5)  
ルバース・ミヤヒラ吟子 (会員)



礁 ～首里花織～(部分) (180×165)  
祝嶺 恭子 (会員)



芭蕉布九寸帯地「手水」(500×35)  
鈴木 隆太(準会員)



さざ波 (1280×37.5)  
新垣 隆(準会員)



鉄色やしらみ花織 (1300×39)  
島袋 領子(準会員)



首里花倉織帯地 (500×34)  
伊藤 峯子(準会員)





## 奨励賞

夜雨（ユアミ）（530×36）

崎原 克友

「夜雨」土砂降り？それとも霧雨でしょうか。濃紺をベースに茶、黄と手括りによって染め分けられた陰翳（いんえい）のある経ずらし絣は、織物の妙趣を醸しだし、心地よいリズムをうみだしている。

昨年に続く奨励賞受賞。伝統技法を駆使しながらも、抽象的な絣表現へと独創性を希求する意欲が伝わる。

深い藍絣は力強く、魅力ある沖縄の色であることを再確認させてくれる作品である。

評—新里 玲子（会員）

## 奨励賞

八重山上布 着尺 はなづな（1280×38.5）

次呂久 幸子

ふっくらとした布目に、白地と紺絣のコントラストが美しい今回の受賞作「はなづな」。ボリュームのある経・緯絣は八重山藍で丁寧に染められ、手間のかかる地括りは色うつりもなく作者の高い技量を思わせる。

これだけの分量の絣を括り・染め・織り上げるのはさぞ根気のいる作業だろう。作者の内に秘めた粘り強さと織に対する強い意気込みが感じられ、改めて作品に目を向けると繊細さと力強さの相俟った作品に仕上がっている。

作者は自身で苧麻と藍を栽培し、糸績みと染色を行っている。一反分の糸を績むのは至難の業であるが、「それもまた、楽しい」と言う。キャリアを積み重ねた作者の人柄を感じさせる。

今回の作品を期待したい。

評—仲宗根 みちこ（会員）







## 奨励賞

久米島紬 井絣十字1玉 (172×136)

桃原 稔子

ゆうなの炭で染められた透明感のある淡いグレー地に植物染料のテカチ、クルボー、モモ皮で染められた三色の絣が、地と馴染んで競い合うことなく調和している、さわやかな印象の絣着物である。

絣の配置は伝統に則り、一玉の絣が反転して絣が左右に振られており、こげ茶色の井げた絣が全体を引き締めるとともに、十字絣と相まってリズムを生じさせ、また空間のとり方、絣の大きさなど絣構成も良い。手間のかかる地括りの絣は滲んで地を汚すことなく、正確な絣技術の巧みさと織りの丁寧さが際立つ絣織物である。

細かく均一に手紡ぎされた素材の良さが一段と作品を魅力的なものにしている。

久米島紬をリードするベテランの力量が十分に発揮されている。

これからの活躍を期待する。

評—多和田 淑子（会員）

## 浦添市長賞

花束 (526×35.5) 天久 奈津美

紋綜統（もんそうこう）を用いる両面浮花織の一種で、ヤシラミ花織の手法を用いた帯地である。本来のヤシラミ花織は、紺と白等のコントラストのある色系にあぜの組み換えをした細かな市松格子に、幾何学文様の花織を織り込んだものである。

本作品は、多色のパステルカラーの経糸と緯糸を組み合わせた格子の構成に工夫が見られ、多数枚の花綜統を用いて花柄の文様を織り出した新しい傾向の作品である。刺繍のステッチを思わせるような繊細な表現で、春めいた華やかな雰囲気で見目を引く秀作である。

ただ、多綜統花織は、具象的なモチーフの表現を追求する過程で、花綜統の数を増やしすぎると機械織製品に近づきかねず、悩ましいところである。手織りの持ち味と魅力をより生かし、意識した個性的な創作展開を期待したい。

評—ルバース ミヤヒラ吟子（会員）





## うるま市長賞

シトシト、キラキラ。(1300×39)

金良 美香

優しい色使いにずっと引き込まれていく魅力的な作品です。少し距離を置いてじーっと見入っていると不規則に配置された経縞（たてじま）と経紵（たてかすり）は、雨が静かに降る様がイメージできます。

経浮花織も色相・強弱の変化があり構成も良いです。「シトシト、キラキラ。」はピッタリのタイトルだと思います。

評一和宇慶 むつみ（会員）

# 工芸部門(ガラス)

## 総評一稲嶺 盛一郎(会員)

今回ガラス部門は応募者26人が31点を出し、前年度に比べ増えたことが一番のうれしさである。審査会場には表現や素材も様々で、個性溢れる作品が並んでいた。

沖展は1949年から始まり、ガラス部門では宙吹法(吹いて形をととのえる)技法がほとんどだったが、年々色々な技法を取り入れた作品が増えてきた。

今回森上真さんの作品(submariner)もその1つで、ガラスに空気を吹き込まず、マッコウクジラの形を少しずつ仕上げていく根気のいる作業だ。ガラスが冷めたら暖めるその作業を何度も繰り返しクジラの形を仕上げていく、1つのミスですぐに形が崩れたり、ガラスの薄い部分から割れてしまう。その難しさから技術の高さを評価され、今回の沖展賞受賞に繋がった。

同技法で奨励賞を受賞した村石信茂さんの作品(夏の夜、波の音)も同じく技術の高さと、丁寧さが決め手になった。同じく奨励賞を受賞した東恩納司さんの作品ワオンサラセットは、皿の外側に薬品を馴染ませることで冷たいイメージのガラスを温もりのある器に変身させた。又器の中心から見えるデザインは、食事を終えたあとでも器で楽しむことができる作品に仕上がっている。

同じく奨励賞を受賞した兼次直樹さんの作品 circle は透明をベースに青と乳白色の輪をガラス全体にデザインすることで作品に動きが生まれ、見方によってはガラスの中に飲み物が入っている様にも思える。デザイン性がとても評価された。そして浦添市長賞の我謝良秀さん、うるま市長賞の上地律子さんの作品も全体のバランスが良く作品に対する思いを感じた。

今回審査を終えて感じたことは、年々一人一人のレベルアップを感じる。審査を悩ます作品は、我々のレベルアップに繋がり、いい刺激になる。琉球ガラスの原点、宙吹法を軸に様々な技法、個性溢れる作品を期待しています。

### 会員作品

|           |     |     |
|-----------|-----|-----|
| ランプ       | 池宮城 | 善郎  |
| 茶泡花器      | 稲嶺  | 盛一郎 |
| 紅珊瑚花器     | 稲嶺  | 盛吉  |
| 泡彩流つぼ     | 稲嶺  | 盛吉  |
| ワイングラス 春風 | 大城  | 尚也  |

### 準会員作品

|           |    |    |
|-----------|----|----|
| ぴとんとぼたん   | 比嘉 | 裕一 |
| 青金花水差しセット | 松田 | 豊彦 |
| くさり模様壺    | 松田 | 豊彦 |

### 沖展賞

|                     |    |   |
|---------------------|----|---|
| submariner - 青の中へ - | 森上 | 真 |
|---------------------|----|---|

### 奨励賞

|                |     |    |
|----------------|-----|----|
| circle         | 兼次  | 直樹 |
| ワオンサラセット       |     |    |
| (センターピースとハシオキ) | 東恩納 | 司  |
| 夏の夜、波の音        | 村石  | 信茂 |

### 浦添市長賞

|    |    |    |
|----|----|----|
| 龍王 | 我謝 | 良秀 |
|----|----|----|

### うるま市長賞

|           |    |    |
|-----------|----|----|
| ENCLOSURE | 上地 | 律子 |
|-----------|----|----|

### 一般入選作品

|                  |     |     |
|------------------|-----|-----|
| 三角小鉢セット          | 池宮城 | 諄   |
| ヒトデ型さしみ皿セット      | 池宮城 | 翔   |
| 水挿し四角グラスセット      | 池宮城 | 翔   |
| 太陽の雫             | 加藤  | 周作  |
| 蜘蛛の意図            | 菊地  | 善仁  |
| 紺碧渦紋皿セット         | 佐久川 | 亮   |
| 三角ボウルセット         | 柴田  | 尚実  |
| マリンブルースパイラル      |     |     |
| (水差しセット)         | 島津  | 幸子  |
| 満月に舞うハーベルー(神の化身) | 島田  | 春奈  |
| 理不尽              | 砂川  | 泰典  |
| 日暈               | 竹内  | 祐貴  |
| 天の川              | 竹内  | 祐貴  |
| 風車セット            | 玉城  | 晃信  |
| 「暑っ」             | 知花  |     |
| 祝いの宴             | 當山  | みどり |
| leaf(紫御殿)        | 友利  | 龍   |
| 美ら海(水差しセット)      | 中野  | 幸治  |
| 水差しセット           | 野原  | 智   |
| 花器               | 野原  | 智   |
| ヘオンサラセット         |     |     |
| (センターピースとハシオキ)   | 東恩納 | 司   |
| 南風- ばいかじ -       | 藤木  | 伸也  |
| 団欒               | 藤木  | 伸也  |
| 散りゆく花            | 外間  | 健太  |
| 渦彩色花器            | 松田  | 英吉  |
| 雨雫               | 与那嶺 | 利恵子 |





ワイングラス 春風 (H25×W10×D10)  
大城 尚也 (会員)



泡彩流つぼ (H29×W23×D23)  
稲嶺 盛吉 (会員)



茶泡花器 (H30×W23×D23)  
稲嶺 盛一郎 (会員)



ランプ (H50×W25×D25)  
池宮城 善郎 (会員)



くさり模様壺 (H26×W20×D20)  
松田 豊彦 (準会員)



ぴとんとぼたん 右(H34×W25×D25) 左(H30×W28×D28)  
比嘉 裕一 (準会員)

沖展賞

submariner - 青の中へ - (H40×W95×D45)

森上 真



前回の奨励賞に続く沖展賞受賞、おめでとうございます。

森上君の今回「submariner」は、作品として前回同様に、躍動感にあふれダイナミックに泳ぐ鯨をモチーフに造成され、さらにマッコウ鯨の中に、沖縄の青い海と光の屈折がうまく生かされています。製作にいたっても、繊細な細工がほどこしており前回同様に、完成度が高く、森上君の努力と技術の高さがうかがえる作品となり、今後の創作活動に、大いに期待しております。

評—大城 尚也（会員）



## 奨励賞

ワオンサラセット（センターピースとハシオキ） 大皿(H3×W35×D35)  
東恩納 司 小皿(H3×W16×D16) 他



奨励賞おめでとう。

今回の受賞作ワオンサラセットは色彩、形状ともに、使い勝手のよい作風に仕上げている。小皿と大皿とのバランスはうまく調和がとれているが、センターピースの配色と形状に、もう一工夫すればセット物としての完成度は高くなると思う。技術的なセンスはいい物をもっており、今後の創作活動に期待したい。

評—池宮城 善郎（会員）

## 奨励賞

夏の夜、波の音 (H17×W80×D40)  
村石 信茂

受賞作「夏の夜、波の音」は、ガラスプレート80cm×40cmの上に、大・小10個の球体を載せて表現された作品です。プレートを見てみると、20cm角気泡入りを8枚並べて電気炉で溶着されていて、それぞれに黒・泡・水色の配色も絶妙で、天の川を表現されています。

プレートだけでも入賞の対象になれる仕上がりです。欲を言えば表面のくもりが取れていないのが残念ですが。又、球体もクリアの表地に黒と水色の配色で気泡を作り、ざざ波の音が聴こえてきそうです。これだけの表現力と気配りですので、見る人を魅了し、いやしてくれる作品です。今後の作品創りにも大いに期待します。

評—末吉 清一（会員）



奨励賞

circle 徳利(H21×W11×D11)  
ぐい呑み(H7×W6×D6)  
兼次 直樹



今回三度目の受賞おめでとうございます。兼次直樹さんの作品 circle は透をベースに青とギョクの輪のカレットをガラス全体に溶け込ませる。単純ではあるが、難しいデザインです。馴染ませ過ぎると輪が崩れてしまい、焼き加減の調整が大事な技法の1つですが、職歴30年余りの技術の高さが感じられる作品です。

10年ぶりの受賞を踏まえ兼次直樹さんの作風を大切に、又新しい技法を楽しみにしています。「継続は力なり」ですね。

評—稲嶺 盛一郎（会員）

浦添市長賞

龍王 (H46×W32×D32)  
我謝 良秀

今回の浦添市長賞作品「龍王」は、濃い緑の下地に、二色・黒と白砥のカレットをまぶした後、金箔を用いて製作された作品です。

花瓶本体と同じように、緑に二色のカレットをまぶし、三本のキジ（龍をイメージ）を巻き付けることで、力強さがより一層表現された逸品に仕上がっています。

2009年浦添市長賞、2015年沖展賞、今回の浦添市長賞と安定した表現力、技術力を発揮しています。来年以降の出品、作品にも期待します。

評—末吉 清一（会員）



うるま市長賞

ENCLOSURE (H4×W26×D15)  
上地 律子



作品の中に込められた世界は、大海がダイナミックに躍動する荒波であり、それが見事に表現されています。

作品の製作には、何回も工程と時間を要したと思います。さらに、せん細で丁寧に作り上げており、技術面に関しては、作者上地さんならではの、海外での勉強と経験を生かし得た技術と聞いております。

今後も、沖展に新しい風を吹かせてくれるよう期待しています。

評—大城 尚也（会員）



# 工芸部門(木工芸)

## 総評一前田 孝允(会員)

第70回の木工芸の出品数は、去年の倍近い20点であった。準会員も1人多く3点である。このように、多くなったのは、4点の落選もあったが実に喜ばしいことである。審査員の目も光っていた。

特に注目したのは、沖展賞の「OTOKAGU」である。側面の前方の左側にスマホが入るようになり、右のスピーカーから音が聞こえるようになっていて、今風の人でないと思いつかない作品である。解説の日には、ぜひ聞きたいと思っている。

奨励賞の勝連氏は、センダン、琉球松、クスノキと県産材を使用している。このような作品は他にも多く、県産材を使用していた。喜ばしいことである。特に琉球松の使用が多かった。他に黒タン、クスノキ、アカギ、チャーギ(イヌマキ)、センダン、リュウキュウウラジロガシ。奨励賞の瓜田氏の塗りは天然油脂である。自然環境にやさしい塗料として、多く使われるようになっている。

同じく奨励賞の野田氏は今まで誰も思いつかないワインを置くことに合わせて、軽食がおかれるように一本の琉球松をくりぬいて制作されている。題して「愉快皿」でウレタン塗りで仕上げてあるが、今回の展示会では注目すべき作品である。他には準会員の與那嶺氏は、モモタマナ、竹(クワディサー)を使用している。この様にさまざまな、県産材が使われているのが、今回の特徴であり、収穫であった。

### 会員作品

(無題)————— 戸 眞 伊 擴

### 準会員賞

組子衝立————— 奥 間 政 仁

木地呂漆 ケヤキ文机 整理箱 アクセサリー木箱  
3点セット————— 津 波 敏 雄

### 準会員作品

生命————— 與 那 嶺 勝 正

### 沖展賞

OTOKAGU————— 波 平 敏 弥

### 奨励賞

くじら夢みる猫の椅子— 瓜 田 一

摺漆キャビネット———— 勝 連 邦 彦

愉快皿————— 野 田 洋

### 浦添市長賞

Hasu ～御香台～———— 比 嘉 亮 太

### うるま市長賞

変わり塗り食器五組—— 田 里 友一郎

### e-no株式会社賞

Yorisou Chair————— 浦 崎 翔 太

### 一般入選作品

木のアクセサリケース— 兼 島 暁 子

戦世渡りてい ある桜木ぬい 佐久川 正 次

船頭三線

私の名は海あっちゃー—— 佐久川 正 次

小物入れ————— 潮 平 浩

御所車(花器)————— 玉 城 正 昌

コラボの光色————— 眞 喜 志 英 夫

がじゅまるの光————— 眞 喜 志 英 夫

yururi————— 水 野 華 子

タコ取り————— 屋 部 忠



(無題) (H90×W60×D38)  
戸眞伊 擴 (会員)



生命 (18×55×30) 與那嶺 勝正 (準会員)

準会員賞

木地呂漆 ケヤキ文机 (H33.5×W92×D41)  
整理箱 (H37×W37×D28)  
アクセサリー木箱 (H20×W38×D27.5) 3点セット  
津波 敏雄 (準会員)



第70回の記念展で準会員賞、おめでとう。今回の作品は文机、整理箱、アクセサリー木箱の3点セットである。ケヤキ、桐材、布、漆を使っている。

文机が高さ33.5cm、横幅92cm、奥行41cm、整理箱37cm×37cm×28cm、アクセサリー箱20cm×38cm×27.5cmで機能性あふれる作品である。塗りも完璧である。実は津波氏は以前沖展の会員であったが、一度退会し、復帰して最初に沖展賞をもらった2014年以来、毎年出品するようになった。彼は漆からにげることが出来ないでいる。沖縄に戻って漆が出来ることの喜びが身体中に表現されていることが深くよみとれた。

今沖縄では、漆を塗れる人が少なく、また技術もよくない。この現状を1人でも多くするという使命を願ってやまない。今彼も多くの作品を完璧につくり、多くの人に見せて下さることを期待している。私の目には、はっきりと、みてとれた。戻って最初の日、アトリエに顔を出した時に感じたことである。

評—前田 孝允 (会員)



## 準会員賞

組子衝立 (H145×W146×D2.5)

奥間 政仁 (準会員)



氏の沖展木工芸部門の受賞歴は63回展の奨励賞を皮切りに64回展浦添市長賞、66回展奨励賞、67回展のうるま市長賞、68回展奨励賞で準会員に推挙され、69、70回と、2年連続の準会員賞で会員への足場を築いた。なお一層の今後の活躍に期待しています。

今回の「組子衝立」は、これまで取り組んできた作品と同じ傾向の4枚開きの構造になっている。この作品では白色の米ヒバが大半を占め、少量のカラントスの赤茶色がアクセントとなって作品全体を締めている。黄色味があったヒバの白色は清涼感があり、作品全体に上品さを感じさせる配色となっている。

今回の作品では嵌め込み作業が約5千個もあったことを聞かされ、物造りの労働が大変な作業であることを知らされた。木材の特徴を熟慮している木工家は自信がある。物づくりの手順を身に着けた作家は言葉に自信と重みを感じさせる。

仕上りの塗装は一貫してウレタンを使用し、線彫り、浮彫り、透かし彫りの木工技術で完成を導く。この技術と体験を今後の沖展やその他の木工芸に寄与し今後の活躍に期待します。

評—富元 明雄 (会員)

沖展賞

OTOKAGU (H40×W36×D36) 波平 敏弥



沖展賞おめでとう。初出品で沖展賞に輝いたのは、波平敏弥さんの OTOKAGU という作品で、クスノキ、アカギ平板を上中下3枚組合せ、板の厚みにも変化をもたせています。中央部分にスマートフォンを差し込んで下の板を薄めにして少々隙間を作り、電源も使わずに音を拡声するという発想が大変素晴らしいですね。それに作品の仕上げもていねいに細かく、随所に色々と気を使ってこまめに仕上げられている所も申し分なく、沖展賞につながっているゆえんであると思います。

初出品の上、応募者が増える中で沖展賞に輝いたのは発想力、アイデアの良さ、そして製品の仕上げまとうりの良さが評価されたもので、今後ますますの活躍を期待している作家です。

評—戸眞伊 擴（会員）

## 奨励賞

愉快皿 (H45×W31×D31)

野田 洋

一見、投げ輪の玩具かと連想するボトル入れの容器である。タイトル「愉快皿」としていることから、その発想は遊び心から生まれたように感じられる。

素材が琉球松でウレタン塗装であることから木目の美しさが効果的に活かされている。特にボトルを入れる輪が7個あり、ドーナツ状に連なって斜めに構成されている。木目が揃っていることから一木彫の感を受けるぐらい技術の高さがうかがえ、7個のドーナツ状のつなぎと間隔にはリズム感がある。ボトルを入れる底面には取り出しが出来る透し彫りの球体があり、その中に貝殻が3個入っている。さらに、ドーナツ状の取り外しが出来る円盤状の大きい器があり、酒のつまみを入れるように配慮されている。

アイディアと素材の扱い方に技巧を凝らした木工芸として質の高さがあり、今後に期待される作家である。

評—西村 貞雄（会員）



## 奨励賞

摺漆キャビネット (H49×W77×D29)

勝連 邦彦

今回奨励賞に選ばれたのは、勝連邦彦さんの「摺漆キャビネット」です。勝連さんは今回が初の木工芸への出品で入賞しました。作品は材料を上下の板に琉球松の平板で耳付きの板を使い、木の持つ独特な自然美が活かされている良い作品です。それに両サイドには引出しを作り、中央部分には開き戸で鏡板にはセンダンのバランスの良いすばらしい板目の板材をはめ込んだ所など色々と材料選びにもこだわりが見える作品で、作者の感性の高さがうかがえる作品です。一方で、天板の仕上げに一工夫がほしい所があり、その点を今後の作品作りに生かして参考にしてほしいと思います。これからもさらに精進して来年の沖展賞をめざして頑張ってほしい作者です。

評—戸眞伊 擴（会員）







## 奨励賞

くじら夢みる猫の椅子 (H86×W79×D58)

瓜田 一

作品全体から受ける印象は重量感と安定性を強く感じさせる椅子である。分厚いセンダン材を中心に桎、楠を加えて考案された手作り感のする作品になっている。特に椅子の背もたれにクジラの潮吹きを考えたデザインは特異で興味が注がれる。脚やひじ掛けにも同様にして曲線的な構成になっていて、デザイン全体がゆったりして安定感のある作品にまとめている。この椅子を優先的に占有して寝転んでいる飼い猫の状況が見えてくる温かみのある作品である。

作者は8年前に木工職人を志し、本格的に木工作家として技術の修練に取り組んでいる決意を聞く。次回作にも期待いたします。

評—富元 明雄（会員）

## 浦添市長賞

Hasu ～御香台～ (H19×W26×D26)

比嘉 亮太

今回の浦添市長賞は比嘉亮太さんの御香台です。この作品は黒檀材を使い、羽根を何枚も作り組合わせて一つの作品に仕上げられています。黒檀材はすごく硬い材なので工作するのに非常に難しい材ですが、この作品を見ると造形、また仕上げなど隅々までいいねいに仕上げられています。このような作品に御香を立てて見ても、嗅いでも気持ちがいやされるような作品だと思います。毎回出品作を製作するのは大変ですが、次回も頑張って良い作品を出品されるよう期待します。

評—戸眞伊 擴（会員）



## うるま市長賞

変わり塗り食器 五組 1(H5.5×W9×D9)  
 2(H5.5×W12×D12)  
 3(H5.5×W15×D15)  
 4(H5.5×W18×D18)  
 5(H5×W30×D30)

田里 友一郎

タブノキを素材にした5組が重なって納まる器である。美しく柔らかい感じを受けるのは円形の器にプレポリマー、カシュー塗装で縁を濃くし中心（底）を明るくグラディエーションをかけた効果が、その印象を与えていると思われる。

器の構成は、下から直径・高さ30×5、18×5.5、15×5.5、12×5.5、9×5.5cmで、無駄のない納まり方になっている。特に3個目（直径15cm）の器は高台が作られているのが重ねの中に安定感を与えて見える。

素材の彫り方の確かさ、デザインの素晴らしさ、機能的にも優れていて、今後に期待が持てる。

評—西村 貞雄（会員）



## e-no株式会社賞

Yorisou Chair (H37.5×W94×D94)  
 浦崎 翔太

花の形をした座いすである。円形の座面に6枚の背もたれから構成されていて、すべてが分解（取り外しが）出来るので、使用目的に応じて発展できる座いすである。

素材が楠であり、木の厚み、基盤（土台）になる仕組み、強度、座面、背もたれが用途に応じて利用できるように工夫されている。ウレタン塗装であるので木の質感も見えて、その堅牢さから遊具的なものへも発展できると思われる。

評—西村 貞雄（会員）



## 物故会員 略歴



くば とよ (1921~2017)  
久場 とよ (1921~2017)

1921年那覇市泊生まれ。県立第二高等女学校を経て、東京女子薬学専門学校卒。薬剤師として勤める傍ら少女や琉装の踊り手など女性を描き続けた。女性初の沖展会員。「郷土の女性作家による絵画展」開催を機に77年女流美術家協会をつくり96年まで会長。97年沖縄タイムス賞（文化賞）、2000年県功労、06年地域文化功労文部科学大臣表彰。

### (略歴)

1921年(大正10年) 那覇市生まれ  
1962年(昭和37年) 沖展運営委員  
1977年(昭和52年) 沖縄女流美術家協会を設立  
初代会長  
1997年(平成9年) 沖縄タイムス賞(文化賞) 受賞  
2000年(平成12年) 沖縄県功労賞(文化) 受賞  
2006年(平成18年) 地域文化功労文部科学大臣表彰  
2017年(平成29年) 2月26日没(享年95歳)



おおしろ きよひさ (1952~2018)  
大城 清久 (1952~2018)

1952年生まれ、'71年知念高校卒業後、'89年に愛地工業所を設立。2013～'15年に3年連続で奨励賞を受賞、'16年と'17年に準会員賞を受賞し、会員に推挙された。第69回沖展では、来場者による投票で「沖展みんなの1点賞」に選ばれた。

### (略歴)

1952年(昭和27年) 南城市生まれ  
1971年(昭和46年) 知念高等学校卒業  
1989年(平成元年) 愛地工業所設立  
2013年(平成25年) 沖展彫刻部門奨励賞受賞  
2014年(平成26年) 沖展彫刻部門奨励賞受賞  
2015年(平成27年) 沖展彫刻部門奨励賞受賞  
準会員推挙  
2016年(平成28年) 沖展彫刻部門準会員賞受賞  
2017年(平成29年) 沖展彫刻部門準会員賞受賞  
会員推挙  
2018年(平成30年) 1月25日没(享年65歳)





やまだ みのる  
**山田 實** (1918～2017)

1918年生まれ、明治大学専門部商科を卒業。戦中は満州で関東軍に召集され、終戦後はソ連軍の捕虜として2年間、シベリア抑留。沖縄に戻り、54年に写真機店を開業。復興する沖縄の姿を見つめ、庶民の暮らしや街並み、自然の変化などにこだわり撮影を続けた。沖縄ニッコールクラブ創設（59年）や、沖縄写真部の発展に尽力。78年に沖縄タイムス芸術選賞大賞、2003年に沖縄タイムス賞。13年度には県功労者表彰を受けた。

(略歴)

1918年(大正7年) 兵庫県生まれ  
1959年(昭和34年) 沖縄ニッコールクラブ創設  
1965年(昭和40年) 沖縄会員  
1978年(昭和53年) 沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞  
2003年(平成15年) 沖縄タイムス賞(文化賞) 受賞  
2013年(平成25年) 沖縄県功労者表彰  
2017年(平成29年) 5月27日没(享年98歳)



あらかき いさお  
**新垣 勲** (1944～2018)

1944年生まれ、高校生から作陶を始め、壺屋の伝統を踏まえながら独自の赤絵作品を制作。1977年に沖縄会員になり、91年に伝統工芸士、2006年に現代の名工に認定された。壺屋陶器事業協同組合の理事長、県無形文化財工芸技術保持団体協議会の会長を歴任し、沖縄の伝統工芸の発展に尽力。10年にタイムス芸術選賞大賞、11年に那覇市政功労表彰など多くの賞を受賞した。

(略歴)

1944年(昭和19年) 那覇市生まれ  
1977年(昭和52年) 沖縄会員推挙  
1991年(平成3年) 沖縄県伝統工芸士に認定  
2006年(平成18年) 現代の名工に認定  
2010年(平成22年) 沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞  
2011年(平成23年) 那覇市政功労表彰  
2018年(平成30年) 1月11日没(享年73歳)

# 沖 展 会 則

## 第一章 名 称

第1条 この会は「沖展」と称し、沖縄タイムス社がこれを主催する。

## 第二章 目的及び活動

第2条 この会は、「沖展」の展覧会活動を主軸として現代美術工芸の創造発展につとめる。この目的のために次のことを行なう。

- ①. 春季に公募「沖展」を開催する。
- ②. 優秀な新人の推奨につとめる。
- ③. この目的のために必要あるときは、他の団体、機関と協力する。

## 第三章 方 針

第3条 沖展は、その伝統と歴史的な歩みのうえに各自の作品傾向を尊重し、その進展を期して運営される。

## 第四章 構 成

第4条 沖展は、絵画・版画・彫刻・工芸（陶芸・漆芸・染色・織物・ガラス・木工芸）書芸・写真・グラフィックデザインの七部門で構成する。

第5条 会の運営を円滑にするため、「沖展運営委員会」とその中に「企画委員会」を設ける。

## 第五章 会員・準会員

第6条 会員・準会員を各部門におきその数については定めない。

第7条 会員は、準会員中より推挙することを原則とする。推挙は、沖展審査終了後会員の合議によって行われる。

第8条 準会員は一般出品者中より推挙される。推挙は、会員推挙と同時に会員の合議によって行なう。

第9条 会員・準会員は、準会員賞又は沖展賞を2回以上受賞した者を対象とし、その他の受賞及び特別の推挙も考慮することができる。

第10条 会員・準会員は未発表の主要作品を沖展に発表し、又この会の維持運営に協力する。

第11条 会員・準会員は、希望意見を企画委員会に具申することができる。

第12条 客員・会員死去のときは、沖展会場に主要遺作を陳列するのを原則とする。陳列の場合、展示法、点数はそのつど企画委員会が協議する。

第13条 沖展に連続2回に亘って不出品を続ける会員・準会員は、その理由を運営委員会に知らさなければならない。病気その他の理由による不出品以外は運営委員会で審議の結果、会員・準会員を失格することがある。

第14条 会員・準会員のうちに、会の名誉を損う不適当な行為のあったときは、運営委員会はこれを審議し、該当者に対し除名又は適宜の処置をとる。

## 第六章 沖展運営委員会

第15条 運営委員は沖展運営委員長が会員中から委嘱する。

第16条 沖展運営委員長は沖縄タイムス文化事業担務がこれにあたる。

第17条 沖展運営委員会は沖展の運営ならびに公募作品の審査にあたる。

第18条 運営委員はそれぞれの所属部門の運営にあたる。

第19条 沖展運営委員会は毎年沖展募集要項を審議決定する。

## 第七章 企画委員会

第20条 企画委員会は各部門の運営委員中より選出された委員によって組織され、沖展運営の企画とその推

進を担当し、又は各種の審議権を運営委員会から委託される。その決議事項は運営委員会の承認を得なければならない。

第21条 企画委員長は沖展運営委員長がこれを兼ね、必要に応じ企画委員会を招集する。

第22条 企画委員会は「沖展」を定例的に企画し、又はこの会の発展のための企画をたてる。その他「沖展」会期中に処理すべき事項にあたる。

第23条 企画委員会は、欠席の部門に関する事項の決議は行わない。又委員の出席数が委任状を含めて定数の過半数に至らないときは、協議の決定は行わない。

第24条 企画委員会は、会員・準会員の中から下の係りを若干名ずつ委嘱し、「沖展」運営の円滑をはかる。

- ① 搬入、搬出係（作品の保護管理の指導を担当する）
- ② 審査係（審査の進行、記録、入選通知、発表等を担当する）
- ③ プロ作成係（沖展プログラムの編集及びデザインを担当する）
- ④ 会場構成係（沖展会場内外及び周辺の構成を担当する）
- ⑤ 受賞係（賞状、賞品等の準備、作成を担当する）
- ⑥ 懇親会係（贈呈式、懇親会の運営を担当する）
- ⑦ 推挙事務係（被推挙者の資料作成を担当する）
- ⑧ P R 係（報道対策、沖展盛り上げ企画等を担当する）

第25条 企画委員の定数は、絵画3、版画2、彫刻2、工芸6、書芸3、グラフィックデザイン2、写真3名、計20名とする。

第26条 企画委員の任期は、2年とし、運営委員会において各部で選出する。その選出に当たっては委員の半数が交替することを原則とする。

## 第八章 審査及び陳列

第27条 公募作品は審査を行ない運営委員および運営委員長がその審査に当たる。

第28条 審査委員長は運営委員長がこれに当たる。

第29条 審査委員長は、運営委員会の協議による基本案をもとに審査方針をたて、審査を主導する。又審査を円滑に運ぶための決定権をもつ。

第30条 ① 作品の陳列は、各部門から部門別の陳列委員長を選出して行なう。

② 陳列委員長は、各部審査会終了と同時に選出する。

③ 陳列は各部陳列委員長の下に、若干名の陳列委員を置いて行なう。陳列委員は、陳列委員長の意向を参酌の上、会員・準会員の中から、審査会の席上で決める。

④ 陳列は陳列委員長の責任において行なう。

## 第九章 顧問及び客員

第31条 本会に顧問及び客員をおく。

本会の維持と発展に功績のあった人を顧問又は客員としておくことができる。

## 第十章 賛助会員

第32条 本会に賛助会員を置く。

第33条 賛助会員は運営委員会によって推挙されたもので、沖展に招待出品することができる。

1. 本会則は1971年2月9日より実施する。
2. 1984年4月3日改正
3. 1986年12月2日改正（第4条、第25条）
4. 2017年9月2日改正（第16条、第25条）





2017 年 4 月 2 日 撮影

協贊企業



爽快という。つまさ。

のんだあとはリサイクル



DRAFT BEER



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。オリオンビール株式会社  
妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。



e-no株式会社 (沖縄教育出版) は 第70回「沖展」を応援しています

玄米と発酵の良さに惹かれました  
子供や孫にも飲ませたい!

沖縄県 上原様 69歳

最近、毎朝スッキリ出ないのは

**食物繊維不足?**

- ☐ 最近、お腹の調子が...
- ☐ 野菜はあんまり食べてない...
- ☐ 薬より自然のものが良い...



「自然のものでなんとかしたい、無理はしたくない…」

玄米+発酵の力で  
**無理なく出る**

- ① 食物繊維が玄米の18倍!
- ② ビタミンが玄米の20倍! ミネラルも豊富!
- ③ 自然な甘みで毎日のおやつ代わりにピッタリ!



**少食な息子、食事の心配が解消!**

ほのかな甘みで子供でも食べやすく、息子はテレビを見ながらおやつがわりに食べています。少食で栄養面も心配でしたが「つぶつぶ元米」で食物繊維やミネラルなどの栄養も補えて、しかもお腹の調子も毎朝スッキリ!



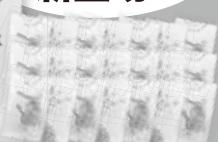
沖縄県 Tさん (ママ 36歳 / 息子 8歳)



顆粒タイプ



特別サイズ  
新登場!



げん まい  
**つぶつぶ元米 1箱**

**防腐剤 着色料 不使用** **すべて国産素材**  
まずは、1日1包から! (21包/約3週間分)

**一箱 1,300円** **初回特別 送料無料**

通話無料

**0120-430-961**

e-no株式会社

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志 1-2-24 6F  
受付時間: 午前9時~午後9時(日曜は休み)

お支払い方法: 商品受け取り後振込で代金引換。  
代金引換の場合、別途手数料 200円を頂戴いたします。  
個人情報の取り扱いについて/お客様の個人情報は、厳重管理のもとに保管し、個人情報保護に努めます。ご利用目的・商品発送の急、カテゴリー・CMの送付、お客様に有益と思われる情報提供などにご活用させていただく場合がございます。個人情報に関するお問い合わせは0120-430-961



# モンドセレクション受賞



金賞



金賞



金賞



銀賞



沖縄食糧株式会社

沖縄食糧

検索

## 沖縄の暮らしを豊かに。 株式会社 大川



大川家具  
グループ



アウトレット専売の  
TODAY O.K.

家具とインテリアの大型専門店  
THE GRACE

maxplus  
HOME FURNISHINGS STORE

R.O.K. 中古品  
代行販売

happy minutes

# KARIYUSHI HOTELS

<http://www.kariyushi.co.jp/>

7つのホテルでそれぞれの過ごし方…

かりゆしホテルズは、最高のおもてなしで皆様をお迎えします。



OKINAWA  
URBAN RESORT NAHA  
KARIYUSHI



OKINAWA  
BEACH RESORT OCEAN SPA  
KARIYUSHI



  
EXES  
Ishigakijima  
Okinawa



 OKINAWA  
KARIYUSHI LCH  
Izumizaki



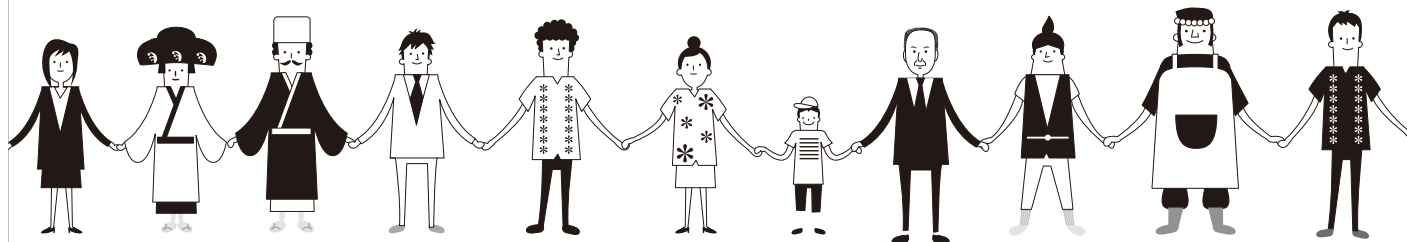
 OKINAWA  
KARIYUSHI LCH  
2nd  
Izumizaki



 OKINAWA  
KARIYUSHI LCH  
PREMIUM



人と人をつなぐ 幸せを、いつまでも。



## 光文堂コミュニケーションズ(株)

本 社 〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城577番地

企画総務部 TEL098-889-1121

営 業 部 TEL098-889-1131

東 京 支 店 〒102-0072 東京都千代田区九段南4-5-12

ABEビル6F TEL03-3239-8900

URL <http://www.kobundo.net>



ISO14001  
(環境システム、本社にて)  
認証取得

廣告

# 古美術 観宝堂

骨董品・美術品 誠実高価買入、無料鑑定も致します。  
お気軽に御相談下さい。

本 店 沖縄県那覇市松山1-23-1 (福州園正門前)  
TEL(098)863-2643 FAX(098)863-0583

東京店 東京都港区南青山4-23-6 (根津美術館横)  
TEL(03)3499-5056 FAX(03)6778-8173



祝  
70回沖縄展

書道

峰雲書道院 豊平 峰雲

沖縄県書作家協会木筆会会長

城間びんがた工房

代表 城間 栄 順

那覇市首里山川町 1-113  
(ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城東側)

電話 (098)885-9761

イベント会場設営・大型テント・レンタル

  
砂辺松福テント(株)

代表取締役 砂辺 昭 伸

ハナノ テントウヤ

本社 877-1028

<http://www.sunabe-tent.co.jp>

安心・安全を提供して49年!

これからも提供し続けます  
人とシステムでより確かな安心を



(株)琉球保安警備隊

代表取締役社長 宮里 和政

本 社 沖縄県沖縄市与儀1丁目7番5号 ☎098(983)8811

那覇営業所 沖縄県那覇市首里末吉町4-6-1 ☎098(887)1818

浦添営業所 沖縄県浦添市牧港1-64-15 ☎098(878)9065

うるま営業所 沖縄県うるま市字大田321 ☎098(975)0105

北部営業所 沖縄県名護市字田井等652番地1 ☎0980(58)3096

宮古営業所 沖縄県宮古島市平良字西里768-13 ☎0980(73)4650

# 芭蕉布織物工房

平 良 敏 子

大宜味村字喜如嘉1103

☎(0980)44-3202 FAX(0980)44-3251

シーサー各種

# 壺 屋 焼



## 湧田陶器

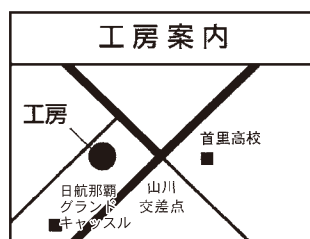
壺屋陶器事業協同組合会員

那覇市繁多川 5-23-25

Tel/098-853-5855

琉球紅型

# 玉那覇紅型工房



玉那覇 有 公

那覇市首里山川町1-66

☎ 884-1184

筆・墨・硯・紙・書道専門書  
裏打・表装・貸額

書道用品専門店

丸正

南風原町字新川 505-1

☎(098)851-3985 FAX(098)851-3986

美術品・文化財の梱包輸送

～引越のことなら日通～



〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-17-13

TEL(098)861-5151

FAX(098)861-5158

<http://www.ryukyu-logi.com>

オキジム

カメラ・プリント・写真撮影のことなら  
**カメラのモリヤマ**

受講者募集中

- 作品プリント ◦ カメラ女子教室
- 写真道場 ◦ 写真撮影ツアー

TEL:098-867-7368

◦ 写真・ビデオ  
出張撮影

Okinawa Media Art Center  
**OMac**  
沖縄メディア・アート・センター  
音と光の工房

TEL:098-862-1554

〒900-0034 沖縄県那覇市東町19-22  
<http://www.e-okinawa.co.jp/mips>

額縁のことなら

MS 合資会社 **前田額装商会**

代表者 前田 茂

〒900-0014  
 那覇市松尾2丁目7番地29号(浮島通り)

TEL (098) 867-4811

FAX (098) 861-0367

沖縄タイムスのご試読キャンペーンのご案内

沖縄タイムス **が7日間0円**

読んで試せる

**無料お試しキャンペーン!!**

本紙  
+  
副読紙

ほ〜むぶらざ(木曜日)  
 タイムス住宅新聞(金曜日)  
 ワラビー(日曜日)  
 らくら(偶数月第一日曜日)

ご試読された方には、  
**ワラビーグッズを  
 プレゼント!!**

お問い合わせ・お申し込みは

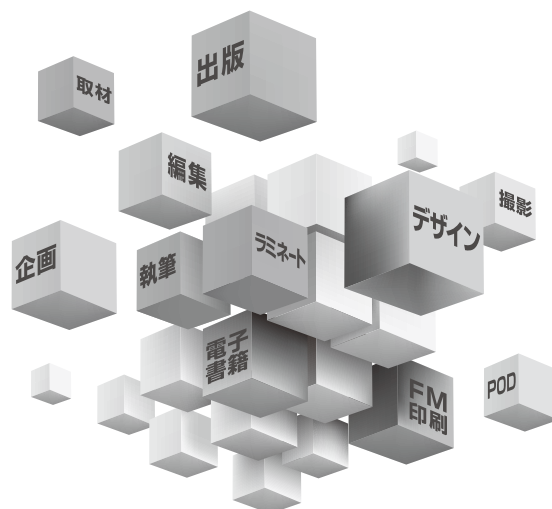
**0120-21-9674** (平日9:00~18:00)  
 FREE DIAL

**FAX:098-861-8661** (24時間受け付け)

 [hanbai@okinawatimes.co.jp](mailto:hanbai@okinawatimes.co.jp)



ひとつひとつの



想いをカタチに…



**〔株〕東洋企画印刷**

代表取締役 大城 孝

(株)東洋企画印刷はプライバシーマーク認定企業です。

デザイン・編集／印刷物の企画・立案／出版・印刷物の電子メディア化・取材・撮影  
FM 高精細印刷／ラミネート加工・オンデマンド印刷／出版セールスプロモーション



- 主 催 沖縄タイムス社
- 協 力 浦添市・浦添市教育委員会
- 協 賛 オリオンビール(株)・e-no(株)  
沖縄食糧(株)・(株)大川・(株)かりゆし  
光文堂コミュニケーションズ(株)
- 後 援 沖縄県・沖縄県教育委員会・琉球放送  
琉球朝日放送・NHK沖縄放送局  
エフエム沖縄

## 第70回 沖縄プログラム

定価 1,000円

(税込み)

■発行日：2018年3月

■印刷：株式会社 東洋企画印刷

発行 沖縄タイムス社 読者局文化事業本部

■表紙デザイン：岸本 一夫

■沖縄ロゴタイプデザイン：宮城 保武・我喜屋 明正

■写真撮影：LaLa Film's (ララフィルム)

### 【協力】

|       |        |       |       |
|-------|--------|-------|-------|
| 宮里 昌信 | 山内 盛博  | 喜名 盛勝 | 知念 良智 |
| 玉城 徳正 | 砂川 米市  | 渡名喜 清 | 仲本 清子 |
| 島元 智  | 城間 栄市  | 外間 修  | 宮城 守男 |
| 真栄城興茂 | 和宇慶むつみ |       |       |

### 【編集】

上間 正敦 海勢頭利江 美里 睦



この印刷物は個人情報保護マネジメントシステム  
(プライバシーマーク)を認証された事業者が印刷しています。



OKITEN 2018 EXHIBITION